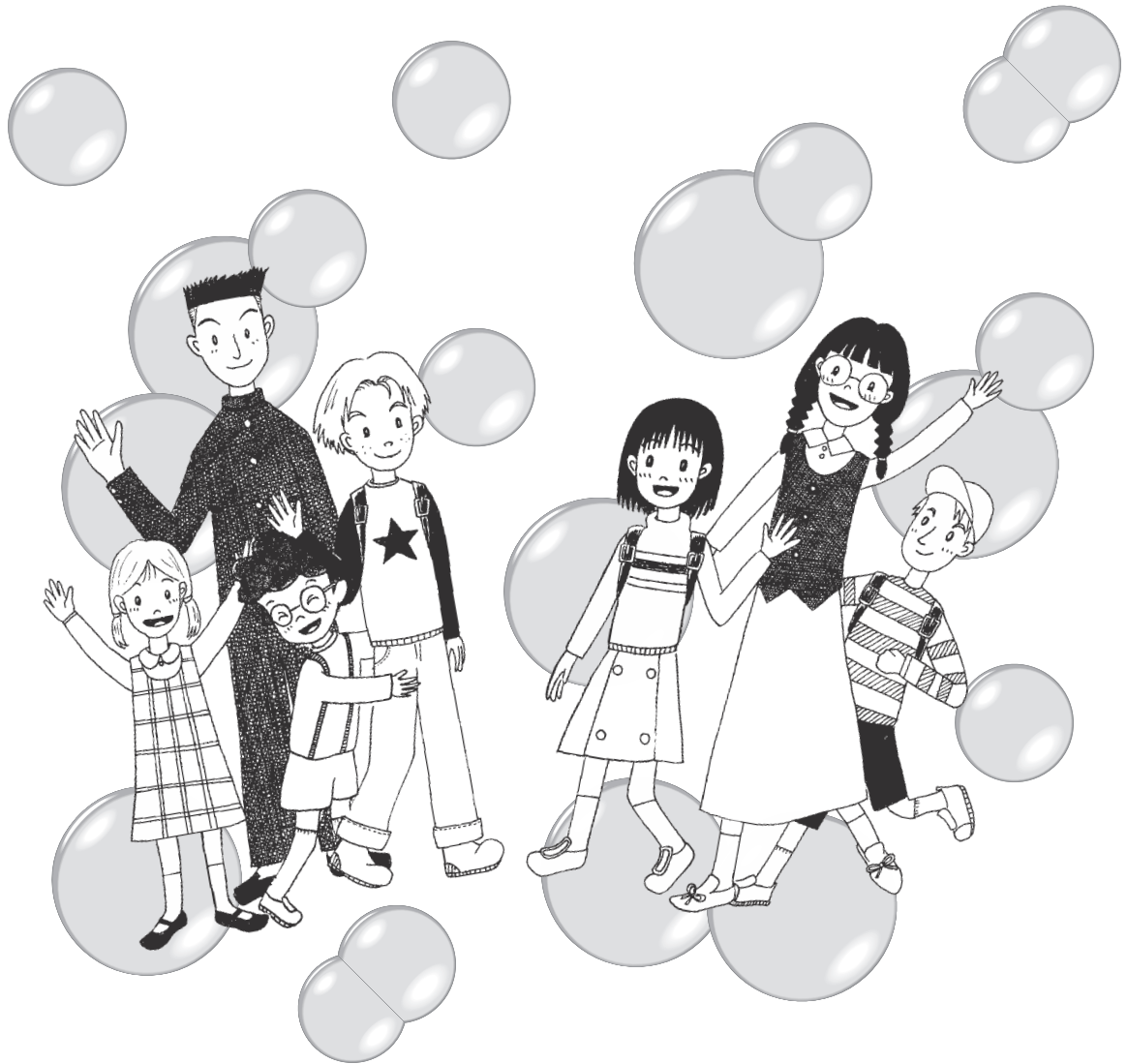


新版

いっしょに まなぼう

続 みえこさんの日本語

指導のアクセス



(公財) 三重県国際交流財団

新版

いっしょに まなぼう

続 みえこさんの日本語

指導のアクセス

(公財) 三重県国際交流財団

『続きえこ』を使って日本語を教える先生方へ

本書は、日本語テキスト『新版 いっしょに まなぼう 続 みえこさんの 日本語』（以下『続きえこ』）のための指導参考書です。先生方がこのテキストを使って日本語指導を行う際に、基礎的な知識・情報や、授業を工夫する手がかりを提供することを目的として執筆しました。

『続きえこ』には、先行テキスト『いっしょに まなぼう みえこさんの にほんご』（以下『みえこ』）があります。どちらのテキストも、日本語学習を必要とする子どもたちが、基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目標としています。加えて『続きえこ』では、子どもたちが自分の気持ちや考えをより細やかに表現したり、周囲の物事をより詳しく説明したりできることをめざしています。そのため、取り上げられる文法や語彙がはるかに拡がり、学習内容全体が徐々に複雑になっています。

「日本人なら日本語ぐらい教えられる」。そう思っていた方も、『続きえこ』の学習内容を目にすると、その気持ちが揺らぐかもしれません。日本語を教える時には、少なくとも、ことばの形のルール（文法）と、意味と、使い方のルールを教える必要があります。また、未知の日本語表現をわかりやすく導入し、実際に使えるように練習を工夫しなければなりません。実際のところ「日本人」（日本語母語話者）でも、何の勉強も準備もなしに教えることはかなり難しいことでしょう。

日本語指導に当たる先生は、日本語指導を専門とする方ばかりではないと思います。慣れない授業の準備は、思いのほか大きな負担となることでしょう。

本書では、初めて指導にあたる先生方にもできるだけわかりやすく、限られた時間内でも、最低限の基本事項は押さえられることを心がけて、解説を試みました。決してこれで十分とは言えませんが、授業前にテキストと本書を2つ並べて目を通しておくだけでも、負担は軽くなるのではないかと思います。

日本語の教室に集まってくる子どもたちのひとみは、みんなきらきらと輝いています。わからない日本語ばかりの生活の中であって、日本語授業の間は、日本語で先生と話が通じる貴重な時間です。先生は、ぜひ自信と笑顔を持って子どもたちを迎えてあげてください。本書が少しでもそのお力添えになれば幸いです。

2007年5月

著 者



『続きえこ』を使って日本語を教える先生方へ

第1部 テキストの概要と日本語指導の基礎知識

| | |
|---------------------------|----|
| 1. 『続きえこ』の概要 | 2 |
| ◇テキスト名の略称 | 2 |
| ◇『続きえこ』の構成 | 2 |
| ◇『続きえこ』の各課の構成 | 2 |
| ◇表記方法 | 3 |
| ◇学習対象者と学習レベル | 3 |
| ◇学習のペースとカリキュラム | 3 |
| 2. これだけは知っておいてほしいこと | 4 |
| ◇話しことばの指導 | 4 |
| ◇日本語授業のイメージ | 4 |
| ◇日本語授業の基本的な流れと組み立て | 4 |
| ◇日本語の基本的な文法 | 6 |
| 3. 学習文型の導入と「ぶんけいと いみ」の使い方 | 8 |
| ◇「ぶんけいと いみ」と脚注 | 8 |
| ◇教具の活用 | 9 |
| ◇動詞の活用形の導入方法 | 9 |
| 4. いろいろな練習方法 | 10 |
| ◇正確さのための練習 | 10 |
| ◇なめらかさのための練習 | 12 |
| 5. 「きほんの ことば」の使い方 | 15 |
| 6. 《会話》の扱い方 | 16 |
| ◇基本的な使い方 | 16 |
| ◇応用 | 16 |
| こんなときどうする？ | 17 |

第2部 各課の「文法のポイント解説」と「指導のヒント」

| | | |
|-------|-----|----|
| ステップ1 | 36か | 20 |
| | 37か | 22 |
| | 38か | 24 |
| | 39か | 26 |
| | 40か | 28 |
| ステップ2 | 41か | 30 |
| | 42か | 32 |
| | 43か | 34 |
| | 44か | 36 |
| | 45か | 38 |
| ステップ3 | 46か | 40 |
| | 47か | 42 |
| | 48か | 45 |
| | 49か | 47 |
| | 50か | 50 |
| ステップ4 | 51か | 53 |
| | 52か | 55 |
| | 53か | 57 |
| | 54か | 59 |
| | 55か | 61 |
| ステップ5 | 56か | 63 |
| | 57か | 65 |
| | 58か | 67 |
| | 59か | 69 |
| | 60か | 71 |
| ステップ6 | 61か | 74 |
| | 62か | 77 |
| | 63か | 79 |
| | 64か | 82 |
| | 65か | 85 |

| | |
|--------------|----|
| 【ちょっとさんぽ】の解説 | 87 |
|--------------|----|

| | |
|------|----|
| 参考文献 | 89 |
|------|----|

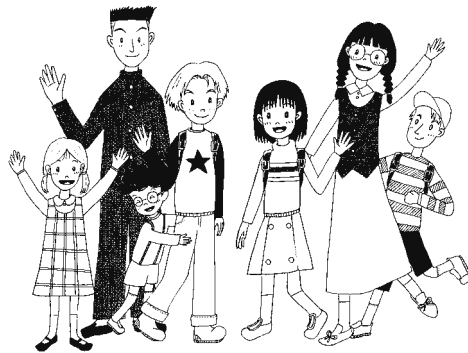
付 録

| | |
|--------|----|
| 学習項目一覧 | 92 |
|--------|----|

| | |
|-----------|----|
| 教科関連 絵カード | 94 |
|-----------|----|

— 第1部 —

テキストの概要と 日本語指導の基礎知識



第1部には、テキスト『新版 続 みえこさんの 日本語』のおおまかな内容と、日本語指導の進め方、そして、日本語指導に必要な基礎知識がまとめられています。

特に「2. これだけは知っておいてほしいこと」は、本書の第2部以降での説明の枠組みや前提となっています。

このテキストを初めて使われる方は、ぜひ一度は目を通しておいてください。

1. 『続きえこ』の概要

◇テキスト名の略称

本書では、2冊のテキストを各々、下記のように略称で呼んでいます。

『みえこさんの にほんご』 → 『みえこ』

『新版 続 みえこさんの 日本語』 → 『続きみえこ』

◇『続きみえこ』の構成

『続きみえこ』は、本課と付録からなっています。主な学習内容は下記の通りです（文法用語については、本書pp.6～8参照）。

| | | |
|-----|----------------|-----------------------|
| 本 課 | ステップ1 (36～40課) | 動詞の辞書形, ない形 |
| | ステップ2 (41～45課) | 動詞のて形, た形 |
| | ステップ3 (46～50課) | 普通形 |
| | ステップ4 (51～55課) | 普通形, 動詞の意向形, 命令形, 禁止形 |
| | ステップ5 (56～60課) | 自・他動詞, 授受表現 |
| | ステップ6 (61～65課) | 動詞のば形, 受身形, 可能形 |

| | |
|-----|-------------------------------|
| 付 録 | 「ぶんけいと いみ」(学習文型の6か国語訳) |
| | 「きほんの ことば」(基本動詞・形容詞のリスト6か国語版) |

『続きみえこ』の学習項目の提示順序は、やさしいものから難しいものへと配列され、ステップが上がるにしたがって難しくなっていきます。

また、課の配列には4月から翌年の3月へと1年間の季節の推移が考慮され、そこに学校行事や日本文化的要素が盛り込まれています。

子どもたちの日本語力に応じて、テキストの途中から学習し始めることはかまいませんが、できるだけ課の配列順序に沿って学習を進める方が望ましいでしょう。特に、ステップ間をとびこえて課を行ったり来たりするような進め方はしないでください。

◇『続きみえこ』の各課の構成

各課は、次のような構成になっています。

| | |
|----------|--|
| 1 ページ目 | 学習文型 (枠囲み) 《会話》 (学習文型を使ったモデル会話) 脚注 (学習文型のポルトガル語訳とスペイン語訳) |
| 2～3 ページ目 | 練習問題 |
| 4 ページ目以降 | 活用形のリスト (該当課のみ) |

◇表記方法

1) 漢字の使用について

『続みえこ』で使われている漢字は、基本的に、小学校学習指導要領・国語の学年別漢字配当表の第1学年・第2学年配当漢字（計240字）の中のものであります。それ以外は、ひらがな、またはカタカナで表記されています。

使用されたすべての漢字には、ふりがなが付けてあります。これは、このテキストが話しことばの学習を目的としており、漢字が読めないことによって口頭練習が中断されることなどのないように、という配慮からです。これらのふりがなは、すべて漢字の下に付けられています。もし、ふりがなを見ずに読んでみたいという希望がある場合、ふりがな部分を何かの紙で覆い隠して、これを下にずらしながら読み進めることができます。

なお、漢字学習については、市販教材にいろいろ工夫を重ねられたものがあります。巻末の参考文献一覧を参考に、別途そちらを利用してください。

2) 分かち書きについて

『続みえこ』では、次の例)のように、いわゆる国文法での「文節」をおおまかな単位として、1文字分ずつスペースを空けて表記しています（これを「^わ分かち書き」と言います）。

例) わたしは およぐ ことが できます。

その理由は、ひらがなやカタカナが続くと、意味的な区切れ目がわかりにくく、読むのが難しくなるためです。子どもがノートに書くときなどには、このような分かち書きは必要ありませんので、そのように指導してください。

◇学習対象者と学習レベル

『続みえこ』は、子どもが日本語を学ぶためのテキストです。主な学習対象者としては、おおよそ小学校中学年から高学年を想定していますが、その前後の子どもたちであっても、学習レベルさえ合っていれば問題はありません。

『続みえこ』のテキストの学習を始める時期は、ひらがなとカタカナがほぼ問題なく読め、『みえこ』の学習内容が大体定着した頃です。日本語教育の一般共通概念で言えば、初級前半が終わった頃です。

『続みえこ』で学ぶレベルは、初級中盤から後半です。このテキストでの学習が一通り終われば、いわゆる初級レベルの日本語力がほぼ身に付くこととなります。ここで言う日本語力とは、あくまでも基本的なコミュニケーションを行うための力であり、日本の学校や地域社会で先生や友だちなど周囲の人々となんとか意思疎通できるレベルです。

他方、教科学習に必要な日本語力は、学年や教科によって大きく異なり、それぞれに合わせて別途学ぶ必要があります。

◇学習のペースとカリキュラム

『続みえこ』は、1時間の授業（45分）で1課を終えるぐらいの学習ペースを標準としていません。目安としては、復習日も含めて1週間に2～3課ぐらいのペースで、1学期間で最後まで学べるように計画を立て、カリキュラムを組んでください。

日本語を学び始めた子どもたちが日本の学校や社会で安心して過ごすためには、できるだけ早

く日本語を習得することが必要とされています。そのため、このテキストの学習に1年以上かけていたのでは、学ぶ意味が薄くなってしまいます。遅くとも2学期間の終わりぐらいまでには、テキストの最後まで到達することをめざしてください。

テキストの序盤は、復習内容が多くてやさしく、クラスによっては速く進められる場合もあります。でも、中盤以降では、新しい学習事項や複雑なルールなどが増えてきますので、復習の日や時間を設けることが望ましいでしょう。

2. これだけは知っておいてほしいこと

◇話しことばの指導

『続みえこ』は、「話しことば」を学ぶためのテキストです。書きことばを学んだり、子どもに自習させたりするためのテキストではありません。日本語を使って、基本的なコミュニケーションができるようになることをめざしています。

授業では、先生と子どもたちで日本語をたくさん「話す」練習をしてください。「話す」といっても、目的のないおしゃべりをするものではありません。子どもの知らない日本語、知っていても不完全だったり、まちがっていたりする日本語の表現について、ルールを整理し、実際の場面で正しく使えるようにします。本書には、そのためにどのような指導や練習を行ったらいいか、いくつかのヒントが示されています。

『続みえこ』には練習問題がありますが、これにいきなり書き込むのではなく、十分に話す練習をした後にしてください。「書く」のは話せるようになってから、ということに留意してください。

◇日本語授業のイメージ

日本人（日本語母語話者）が「日本語の指導」や「日本語の授業」と聞くと、つい「国語の授業」をイメージしてしまうかもしれません。でも、実際にはむしろ「英語の授業」を思い浮かべた方が近いでしょう。たとえば、英語を母語とする外国人の先生が、授業中に英語だけを話し、英語で英語を教えるような授業です。日本語指導の場合は、英語の代わりに、日本語で日本語を教えることになります。

◇日本語授業の基本的な流れと組み立て

日本語の授業には、次のような基本的な流れがあります。

【文型導入】：その日に学習する文型の意味や使い方をわかりやすく示す。

↓

【正確さのための練習】：導入文型を使って、正確に話せるようになるための練習。

↓

【なめらかさのための練習】：導入文型を使って、相手や場面、目的などに合わせて適切に話せるようになるための練習。

この流れに基づくと、たとえば『続きえこ』51課の場合、図1のような授業の組み立てが考えられます。

51課の新出学習文型は、文型(1)[普通形+ので、～]と、文型(2)[普通形+のに、～]の2つです。まず文型(1)を導入し、練習による定着を確認してから、文型(2)を導入します。

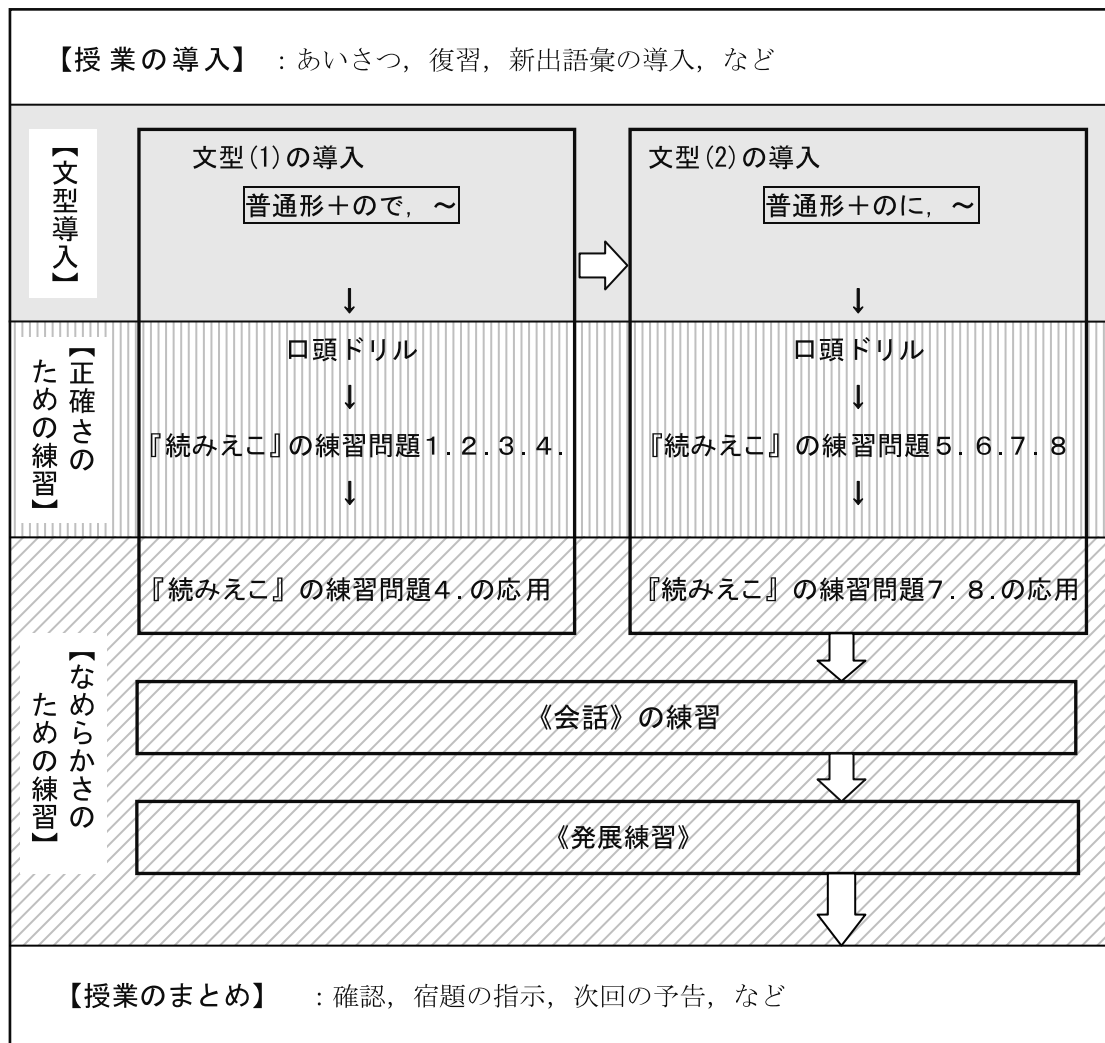


図1 日本語授業の組み立て例(『続きえこ』51課)



「正確さのための練習」は、必ず「なめらかさのための練習」の前に行います。各課の冒頭ページにある《会話》は、総合的な「なめらかさのための練習」として、新出学習文型をひとつおりに練習した後で学習してください。さらに余裕があれば、総合的な《発展練習》を行います。これらの練習方法には基本的なパターンがあり、本書pp.10~15に詳しい説明があります。

また、授業の初めと終わりには、各々【授業の導入】と【授業のまとめ】を行います。

【授業の導入】 : その日の学習に入るための準備段階。これまでの復習と、今日の学習で使う新しい語彙の意味などを確認しておく。

【授業のまとめ】 : その日の学習の整理段階。みんなの前で発表したり、小テストをしたりして、学習項目が正しく習得できているかを確認し、次回へつなげる。

◇日本語の基本的な文法

日本語を教える先生は、基本的な日本語の文法について知っておく必要がありますが、子どもは文法の専門家になる必要はありません。ちがいがわかれば十分なので、『続みえこ』では、ことばのグループのちがいについて、記号を使って示しています( や  など)。授業では、これらの記号を大いに利用してください。各国語訳については、『続みえこ』p.vの「ことばのグループ」を参照してください。

1) 動詞のグループ分け

『続みえこ』では、動詞を「グループ1」「グループ2」「グループ3」に分けています。

動詞のグループ分けは、動詞の活用形を学ぶ時に必要になります。グループのちがいを正しく区別できるようになるまで、何度も授業で注意をうながし、「きほんの ことば」の「動詞」ページ(『続みえこ』付録 pp.136~147) などを利用して復習してください。

グループ1 子どもには、「ます」の前が「い」段の音になることば、と教えます。



例) 「書^きます」「読^みます」「遊^びます」

国文法では「五段活用動詞」と呼ばれるものです。

グループ2 子どもには、「ます」の前が「え」段の音になることば、と教えます。



グループ2には、「ます」の前が「い」の段になる動詞もいくつか含まれます(「きほんの ことば」では#で示された語)。しかし、数が少ないので、例外として個別に教えてください。

例) 「寝^ねます」「食^べます」

「# 見^みます」「# 着^きます」

国文法では、各々「下一段活用動詞」「上一段活用動詞」と呼ばれるものです。

グループ3 子どもには、「します」と「来ます」だけ、と教えます。



ただし、「します」は「勉強^{けんきゆう}します」「掃除^{そうじ}します」など、「来ます」は「持^もってきます」「連^つれてきます」など複合動詞も含みます。

国文法では各々「サ行変格活用動詞」「カ行変格活用動詞」と呼ばれるものです。

2) 動詞の活用形

活用形の名称は、「ます形」や「て形」など、いわゆる国文法での呼び方とは異なるものがあります。これらは、日本語を学ぶ人にとってのなじみやすさから、決められたものです。

次のページの表1は、『続みえこ』で学ぶ動詞の主な活用形の一覧です。

表1 『続きえこ』で学ぶ動詞の主な活用形

| 活用形 (国文法での呼び方) | 学習課 | グループ1 | グループ2 | | グループ3 | |
|----------------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| ます形 (連用形) | 36 課* | 書きます | 食べます | 見ます | します | きます |
| 辞書形 (終止形) | 36 課 | 書く | 食べる | 見る | する | くる |
| ない形 (未然形) | 39 課 | 書かない | 食べない | 見ない | しない | こない |
| て形 (連用形) | 42 課* | 書いて | 食べて | 見て | して | きて |
| た形 (連用形) | 44 課 | 書いた | 食べた | 見た | した | きた |
| 意向形 (未然形) | 53 課 | 書こう | 食べよう | 見よう | しよう | こよう |
| 命令形 (命令形) | 55 課 | 書け | 食べろ | 見ろ | しろ | こい |
| 禁止形 (終止形) | 55 課 | 書くな | 食べるな | 見るな | するな | くるな |
| ば形 (仮定形) | 61 課 | 書けば | 食べれば | 見れば | すれば | くれば |
| 受身形 (未然形) | 63 課 | 書かれる | 食べられる | 見られる | される | こられる |
| 可能形 (可能形) | 64 課 | 書ける | 食べられる | 見られる | できる | こられる |

*『みえこ』で既習のもの

3) い形容詞・な形容詞・名詞

『続きえこ』では、形容詞を「い形容詞」と「な形容詞」のグループに分けています。

「きほんの ことば」の「形容詞」ページ(『続きえこ』付録 pp.136~147)を参照してください。

い形容詞 **い** うしろに名詞が来る時に「～い±名詞」という形になることばです。
例) 「大きいい本」「やさしいい子」
国文法では、単に「形容詞」と呼ばれるものです。


な形容詞 **な** うしろに名詞が来る時に「～な±名詞」という形になることばです。
例) 「便利な本」「元気な子」
国文法では、「形容動詞」と呼ばれるものです。

なお、「きれい」と「きれい」は、な形容詞です。い形容詞と紛らわしいので、特に注意してください(「きほんの ことば」では*で示されています)。


め は、[名詞+です/だ]の文型に付けられています。
例) 「本めです」「雨めだ」

4) 丁寧体と普通体

日本語を使って話す時、クラスでの発表場面や、先生など目上の人、また初対面の人との会話ではていねいな話し方(「丁寧体」)をします。他方、同じ内容を伝える場合でも、友だちや家族との会話ではくだけた話し方(「普通体」)をします。丁寧体と普通体は、このような会話の文

体（スタイル）のちがいをさします。『続みえこ』では、普通体の表現には  が付けられています。

例1) 図書室はどこにありますか。(丁寧体)

例2) 図書室はどこにある？ (普通体) 

子どもといえども、日本の社会や文化では、両方を使い分けることが期待されています。使う状況を誤ると、悪い印象を与えたり、逆に自分の能力を低く評価されたりすることもあります。

日本人（日本語母語話者）には、一見、普通体の方が簡単なように思えるでしょう。でも実は、丁寧体の活用形は単純で、学習も容易です。また丁寧体は、使ったときに相手に失礼な感じを与えません。これらの理由から、日本語指導では一般に丁寧体から教えます。

『続みえこ』では、46課までは基本的に丁寧体の定着をはかり、47課で普通体をまとめて学びます。それ以降は、《会話》においては、丁寧体・普通体ともに取り上げられるようになります。ただし、練習問題では、丁寧体を基本としています。

5) 丁寧形と普通形

「丁寧体」「普通体」とは別に、ことばのグループには「丁寧形」「普通形」があります。丁寧形と普通形は、ことばの形のちがいをいうもので、文末だけでなく、各種の文型の中にも埋め込まれて使われます。たとえば、次の例3)は[～から、～]、例4)は[～と思います]という文型に、それぞれ丁寧形と普通形が埋め込まれています。

例3) 熱がありましたから、休みました。(38課) (←下線は丁寧形、文体は丁寧体)

例4) あしたは晴れると思います。(47課) (←下線は普通形、文体は丁寧体)

特に『続みえこ』の後半では、普通形を埋め込んだ文型をたくさん学びます。『続みえこ』付録の「学習項目一覧」(pp.148～149)を参照してください。

3. 学習文型の導入と「ぶんけいと いみ」の使い方

各学習文型の具体的な導入方法については、本書第2部の各課「指導のヒント」に説明があります。ここでは、共通する事柄について説明しておきます。

◇「ぶんけいと いみ」と脚注

『続みえこ』では、各課に2～3の新出学習文型が割り当てられています。テキスト各課の冒頭に枠囲みで示されているものです。

『続みえこ』付録の「ぶんけいと いみ」(pp.128～135)には、この学習文型を6か国語へ翻訳したものを掲載しました。特にポルトガル語訳とスペイン語訳については、テキスト各課の最初のページにも、同じ翻訳文が脚注として掲載してあります。

もし、クラスにこれら6か国語のいずれかを母語とする子どもがいて、それが読める場合には、学習文型を導入する際に、ぜひこの翻訳文を各自に読ませてください。文型の意味を知ってから学習を始めると、格段に理解が進み、導入も楽になるからです。

◇教具の活用

文型導入は、文型の意味や使い方を理解させるだけでなく、子どもの学習意欲を高めるためにも大切な役割を果たします。口頭で説明するだけでなく、ジェスチャーを使ったり、実物や絵カード、紙人形などの教具を使って、わかりやすく導入できるよう、工夫してみてください。

絵カードは、市販のものもありますし、自分で描いたり、『続きえこ』の絵などを拡大コピーして作ることもできます。

紙人形は、『続きえこ』に出てくる子どもの絵をそれぞれ準備し、割り箸を付けると簡単に作れます。この紙人形は、『会話』の導入にも便利です。



◇動詞の活用形の導入方法

動詞の活用形を導入したり、それを練習したりする時は、次の順序で行います。

「グループ2」→「グループ1」→「グループ3」

その理由は、「グループ2」の方が「グループ1」より形が単純で、各活用形の作り方のルールも簡単だからです（※同じ理由で、「グループ2」→「グループ3」→「グループ1」の順序で行う教授法もありますが、『続きえこ』では基本的に前者の方針を取っています）。

特に、「グループ1」を導入する時、ひらがなの五十音図を用意しておくこと、視覚的にわかりやすく便利です。辞書形（36課）を例にとると、次のような手順になります。

(1) 「グループ2」：作り方のルール（「ます」を取って、「る」を付ける）を説明し、ます形から辞書形へ変える変換練習をする。

例) 食べます → 食べる 見ます → 見る

(2) 「グループ1」：

①ます形は、「ます」の前が、「い」の段の音になっていることを確認する。

②辞書形は、「い」の段を「う」の段の音に変えることを確認する。

③ます形から辞書形へ変える変換練習をする。

例) 書ぎます → 書く 読みます → 読む

(3) 「グループ3」：「します」→「する」、「きます」→「くる」を説明し、ます形から辞書形へ変える口頭練習をする。

(4) 3つのグループの動詞を混ぜ、順不同で、ます形から辞書形へ変える変換練習をする。

なお、各活用形の作り方は、ステップ1～3では「ます形」を元にして、新しい活用形（「辞書形」「ない形」など）を作ります。

ステップ4～6（51課以降）では、「辞書形」を元にして作ります。

詳しい作り方は、本書第2部にある各課の「文法のポイント解説」を参照してください。

4. いろいろな練習方法

各課で学習する文型や活用形を導入した後で、それを正しく定着させるために、「正確さのための練習」をします。それから、学習した文型を使って実際にコミュニケーションができるようになることを目標に、「なめらかさのための練習」を行います。

◇正確さのための練習

文型や活用形を正確に練習する際に、口頭によるドリルはたいへん有意義な方法であり、基本的なものとしては、以下のような7つのドリルがあります。『続きえこ』の各課の練習問題は、これらのドリルを行うことを前提として作られています。まず、このような口頭によるドリルを十分行い、文型や活用形を正しく覚えます。練習問題に書き込むのは、すらすら言えるようになってからにしてください。

なお、このようなドリルは、文型や活用形を習得するのに欠かせない大切な練習である一方、機械的な練習になりがちです。いろいろなドリルを組み合わせたり、教具を利用したりして、子どもが飽きないように、工夫する必要があります。

1) 繰り返しドリル

先生が言ったとおりに、子どもが繰り返して言う練習で、いちばん基本的なドリルです。新しい語彙や文型などを導入する際に有効です（以下、▶は、『続きえこ』各課の練習問題の番号を示す。また、Tは先生、Sは子どもを示す）。

例) 『続きえこ』36課の▶1.

T₁: わたしは野球ができます。 → S₁: わたしは野球ができます。
T₂: わたしはサッカーができません。 → S₂: わたしはサッカーができません。

2) 代入ドリル

まず、先生が基本文型の例文を提示してから、キュー（入れ替えるための語句）を与え、子どもがそのキューを代入して、文を作るドリルです（以下、キューを〈 〉で示す）。キューの提示は、口頭（音声）で与えるのが一般的です。加えて、絵カード、写真カード、文字カード、実物などを見せながら行くと、子どもにわかりやすく、ドリルに変化を持たせることができます。

動詞や形容詞のキューは、テキストの練習問題などに載っているものだけでは不十分です。『続きえこ』pp.136~147の「きほんのことば」なども利用して、練習してください。

例) 『続きえこ』36課の▶1.

T₁: わたしは野球ができます。 → S₁: わたしは野球ができます。(繰り返し)
T₂: 〈サッカー〉 → S₂: わたしはサッカーができます。
T₃: 〈バスケットボール〉 → S₃: わたしはバスケットボールができます。

3) 変換ドリル

一定の規則に基づいて、キューを変換するドリルです。さまざまな活用形の練習や、文末の形を変換して疑問文や否定文などを作ったりする練習に使われます。

例) 『読みえこ』 36課の▶ 2.

T₁: <見ます> 見ることができます → S₁: 見ることができます (繰り返し)
T₂: <食べます> → S₂: 食べることができます
T₃: <借ります> → S₃: 借りることができます

4) 付加ドリル

繰り返しドリルをするのが難しい、長文の練習に使われるドリルです。文末から文頭へと、キューを加えながら、長い文を話す練習をします。

例) 『読みえこ』 38課の▶ 1.

T₁: <言います> → S₁: 言います。
T₂: <「行ってきます」と> → S₂: 「行ってきます」と言います。
T₃: <行くとき> → S₃: 行くとき、「行ってきます」と言います。
T₄: <学校へ> → S₄: 学校へ行くとき、「行ってきます」と言います。

5) 結合ドリル

接続助詞などを使って、2つの文を1つの文に結合するドリルです。文の前件と後件の関係が理解できるように、同時に2枚の絵カードを提示するなど、工夫するといいいでしょう。

例) 『読みえこ』 37課の▶ 5. (『読みえこ』 p.10を見ながら)

T₁: <春になります> <桜が咲きます> 春になると、桜が咲きます。
S₁: 春になると、桜が咲きます。(繰り返し)
T₂: <夏になります> <プールで泳ぐことができます>
S₂: 夏になると、プールで泳ぐことができます。

6) 完成ドリル

先生が文の前半か後半のみを与えて、子どもが文を完成させるドリルです。

例) 『読みえこ』 36課の▶ 4.

T₁: <わたしは日本語を> わたしは日本語を話すことができます。
S₁: わたしは日本語を話すことができます。(繰り返し)
T₂: <わたしはかたかなを>
S₂: わたしはかたかなを書くことができます。

7) 質問応答ドリル

先生の質問に対して、子どもが答えるドリルです。たとえば、「はい」「いいえ」など、答え方を先生が決め、子どもはその指示に従って答えます。

例 1) 『読みえこ』 36課の▶ 3.

T₁: あなたは笛を吹くことができますか。(『○カード』を見せる)
S₁: はい、できます。
T₂: あなたは泳ぐことができますか。(『×カード』を見せる)
S₂: いいえ、できません。



このほかに、絵などを見ながら、先生が質問し、子どもが、その絵に沿って答えるようなドリルもできます。

例2) 『読みえこ』43課の▶ 1. (テキストの絵を見ながら)

T₁: みえこさんはめがねをかけていますか。

S₁: いいえ、かけていません。

T₂: ルイスさんは帽子をかぶっていますか。

S₂: はい、かぶっています。

なお、先生が一人ひとりに質問し、子どもが自分自身について答えるような質問応答は、次に取り上げる「なめらかさのための練習」になります。

8) 応用

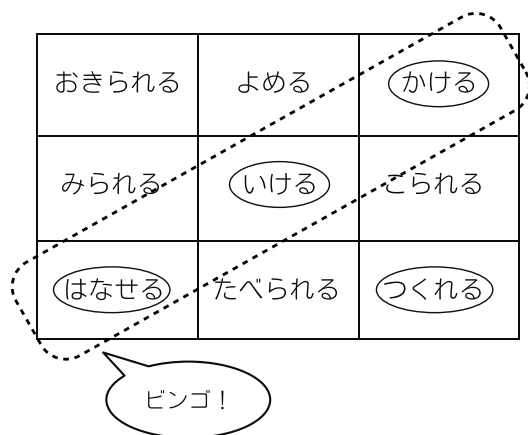
以上のようなドリルのほかに、いろいろなゲームを通して、語彙や文型の定着をはかることができます。たとえば、以下のような、「カルタ取り」や「ビンゴゲーム」、「伝言ゲーム」などがあります。ゲームには、たいてい勝ち負けの要素が含まれているので、学習意欲を高めるのに効果的です。

例1) 動詞の「カルタ取り」

カルタの表に動詞の〈ます形〉、裏に〈辞書形〉を書いておき、〈ます形〉を上にしてカルタを並べ、先生がその中の一枚を読み上げます。子どもはそれを見つけ、〈辞書形〉で言うことができれば、カルタがもらえます。最後にたくさんカルタを集めることができた人が勝ちです。〈ない形〉や〈て形〉などを言うようにしてもいいでしょう。

例2) 可能形の「ビンゴゲーム」

3×3マスの枠を書いた紙を一枚ずつ子どもに配り、先生が「書く」「見る」「来る」などの動詞の辞書形を九つ言います。子どもは、それらを聞きながらそれぞれ可能形に変えて、好きなマスに書きます。全部書き終わったら、先生がもう一度動詞の辞書形を言い、子どもはその動詞の可能形を『○』で囲みます。早くビンゴになった(『○』が縦か横か斜めに、それぞれ一列に並ぶ)子どもが勝ちとなります。



例3) 「伝言ゲーム」

文を最後まで間違いなく伝える練習です。伝聞を表す「～そうです」「～って」(『読みえこ』62課)の練習などにも使うことができます。

◇なめらかさのための練習

「正確さのための練習」を通して文型がすらすら正確に言えるようになっても、それだけでは不十分です。学習した文型を使って、実際にいろいろな場面で会話ができるようになるために、以下のような「なめらかさのための練習」を行います。

ロールプレイやタスクなどは、《会話》を学習した後で、発展練習として行うといいでしょう。学習意欲を高めるためにも効果的なので、いろいろ工夫してみてください。

1) 自由応答練習

「正確さのための練習」の質問応答ドリルでは、先生の質問に対して、子どもは、先生が決めた通りに答えなければなりません。これに対して、「なめらかさのための練習」では、先生が一人ひとりに質問し、子どもは、学習した文型を使って、自分自身のことについて自由に答えます。「いつ」「どこ」「だれ」などの疑問詞を使った質問も有効です。子ども同士で質問応答練習をしてもいいでしょう。

例1) 37課の▶ 4. の応用練習

T: Aさんは何になりたいですか。

A: わたしは医者になりたいです。

このほかに、写真などを見ながら、練習することもできます。

例2) 『続みえこ』43課の《会話》の発展練習

(Aさんの家族の写真を見ながら)

T: この人はだれですか。

A: わたしのおばさんです。中学校で英語を教えています。

2) ロールプレイ

学習した文型が使えるような会話の場面、およびAとBの役割(ロール)を設定し、ロールカードに書いておきます。子どもにカードを渡して、それぞれの役割を与え、必要と思われる語彙を導入してから、会話練習をします。

例) [~ほうがいいです]と[~んです]を使ったロールプレイ

(『続みえこ』50課の《会話》の発展練習)

- ①保健室での、AとBの役割を書いたロールカードを用意します。二人一組にして、それぞれにカードを渡し、役割を与えます。

Aのロールカード例

あなたは、ほけん室の先生です。びょう気の子どもに「~ほうがいいです」をつかって、話します。

Bのロールカード例

あなたはびょう気です。きょうの体いくは水えいです。ほけん室に行って、先生にそうだんします。

- ②『続みえこ』p.13の下を見て、病気やけがに関する語彙を復習したり、新しい語彙を導入したりします。

- ③以下のような会話練習をします。

(会話例)

A: どうしたんですか。

B: 頭がいたいんです。

A: ちょっと熱を計ってください。

B：はい。(熱を計る)
 A：少し熱がありますね。
 B：先生、きょうの体育は水泳なんです。泳いでもいいですか。
 A：熱がありますから、泳がないほうがいいですよ。
 B：はい、わかりました。

- ④時間があれば、AとBのロールカードを交換して役割を交代し、同様の練習をします。
 ⑤最後に、クラスの前で発表します。

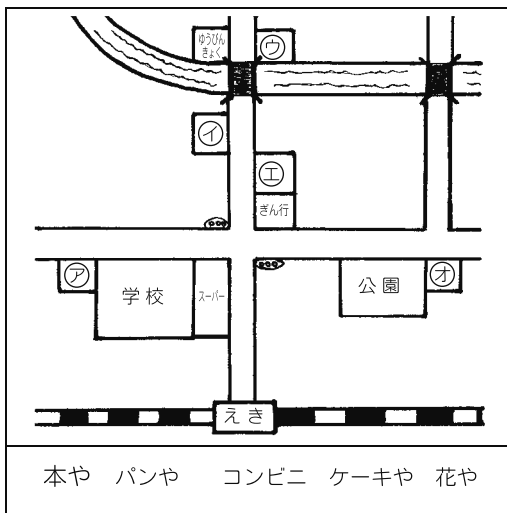
3) タスク

ある目的を設定し、それを達成するために、二人一組やグループで行う作業をタスクといいます。学習した文型を使って、より現実的な会話練習を行うことができます。子どもの中に、情報の差をつけておくこと（Aは情報を知らないが、Bは情報を知っている）が、一つのポイントになります。

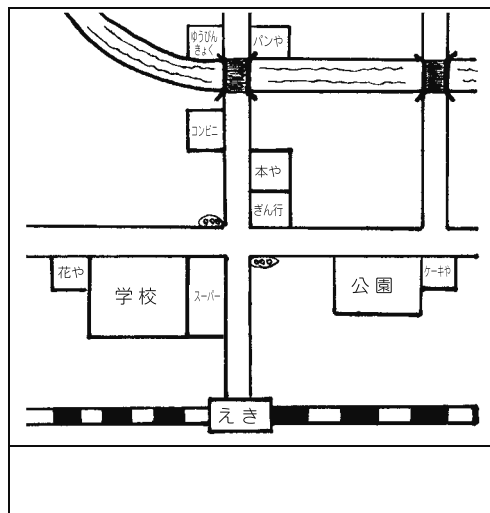
例1) [～と、～]を使ったタスク（『読みえこ』37課《会話》の発展練習）

- ①簡単な地図を描き、Aのシートには㊶㊷㊸…と番号を書き、Bのシートには店の名前を書いておきます。

Aのタスクシート



Bのタスクシート



- ②子どもを二人一組にして、それぞれに、AとBのタスクシートを配布します。
 ③道案内に必要な「角」「信号」「交差点」「右／左へ曲がります」「道／橋を渡ります」などの語彙を導入します。
 ④地図を見て、以下のような会話をしながら、Bはいろいろな店への行き方を説明し、Aはそれを聞いて、何番が何の店かを記入していきます。

(会話例)

A：本屋はどこですか。
 B：駅からまっすぐ行くと、交差点があります。
 A：はい。
 B：交差点を渡ると、右に銀行があります。
 A：はい。

B：本屋は銀行の隣りです。

⑤Aは㊦に「本や」と書きます。全部書けたら、最後に、答えを確かめます。

例2) [～たことがあります] を使ったタスク (『続みえこ』44課《会話》の発展練習)

①ワークシートを配布し、子ども同士で、お互いに下記のようなインタビューをして、情報を集めます。

Q：**さんは、新幹線に乗ったことがありますか。

{ A₁：はい、乗ったことがあります (とても速かったです)。
A₂：いいえ、乗ったことはありません。

②質問しながら、答えが「はい」だったら『○』、「いいえ」だったら『×』を、ワークシートに書き入れていきます。㊦と㊧は、各自で考えた質問をします。

③書き終わったら、一人ずつ「**さんは新幹線に乗ったことがあります」のように、自分が集めた情報をクラスで発表します。

Aさんのワークシート例

| | Bさん | Cさん | Dさん | Eさん |
|-------------|-----|-----|-----|-----|
| ㊦ 新かん線にのります | ○ | | | |
| ㊧ パンダを見ます | × | | | |
| ㊨ 海でおよぎます | | | | |
| ㊩ | | | | |
| ㊪ | | | | |

4) プロジェクト・ワーク

子どもが、自分たちで相談しながら行う総合的な学習活動です。子どもの関心に合わせて、いろいろなプロジェクト・ワークを授業に取り入れてみてください。なお、詳しいことは、『プロジェクト・ワーク』日本語教育研究会資料シリーズ編集委員会編：1988)を参照してください。

例) 『続みえこ』58課の《会話》の発展練習としてのプロジェクトワーク

『続みえこ』58課の《会話》のお別れ会のように、実際に何かの会の計画を立てます。それを実行するために、どんな準備が必要で、だれが何をしておくかなどを、グループごとに日本語を使って相談しながら決めていきます。

5. 「きほんのことば」の使い方

「きほんのことば」は、『続みえこ』のpp.136～147に付録として掲載してあります。日常、子どもがよく使うと思われる基本的な動詞と形容詞を取り上げ、それぞれにポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、タガログ語、タイ語の訳語を付けています。

動詞は合計81語が、五十音順に並べてあります。形容詞は58語で、基本的には五十音順になっていますが、「明るい」「暗い」などのように対になっているものは、並べて示してあります。

『続みえこ』には各課の語彙の翻訳はありませんが、この「きほんのことば」を簡単な辞書として使うことができます。このページを、表に動詞、裏に形容詞の両面コピーにして、一人ずつに配布しておき、いつも授業に持って来るようにすると、使いやすいでしょう。

また、本書pp.10～11の「4. いろいろな練習方法」にある「代入ドリル」や「変換ドリル」のキュー（先生が子どもに与える語句）としても利用できます。できれば、「きほんのことば」の語句を絵カードや文字カードにしておく、ドリルなどに便利です。

6. 《会話》の扱い方

各課の最初のページには《会話》があり、その課で学習する文型表現を使って、実際的な場面における会話を提示しています。この《会話》は、文型の学習が終わった後で、会話練習の教材として使うためのものです。授業の初めに読むことはしないでください。

◇基本的な使い方

基本的な使い方は、下記のような手順です。

- ①子どもにテキストを見せずに、先生が《会話》を読み聞かせます。この時、《会話》に登場する先生や子ども（みえこ、トムなど）の紙人形を利用すると、わかりやすいでしょう。（紙人形の作り方は、本書p.9を参照してください）
- ②先生が子どもに質問しながら、場面や内容が理解できているかどうかを確認します。それから、先生の後について、一文ずつ、子どもが繰り返して言います。
- ③クラス全体で、《会話》の中の登場人物（先生やみえこ、トムなど）の役割練習をします。子どもを登場人物ごとのグループに分けて、暗記して言えるようになるまで、口頭練習を十分行います。その後で、グループや二人一組にして、さらに役割練習をし、最後にみんなの前で発表します。

◇応用

上記のような基本的な使い方のほかに、以下のように応用して使うこともできます。

1) 聞き取り練習

《会話》の一部を消して穴埋め問題を作り、子どもに配布します。つぎに、先生が《会話》を読み上げ、子どもが空欄に答えを書き込みます。一回目はゆっくり文を区切りながら読み、書く時間を取ります。二回目は、すこし速めに続けて読みます。最後に、答えを確認します。

2) ゲーム

たとえば、《会話》をコピーしたものをバラバラに切って、大きめの封筒に入れておきます。子どもが封筒から一枚ずつ紙片を取り出し、会話を復元していきます。二人一組になって話し合いながら進めてもいいでしょう。

こんなときどうする？

Q : ポルトガル語など、子どもの母語がわからなくて不安です。

A : 『続きえこ』では、なるべく基本的でよく使う語句を優先的に学ぶように配慮されています。ジェスチャー、実物、絵カード、紙人形などを使ったり、『続きえこ』の付録の「ぶんけいといみ」や「きほんのことば」を利用してみてください。授業でよく使うことばは、「文字カード」などを作って、裏に訳語を書いておくと便利です。

Q : 授業時間をもてあましてしまいます。

A : テキストを読んで、練習問題に書き込むという授業では、すぐに終わってしまいます。理解はできても、身には付きません。いわゆる「わかるけど、話せない」という状態です。本書pp.4～5の「授業の流れと組み立て」やpp.10～15の「いろいろな練習方法」を参考に、各種の口頭練習を組み込んでみてください。

Q : どのくらいまで授業の内容をふくらませたいのでしょうか。

A : 先生としては、テキストの《会話》を見れば、関連する教科の内容を取り入れたいと思うことでしょう。でも、実際のところ、本書p.5のような授業の組み立てをすれば、余裕の時間はほとんどないはずです。文型の学習には難易度の順序がありますので、むやみに新しい文型を増やすことはおすすめできません。簡単にふくらませるとすれば、語彙のレベルでしょう。教科に出てくることばを口頭ドリルの入れ替え語句に使ったり、各種の「なめらかさのための練習」の場面で使ったりできます。

Q : 「正確さのための練習」をしても、なかなか正確に言えません。

A : すぐに全部正しく覚えられなくてもかまいません。もちろん正しく覚えるのが望ましいのですが、それにこだわりすぎて学習意欲を失ってしまうと残念です。「正確さのための練習」は、「なめらかさのための練習」の口慣らしでもあります。だいたい言えるようになったら、「なめらかさのための練習」に移ってもいいでしょう。気長に、形式を変えながら反復練習してください。

Q : まちがいを直すと、やる気を失ってしまうのですが。

A : 「正確さのための練習」は、正しい形を覚えることが目的ですから、まちがえたら、できるだけその場で正しい形を教えて反復させてください。そして、うまく言えたら、しっかりほめてあげてください。他方「なめらかさのための練習」では、まちがいは先生がメモなどに控えておき、練習が終わった後で、まとめてフィードバックします。これは、会話練習の流れを止めないためです。

Q : 授業中にゲームをやると、子どもたちは遊んでしまうようですが。

A : ゲームをする目的は、楽しく練習するためだけでなく、できるかぎり自然な状況で日本語を使う機会を作ることでもあります。成人の日本語教育の中でも、ゲームはよく取り入れられています。何を学ぶためのゲームかという目的を先生が心得ておき、必要なことばなどを導入しておくことが重要です。勝手なおしゃべりを始めたり、間延びして退屈したりしないように、ある程度緊張感のあるうちに練習を切り上げてください。そして最後には必ず、まとめやフィードバックの時間を設けてください。

Q : クラスでの授業ではなく、個人指導なのですが。

A : 個人指導でも、授業の流れや組み立ては、基本的にクラスでの授業の場合と同じです。大きく違うのは、子どもの練習相手が先生しかいないことです。そのため、口頭練習に変化をつけにくく、時間も早く終わってしまいがちです。対策としては、絵カードや文字カードなどの教具を変えて変化を持たせたり、紙人形などを使って架空の会話練習相手を想定したりします。他方、子どもに合わせた練習ができるという利点があります。「なめらかさのための練習」に十分時間を取ることもできるでしょう。

Q : 子どもが「文法なんか勉強したくない」というのですが。

A : 日本語の文法を知ることが、楽譜の読み方を知ることにも似ています。ルールを知れば、応用の可能性が広がります。本書p.6にも述べたとおり、子どもが文法の専門家になる必要はありません。先生が一方的に説明するばかりでなく、例をいくつか挙げて、子どもといっしょにルールを考えてみるといいでしょう。先に習った文法が、どこに隠れているか（埋め込まれているか）を探してみることも、子どもの興味をひきます。

— 第2部 —

各課の「文法のポイント解説」 と「指導のヒント」

第2部には、『続きえこ』の各課について、「文法のポイント解説」と「指導のヒント」が挙げられています。

文法のポイント解説

日本語指導の際に、最低限知っておいてほしい内容がまとめられています。そのままクラスで説明するのではなく、まずは先生の知識の引き出しに入れてください。

指導のヒント

上記の「文法のポイント解説」で解説された文型や活用形ごとに、導入の方法や、テキストの練習問題の扱い方が示されています。

▶で示された番号： テキストの練習問題に対応

①(応用)： テキストには掲載されていない応用練習のヒント

《会話》： 各課1ページ目にあるモデル会話の解説と扱い方

ここでの解説は、指導の流れの順序に沿っていますので、この順序に従って指導していけば、基本的な授業の組み立てができあがることとなります。もちろん「ヒント」ですので、ぜひ、それぞれの先生で工夫を重ねてください。

なお、口頭ドリル（正確さのための練習）については当然行うべきものなので、ここでは解説が省略されています。本書pp.10～12を参考に工夫しながら、必ず行うようにしてください。



36か



1. 能力を表す「できます」を使い、自分ができることやできないことが表現できる。
2. 動詞の〈辞書形〉を作ることができる。



文法のポイント解説

(1) わたしは バasketボールが できます。

名詞+が できます

「できます」には次のような2つの意味があります。

- ①能力：「私はBasketボールができます」のように、ある行為を行う能力があるかどうかを表す。
- ②可能性：「体育館でBasketボールができます」のように、ある行為を実現することが可能であるかどうかを表す。

この課では、①の能力を表す用法のみに限定し、②の可能性を表す用法については、『続きえこ』64課で取り上げています。

名詞の部分には、スポーツ名のほかに、楽器や料理、外国語などを用います。名詞の後ろの助詞は「を」ではなく、「が」になります。間違えやすいので、注意してください。なお、「できます」はグループ2動詞の例外扱いなので、〈辞書形〉は「できる」になります。

(2) わたしは およぐ ことが できます。

動詞〈辞書形〉+ことが できます

動詞〈辞書形〉の作り方

グループ2：〈ます形〉の「ます」を取って、「る」を付ける。

グループ1：〈ます形〉の「ます」の前にある「い」段の音を、「う」段の音に変えて、「ます」を取る。

グループ3：します→する きます→くる

[名詞+ができます]の文型で、名詞の代わりに動詞を使う場合は、〈辞書形〉に「こと」をつけて名詞化します。動詞〈辞書形〉は子どもたちが普通体の会話の中で、「～ます」の代わりによく使う形です。基本となる活用形なので、繰り返し練習して定着させてください。

[動詞〈辞書形〉+ことができます]も①能力と②可能性を表しますが、[名詞+ができます]と同様に、ここでは①の能力に関する表現のみを扱っています。なお、動詞の部分に使えるのは「書きます」「食べます」「来ます」など、人が意思を持って行う動作を表す動詞だけです。「あります」「わかります」などはこの表現が使えないので、注意してください。

能力や可能性は、動詞〈可能形〉(「書けます」「食べられます」「来られます」など)を使っても表わすことができますが、これについては『続きえこ』64課で取り上げています。



指導のヒント

(1) 名詞+が できます

【文型導入】(『○カード』『×カード』を準備。本書p.11参照)

T: (ジェスチャー, またはサッカーの絵を見せて) (『○カード』を見せる) できます。私はサッカーができます。

(ジェスチャー, またはサッカーの絵を見せて) (『×カード』を見せる) できません。私はサッカーができません。

- ▶ 1. 得意なことや苦手なことについて, [名詞+が できます] を使って表現する練習です。

○応用 先生と子ども, または子ども同士で, 「**さんは～ができますか」と聞き, 「はい, できます」「いいえ, できません」で答えます。

(2) 動詞〈辞書形〉+ことが できます

【文型導入】(『○カード』『×カード』を準備。)

T: (ジェスチャー, または泳ぐ絵を見せて) 10メートル泳ぎます。(『○カード』を見せる) できます。私は10メートル泳ぐことができます。

(ジェスチャー, または泳ぐ絵を見せて) 100メートル泳ぎます。(『×カード』を見せる) できません。私は100メートル泳ぐことができません。

【活用形の導入】まず, 動詞のグループ1, 2, 3のちがいを説明します(本書p.6参照)。次に, 『続みえこ』p.6の活用形リストで, 〈辞書形〉の作り方の説明と練習を行います。

- ▶ 2. [動詞〈辞書形〉+ことが できます] を作る練習です。まず, 〈辞書形〉と[～ことができます]の口頭練習をします。

- ▶ 3. ある行為ができるかどうかを答える問答形式の練習です。答え方は簡潔な「はい, できます」「いいえ, できません」を使います。

○応用 子どもに同じような質問をしてみてください。その場合は, 「あなた」の代わりに「**さん」を使います。子ども同士でも練習するといいいでしょう。

- ▶ 4. いろいろな動詞を使って, 「私は～ことができます/できません」の文を作る練習です。

○応用 自分ができること, できないことについて話し合ってみましょう。

《会話》

1. 教室で, 得意なことや苦手なことについて話している場面です。体育や音楽だけでなく, 算数の計算, 家庭科の料理やさまざまな遊びなどにまで話題を広げることにより, 発展練習ができます。家族について話してもいいでしょう。[～が好きです/きらいです/じょうずです/へたです]などの既習の文型もいっしょに使ってみてください。





37か



1. 「なります」を使って、人や物事の状態の変化が表現できる。
2. 条件を表す「～と」を使って、前件が成立すると、必然的に後件の事柄が成立することを説明できる。



文法のポイント解説

(1) エリカさんは にほんごが じょうずに になりました。(『続みえこ』p.7の文型(2)を見る)

| | | |
|------------------|---------|--------------|
| い形容詞 <～い> → <～く> | } +なります | (※「いい」→「よく」) |
| な形容詞 <～な> → <～に> | | |
| 名詞+ に | | |

「なります」は人や物の状態の変化を表します。形容詞や名詞を「なります」といっしょに使う場合、い形容詞は「い」を「く」に変え、な形容詞と名詞は「に」を付け加えます(※「いい」は「よく」)。基本的に、形容詞を副詞として使う時は、同様のルールに従います。

「なります」のほかに「します」を使って変化を表現することもできますが、「なります」が自然発生的な変化を表すのに対し、「します」は人による意図的な変化を表します。

(2) はるに になると、あたたかく になります。(『続みえこ』p.7の文型(1)を見る)

動詞 <辞書形> +と, ～

[動詞 <辞書形> +と, ～] は条件を表す表現で、前件が成立すると、必然的に後件の状態や行為が成立することを説明する文型です。特に、電気製品や機械の使い方を説明したり、道を教えたりする場面などでよく用いられます。また、算数や理科の教科書の説明文にも出てきます。[動詞 <ない形> +と, ～] の形もありますが、ここでは扱っていません。

後件の文末には、[～たいです] のように話す人の意志を示す表現や、[～てください] [～ましょう] のように相手に対する働きかけを示す表現は使うことができないので、注意してください。[～と, ～た(過去)] は、前件の事実が成立した後で、すでに後件が成立していることを表し、予想外の事柄が起きた場合などに使われますが、ここでは取り上げていません。

例) 窓を開けると、雪でした。

[～と, ～] 以外に条件を表す表現としては、[～たら, ～] (『続みえこ』45課)や [～ば, ～] (『続みえこ』61課) などの文型があります。



指導のヒント

(1) **～なります** (『続みえこ』 p.7 の文型 (2) を見る)

【文型導入】

T: 今、教室は明るいです。(電気を消す) 暗いです。教室が暗くなりました。(電気をつける) 明るいです。教室が明るくなりました。

(机の上に、紙くずを置く) 汚いです。(紙くずを捨ててから、机の上を指す) きれいです。机の上がきれいになりました。

Aさんは何年生ですか。

A: 私は～年生です。

T: Aさんは今～年生です。来年(4月から)は～年生です。Aさんは来年(4月から)～年生になります。

▶ 1. [い形容詞: ～なります/くなりました] を使って、変化を表現する練習です。

いろいろな形容詞を使って練習を行ってください。

▶ 2. [な形容詞: ～なります/くなりました] を使って、▶ 1. と同様の練習をします。

▶ 3. [名詞: ～なります/くなりました] を使って、▶ 1. と同様の練習をします。

応用 ▶ 1, 2, 3 の右側の絵だけ見て、言ってみます。

▶ 4. ▶ 3. の応用練習です。いろいろな職業名を確認してから、「**さんは何になりたいですか」と子どもに質問をしてみてください。子ども同士でも、お互いに質問応答練習をするといいでしょう。

(2) **動詞〈辞書形〉+と、～** (『続みえこ』 p.7 の文型 (1) を見る)

【文型導入】 (『続みえこ』 p.10 で、日本の四季を確認する)

T: 春になります。桜が咲きます。春になると、桜が咲きます。

(テレビのスイッチを押す。テレビがない場合は、教室の電気のスイッチを押す)

スイッチを押します。テレビがつきます。スイッチを押すと、テレビがつきます。

(もう一度スイッチを押す) スイッチを押します。テレビが消えます。スイッチを押すと、テレビが消えます。

【活用形の復習】 動詞のグループや〈辞書形〉の復習を行います。

▶ 5. [～と、～] を使って、文の前半が成立すると、必然的に後半の状態や行為が成立することを説明する練習です。[～なります] の応用練習も兼ねているので、『○』にどんな文字が入るか注意をうながしてください。

《会話》

1. 日本での生活、日本語、進級等について話している場面です。『続みえこ』 p.10 の絵などを見ながら、学習した文型を使って、話題を広げてみてください。簡単な道順や身近な物の使い方の手順などを説明したりしてもいいでしょう。



38か



1. 「～とき」を使って、どんな時に後件の事柄が成立するかを説明できる。
2. 理由を表す「～から」を使って、どうして後件の事柄が成立するかを説明できる。



文法のポイント解説

(1) へやに はいるとき、「しつれいします」と います。

| | |
|-----------|----------|
| 動詞 〈～辞書形〉 | } +とき, ~ |
| い形容詞 〈～い〉 | |
| な形容詞 〈～な〉 | |
| 名詞+ の | |

後件の事柄が成立する「時」を表す文型です。動詞は〈辞書形〉だけではなく、〈ない形〉や〈た形〉を使うこともできますが、ここでは扱っていません。

時制は後件の文末の形によって決まります。

例1) 電車に乗るとき、自分で切符を買います。(現在)

例2) きのう、電車に乗るとき、自分で切符を買いました。(過去)

なお、[動詞〈辞書形〉+とき, ~] と [動詞〈た形〉+とき, ~] の違いは、現在か過去かという時制の違いではなく、行為がまだ完了していないか、あるいはもう完了したかの違いになります。

例3) ごはんを食べるとき、「いただきます」と言います。(未完了)

例4) ごはんを食べたとき、「ごちそうさま」と言います。(完了)

[形容詞/名詞 +とき, ~] については、後件の時制が過去の場合、以下の例5)のように「とき」の前の時制も過去形にして「～たとき」に変える用法と、例6)のように変えない用法がありますが、ここでは例6)の用法のみを扱っています。

例5) 小さかったとき、日本へ来ました。

例6) 小さいとき、日本へ来ました。

(2) ねつが ありましたから、やすみました。

丁寧形+から, ~ (理由)

後件の事柄が成立する「理由」を、はっきり伝えたい時に使う文型です。後件には[～たいです]のように話す人の意志を表す表現や、[～てください][～ましょう]のように相手に対する働きかけを表す表現がよく使われます。

「から」の前に普通形を使うこともできますが、普通形の学習は『読みえこ』47課からになります。したがって、ここでは[丁寧形+から, ~]の文型を指導してください。[～から, ~]以外に理由を表す表現としては[～ので, ~] (『読みえこ』51課) や [～て, ~] などの文型があります。



指導のヒント

(1) ～とき、～

【文型導入】(給食が始まる時間を言う)

T: 12時〇分です。給食を食べます。給食を食べるとき、「いただきます」と言います。

(机を揺する) 地震です。地震のとき、机の下に入ります。

【活用形の復習】動詞のグループや〈辞書形〉の復習を行います。

- ▶ 1. [動詞：～とき、～] を使って、ある状態になったり動作が行われたりするの、どんな時かを説明する練習です。
- ▶ 2. [い形容詞：～とき、～] を使って、▶ 1. と同様の練習をします。
- ▶ 3. [な形容詞：～とき、～] を使って、▶ 1. と同様の練習をします。
- ▶ 4. [名詞：～とき、～] を使って、▶ 1. と同様の練習をします。
- ▶ 5. [～とき、～] の文を完成させます。動詞、形容詞、名詞の練習文が順不同に提示されているので、注意してください。

(2) 丁寧形+から、～ (理由)

【文型導入】(先生とエリカの紙人形を準備)

先生：エリカさんは漢字がわかりますか。

エリカ：いいえ、わかりません。漢字がわかりませんから、勉強します。

(先生とヒトシの紙人形を準備)

先生：ヒトシさん、どうしましたか。

ヒトシ：おなかがいたいです。おなかがいたいですから、保健室へ行きます。

- ▶ 6. [～から、～] を使って、ある動作を行う、または行った理由を説明する練習です。前半の理由を表す文は、動詞、形容詞、名詞の順番に提示してあります。
- ▶ 7. ▶ 6. と同様の練習です。前件の理由と後件の動作をつないで、一文にします。
① 応用 前件を先生が言い、後件を子どもが考えます。□の中の体の症状を表す表現も、使ってみてください。

《会話》

1. 欠席した理由を説明したり、欠席する場合の連絡について話したりしている場面です。子どもに「～とき、どうしますか」と質問をしながら、いろいろ話してみてください。
2. 職員室で、あいさつについて話している場面です。「～とき、何と言いますか」「何をしますか」など、さらにいろいろな質問をして、話題を広げるといいでしょう。





39か



1. 相手に、ある行為を行わないように働きかけることができる。
2. 相手から指示されたことが理解できる。
3. 動詞の〈ない形〉を作ることができる。



文法のポイント解説

(1) ちこくしないで ください。

動詞 〈ない形〉 + で ください

動詞 〈ない形〉 の作り方

グループ 2 : 〈ます形〉の「ます」を取って、「ない」を付ける。

グループ 1 : 〈ます形〉の「ます」の前にある「い」段の音を、「あ」段の音に変える。
「ます」を「ない」に変える。(※～います→～わない, あります→ない)

グループ 3 : します→しない きます→こない

動詞 〈ない形〉は、子どもが普通体の会話の中で「～ません」の代わりに使う形です。繰り返し練習して定着させるようにしてください。

『みえこ』で学習した [～てください] の文型は、相手にある行為をするように指示したり頼んだりする表現です。これに対し、[～ないでください] の文型は、相手にある行為をしないように指示したり頼んだりする表現です。特に、「～ないで」の形で、先生が子どもに指示を出す時などによく使われます。

相手に依頼する時は、「すみませんが、～ないでください」の形で使うように指導するといいでしょう。さらにていねいな表現としては「～ないでもらえませんか」「～ないでくれませんか」などがあります。なお、強い否定の指示を出す時は〈禁止形〉を使いますが、これについては『続みえこ』55課で学習します。

(2) しずかに しなさい。

動詞 〈～ます〉 + なさい

一般の日本語のテキストでは、あまり取り上げられない文型ですが、学校の場面ではよく使われる表現です。目上の人から目下の人に、あるいは先生から子ども、親から子どもに対して、ある行為をするように指示を出す時に使われますが、子どもも、動物に対して「やめなさい」等の指示を出す時などに使います。

[～なさい] は、「～てください」や「～て」より強い指示を表します。さらに強い指示を出す時は〈命令形〉を使いますが、これについては〈禁止形〉と共に『続みえこ』55課で学習します。



指導のヒント

(1) 動詞〈ない形〉＋で ください

【文型導入】（先生とみえこの紙人形を準備）

みえこ：おはようございます。

先生：もう9時です。遅刻ですよ。遅刻しないでください。

【活用形の導入】『続みえこ』p.17の活用形リストで、〈ない形〉の作り方の説明と練習を行います。

- ▶ 1. [動詞〈ない形〉＋で ください] を作る練習です。まず、〈ない形〉と [～ないで ください] の口頭練習をします。
- ▶ 2. [～ないで ください] を使って、ある動作をしないように指示する練習です。線でつないで、文を完成させます。
- ▶ 3. 絵を見て、「～ないで ください」「～ないで」の文を作る練習です。

(2) 動詞〈～まず〉＋なさい

【文型導入】（先生とトムの紙人形を準備）

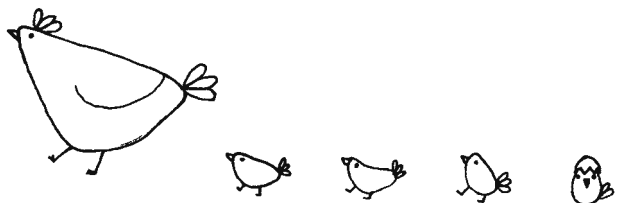
先生：トムさん、もう4時ですよ。早く帰りなさい。

トム：はい。先生、さようなら。

- ▶ 4. 動詞〈ます形〉から、[～なさい] の形を作る練習です。
応用 「立ちなさい」など、先生がある動作をするように指示を出し、子どもは実際にその指示に従って動きます。子どもの一人が先生役になり、ほかの子どもに対して指示を出すようにしてもいいでしょう。

《会話》

1. 授業中、先生が子どもにさまざまな注意をしている場面です。教室や図書室、また駅や動物園などで、してはいけないことや、しなければならないことを考えながら、会話練習をします。既習の文型を使って、「ここで～てもいいですか」などの質問をし、それに対して、いろいろな指示を出しながら、話を進めていくといいでしょう。





40か



1. ある行為を行う義務や必要があることを説明できる。
2. ある行為を行う義務や必要がないことを説明できる。



文法のポイント解説

(1) べんきょうしなければ いけません。

動詞 〈～ない〉 + なければ なりません

ある行為を行う義務や必要があることを表す表現です。相手や自分の行為について言及する場合にも使いますが、主に一般的な行為について述べる場合に使われます。

文末の「なりません」の代わりに「いけません」を使うこともできます。会話の中では、「なりません」も「いけません」も省略されることがあります。「～なければなりませんか」という質問に対する否定の答えは、「いいえ、～なくてもいいです」となります。

(2) べんきょうしないと (いけません)。

動詞 〈ない形〉 + と (いけません)

[～なければなりません]と同じく、ある行為を行う義務や必要があることを表す表現です。口語的なので、相手や自分の行為について言及する場合によく使われます。文末の「いけません」は、会話の中ではしばしば省略されます。省略した場合、動詞〈ない形〉に「と」を付け加えるだけなので、覚えやすい文型です。

同じような表現に[～なくてはなりません][～なくてはいけません]があります。さらに口語的な表現としては、「～なきゃ」「～なくちゃ」などが使われます。

(3) べんきょうしなくても いいです。

動詞 〈～ない〉 + なくても いいです

ある行為を行う義務や必要がないことを表す表現です。相手や自分の行為、および一般的な行為について述べる場合に使われます。『みえこ』で学習した[～てもいいです]が相手に行う行為を行う許可を与える表現であるのに対し、[～なくてもいいです]は相手が行為を行わないことを認める表現です。



指導のヒント

(1) **動詞 〈～ない〉 + なければ なりません**

【文型導入】

T: きょうは宿題があります。みえこさんは友だちと遊んでいます。宿題をしません。いいですか、いけませんか。

S: いけません。

T: 宿題をしません。いけません。宿題をしなければなりません。

【活用形の復習】〈ない形〉の復習を行います。

▶ 1. 動詞〈ない形〉から、左側の [～なければなりません] を作る練習をします。

(2) 動詞〈ない形〉 + と (いけません)

【文型導入】

T: きょうは宿題があります。

{ 宿題をしなければなりません。
宿題をしないといけません。
宿題をしないと。

(上記の文を板書して、「3つの文は同じ意味です」と言う)

(3) 動詞〈～ない〉 + なくても いいです

【文型導入】

T: きょうは宿題がありません。宿題をしません。いいですか、いけませんか。

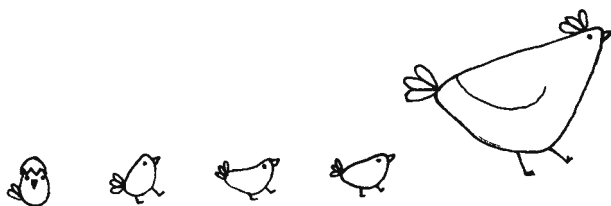
S: いいです。

T: 宿題をしません。いいです。宿題をしなくてもいいです。

- ▶ 1. 動詞〈ない形〉から、右側の [～なくてもいいです] を作る練習をします。
- ▶ 2. [～なければなりません] と [～ないと (いけません)] を使って、ある動作を行う義務や必要があることを説明する練習と、[～なくてもいいです] を使って、その義務や必要がないことを説明する練習です。
- ▶ 3. ▶ 2. と同じ文型ですが、普通体で話す練習をします。
- ▶ 4. 疑問詞を使った問答形式の練習です。
応用 いろいろな疑問詞を使って、子どもに質問をしてみてください。
- ▶ 5. 普通体を使った会話練習です。

《会話》

1. 作文の締め切りやテストについて話している場面です。学校や家庭でしなければならないことや、しなくてもいいことなどについて話すといいでしょう。





4 | か



1. ほかに人に行動をうながしたり、自分から行動を申し出たりすることができる。
2. 同時に行われる2つの動作について「～ながら～」を使って表現できる。



文法のポイント解説

(1) きょうかしょの 34ページを ひらきましょう。

動詞 〈～まず〉 + ましょう

元々は、聞き手に行動を誘いかける表現です。そこから派生して、聞き手に対して行動をうながしたり、指示する意味があります。[～てください] よりも、やわらかい表現です。

動詞 〈～まず〉 + ましょうか

ここでは「話し手が、聞き手にとっていいこと（聞き手に利益が生じる行為）をしようとして自分から申し出る」という用法を学習します。この申し出を受ける時は「はい、お願いします」、断る時は「いいえ、大丈夫です」や「いいえ、けっこうです」と言います。

この文型には [～ましょう] と同様に、話し手が聞き手に対して誘いかける用法もあります。[～ましょうか] の方が、[～ましょう] よりも間接的で丁寧な表現になります。

(2) てほんを よく みながら れんしゅうして ください。

動詞 〈～まず〉 + ながら～

同時平行的に行う2つの動作を表します。[動詞₁ながら動詞₂] の場合、動詞₂が主な動作で、動詞₁は副次的な動作になります。

★ **動詞 〈～まず〉 + した**

文型ではなく、「～をする方法」という意味の名詞句表現です。

「する」は「し方」となりますが、「やる」から作る「やり方」も同様に使いますので、いっしょに教えてください。



指導のヒント

(1) **動詞 〈～まず〉 + ましょう**

【文型導入】（ブックカバーを付けて表紙が見えないようにした本を準備。これを遠くに置く）

T：あそこに本があります。何の本ですか。Aさん、見たいですか。

A：見たいです。

T：私も見たいです。いっしょに見ましょう。

- ▶ 1. [～ましょう] の形を作る練習です。
- ▶ 2. [～ましょう] を使って、聞き手に行動をうながす練習です。

動詞〈～まず〉＋ましょうか

【文型導入】（先生とエリカの紙人形を準備）

先生：今日は風が強いですね。あー、プリントが飛びます！

エリカ：先生、窓を閉めましょうか。

- ▶ 3. 先生に対して、[～ましょうか] を使って申し出る練習です。

(2) 動詞〈～まず〉＋ながら～

【文型導入】（『続みえこ』 p.25の絵を見せる）

T：みえこさんは店でソフトクリームを買いました。うちまで歩きます。うちは遠いです。

ソフトクリームはとけますね。みえこさんは、ソフトクリームを食べます。

みえこさんは、ソフトクリームを食べながら歩きます。

- ▶ 4. [～ながら～] を使って話す練習です。1) ～4) は、テキストの絵を見て、同時に行う行為をそれぞれ確認した後で、[～ながら～] の文を作ってください。
- ▶ 5. [～ながら～] を使って文を完成させる練習です。先に文の後半部分（右半分）を読んだから、文の前半部分（左半分）を読むとわかりやすいでしょう。

★ 動詞〈～まず〉＋かた

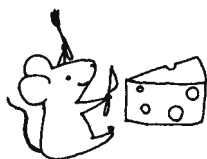
【導入】（折り紙のツル、エリカとまりこの紙人形を準備）

T：エリカさんは折り紙でツルを折りたいです。どうやって折りますか。わかりません。でもまりこさんはわかります。まりこさんは折り方がわかります。まりこさんはエリカさんに、ツルの折り方を教えます。

- ▶ 6. [～かた] を使って話す練習です。1) 2) 5) は助詞「を」の前（目的格）で使う場合、3) 4) は助詞「が」の前（主格）で使う場合の練習になっています。

《会話》

1. 書写の時間に、先生が子どもに練習をうながしている場面です。習字セットの道具を使いながら、[～かた] や [～ましょう] の練習をしてみるといいでしょう。
2. 子どもが先生に、片付けの手伝いを申し出る場面です。文化によっては、他人（先生）の片付けは自分の仕事ではないと考える場合もあります。無理強いせず、手伝ってもらおうと先生はうれしいという気持ちを伝えてください。教室内に限らず、街中での状況（おじいさんの自転車がパンクして困っているなど）でも、申し出の練習してみてください。





42か



1. 日常生活で生じる行動を、順を追って説明することができる。
2. 人や物の性格や特徴などについて、簡単な描写説明ができる。
3. 逆接の接続助詞「が」を使うことで、長い文による表現ができる。



文法のポイント解説

(1) でんしゃに のって、よっかいちへ 行って、プラネタリウムを みました。

動詞〈て形〉による接続

二つ以上の動作が続いて生じるとき、その動作が起こる順に、動詞〈て形〉を並べて表現します。時制は、文末の動詞の形で決まります。〈て形〉の作り方は、『みえこ』で学習済みです。しかし、形の作り方のルールが複雑なため、『続みえこ』では再度この課で取り上げています。

動詞〈て形〉の作り方

グループ 2 : ~ます→~て

| | | | | | |
|----------|------|---------|------|---------|----------|
| グループ 1 : | ~います | } → ~って | ~みます | } → ~んで | ~きます→~いて |
| | ~ちます | | ~びます | | ~ぎます→~いで |
| | ~ります | | ~にます | | ~します→~して |

(※行きます→行って)

グループ 3 : します→して きます→きて

なお、動詞〈て形〉による接続はいくつの動詞でも可能ですが、長く続けすぎると聞き手に幼稚な印象を与えます。せいぜい三つの動詞の接続にとどめるように指導してください。それ以上の場合はいったん文を句点（「。」）で切り、接続詞「それから」を使ってつなぎます。

(2) とても きれいで、おもしろかったです。

い形容詞 〈~い〉 → 〈~くて〉

な形容詞 〈~な〉 → 〈~で〉

名詞+ で

い形容詞、な形容詞、名詞でつないで文を作る形です。

い形容詞は「~い」を「~くて」に変え、な形容詞と名詞は「で」を付け加えます（※「いい」は「よくて」になります）。時制は、文末の形で決まります。

(3) トマトは きれいですが、もう いちど あらって ください。

逆接の接続助詞「が」

対立的な二つの事柄を結びつけるときに用いる接続助詞です。この課では基本的に、前件と後件の事柄に関する評価が対立する場合を取り上げています。接続助詞「が」には、ほかにも

前置きを表す用法（『続みえこ』50課参照）や、言いよどみの場合があります（言いよどみは、『続みえこ』では扱いません）。

例1) 漢字がわからないんですが、教えてください。（前置き）

例2) よくわからないので教えてくださいなんですが。（言いよどみ）

また、普通形の後に「が」を続けることもできますが、普通形の学習は『続みえこ』47課になります。したがって、ここでは基本的に「丁寧形+が」の文型を指導してください。



指導のヒント

(1) 動詞〈て形〉による接続

【活用形の復習】『続みえこ』p.35の活用形リストで、〈て形〉の作り方のルールを確認します。

▶ 1. 動詞〈ます形〉から、〈て形〉を正しく作る練習（復習）です。

【文型導入】（「おきます」「食べます」「登校します」を示す絵を3枚黒板に貼り、順に時間を書く。▶ 2. の例文参照）

T: みえこさんは、6時に起きます。7時に朝ご飯を食べます。7時半に登校します。

みえこさんは、6時に起きて、朝ご飯を食べて、登校します。

▶ 2. 動詞〈て形〉を使って、動作を順序立てて説明する表現の練習です。

(2) い形容詞〈～て〉, な形容詞〈～で〉, 名詞+で

【文型導入】（アイスクリームの絵を見せながら）

T: アイスクリームは冷たいです。甘いです。アイスクリームは冷たくて、甘いです。

▶ 3. [い形容詞〈～て〉], [な形容詞〈～で〉], [名詞+で] の形を正しく作る練習です。

▶ 4. [い形容詞〈～て〉] をつないで、文を作る練習です。

▶ 5. [な形容詞〈～で〉] の形をつないで、文を作る練習です。

▶ 6. [名詞+で] の形をつないで、文を作る練習です。

▶ 7. 家族の様子や性格を表現する練習です。いくつかの特徴を、「～て」や「～で」を使って一文で表現するようにうながしてください。

(3) 逆接の接続助詞「が」

【文型導入】（空のクッキーの箱を用意）

T: (箱を見せて) これはクッキーの箱です。でも、(ふたを開けて空であることを見せて) クッキーはありません。これはクッキーの箱ですが、クッキーはありません。

▶ 8. 逆接の接続詞「が」を使って、二文を一文にする練習です。

② **応用** 前件を先生が言い、後件を子どもが考えます。

《会話》

1. 動詞〈て形〉の接続を使って、ルイスが先生に連休中にしたことを順に話している場面です。子どもが、休日にしたことについて順を追って話してみるといいでしょう。

2. 調理実習で先生が手順を説明している場面です。他のメニューの作り方や、理科の実験、体操、母国での遊びなど、いろいろな手順を説明してみましょう。『続みえこ』p.40の【ちょっとさんぽ】②も発展練習として使えます。



43か



1. 人や物の様子や状態について説明することができる。
2. 2つの行為の時間的な前後関係について「～てから」を使って表現できる。



文法のポイント解説

(1) きれいな ピアスを しています。

動詞〈て形〉+います

この文型は、動詞の種類によって表される意味がちがいます。基本的には2種あります。

- ①継続：動作や作用を表す動詞を用いて、その動作／作用が継続中であることを表す。
- ②結果の状態：ある動作／作用が生じた結果、その状態が続いていることを表す。

上記①は、すでに『みえこ』で学習済みです。この43課では、基本的に②の意味について学習します。ただし、「着ている」「(手を)あげている」などの動詞の場合は、①と②両方の意味がありますので、注意してください。

②の用法を詳しく見ると、さらに次のような意味のちがいがあります。

- a) 同じ行為が長期間くり返されることを表す（「通っている」「売っている」など）。
- b) 人の職業や身分を表す（「勤めている」「結婚している」など）。

a) の中でも特に、「知る」「持つ」「住む」などの動詞は、現在の状態を表す時には基本的にいつも「～ています」の形で使われます（※「知っています」の否定形は特例で、「知っていません」ではなく「知りません」となります）。

また、②の用法のうち、瞬間的な作用の結果から生じた状態を表す場合（「(ボタンが)とれています」「(靴下が)やぶれています」など）は、自動詞と密接な関係があります。これは、『続みえこ』57課でまとめて学習します。

「動詞〈て形〉+います」は、話しことばでは、よく省略形（「動詞〈て形〉+ます」または「動詞〈て形〉+る」）になります。『続みえこ』では、43課の▶5. での例文提示だけです。これらの3つの文型が同じであることを説明してください。

(2) トレイを とってから、フォークを とって ください。

動詞₁〈て形〉+から、動詞₂

この文型は、2つの行為の時間的な前後関係を表します。動詞〈て形〉による接続とよく似ていますが、「動詞₁〈て形〉+から、動詞₂」では特に、前件の行為（動詞₁）の完了後に後件の行為（動詞₂）が行われることを強調します。時制は、文末（後件の動詞₂）の形によって決まります。なお、2つの行為の前後関係が明らかに決まっていることについては、「～てから、～」は使わず、動詞〈て形〉による接続を使います。

- 例) 電車に乗ってから、四日市に行って、プラネタリウムを見ました。(誤)
電車に乗って、四日市に行って、プラネタリウムを見ました。(正)



指導のヒント

(1) 動詞〈て形〉+います

【文型導入】(「上着を着る」「スカートをはく」など、主な衣服や装飾品の名前と、その着脱に関する動詞を確認しておく)

T: (眼鏡を外しておく) 今から、眼鏡をかけます。(眼鏡をかけたあとで) 眼鏡をかけました。今、私は眼鏡をかけています。Aさんも眼鏡をかけています。Bさんは眼鏡をかけていません。

私は、セーターを着ています。Cさんは、シャツを着ています。

- ▶ 1. [～ています] を使って、人の状態を説明する練習です。
- ▶ 2. [～ています] を使った読解練習です。▶ 1. の絵だけを見せて、聞き取り練習にもできます。子どもが、同様のクイズを作ってもいいでしょう。
- ▶ 3. [～ています] を使って、物の状態を説明する練習です。
- ▶ 4. 長期間にわたって繰り返し行う動作や、[～ています] の形で通常用いる表現の練習です。[動詞〈て形〉+います] の否定形が [動詞〈て形〉+いません] となることも指導してください。
- ▶ 5. 「知っています」を使った問答形式の練習です。話しことばでは「い」が省略される場合が多いことを簡単に説明してください。

(2) 動詞₁〈て形〉+から、動詞₂

【文型導入】(朝ご飯を食べている絵と、登校する絵を黒板に貼る)

T: 朝ご飯を食べました。終わりました。それから、学校へ行きます。朝ご飯を食べてから、学校へ行きます。

- ▶ 6. [～てから、～] の文型で、行為の前後関係を表現する練習です。

《会話》

1. 家族写真を見ながら、人の様子や状態を説明している場面です。発展練習として、それぞれ自分の家族写真を持ってきて、それを説明してみましょう。
2. 給食の配膳で、手順を教えたり確認したりする場面です。『続みえこ』42課と同様、調理実習や理科の実験などの手順説明でも発展練習ができます。特に、行為の前後関係に注意をうながしてください。



44か



1. 自分の過去の経験について話すことができる。
2. 「～たり，～たり～」を使って，行為を例示することができる。



文法のポイント解説

(1) おりひめぼしを みた ことがあります。

動詞〈た形〉＋ことが あります

現在の時点で，過去の経験について述べる時使う文型です。経験の内容は，「動詞〈た形〉＋こと」という名詞句で表します。

動詞〈た形〉の作り方は，〈て形〉の場合と同じルールです。動詞の〈て形〉の語末「て」を「た」に変えれば〈た形〉になります。

動詞〈た形〉の作り方

グループ2： ～ます→～た

| | | | | | |
|--------|------|--------|------|--------|----------|
| グループ1： | ～います | } →～った | ～みます | } →～んだ | ～きます→～いた |
| | ～ちます | | ～びます | | ～ぎます→～いだ |
| | ～ります | | ～にます | | ～します→～した |

(※行きます→行った)

グループ3： します→した きます→きた

なお，動詞〈た形〉は，基本的に「過去」または「完了」の意味を表しますが，初級レベルの日本語指導ではその区別を強調しません。

(2) しゃしんを みたり，インターネットで しらべたり します。

動詞₁〈た形〉＋り，動詞₂〈た形〉＋りします

この文型は，いくつかの行為のうち，代表的な行為を2つか3つ，時間的な順序に関係なく挙げて例示する表現です。時制は，文末の形によって決まります。

2つの行為を交互にくり返す時の様子（例「行ったり来たり」）や，2つの対照的な状態を表す場合（例「暑かったり寒かったり」）は，『続みえこ』では扱っていません。



指導のヒント

(1) **動詞〈た形〉＋ことが あります**

【文型導入】（世界旅行のパンフレットやガイドブック，世界地図などを準備）

T：先生は，去年，旅行をしました。タイに行きました。タイに行ったことがあります。きれいなお寺を見ました。タイで，お寺を見たことがあります。

でも，ブラジルはまだです。ブラジルに行ったことがありません。行きたいです。

【活用形の導入】『続きえこ』 p.35の活用形リストで、〈て形〉の作り方のルールを復習し、〈た形〉の作り方がそれと同じであることを確認します。

- ▶ 1. 動詞〈て形〉の復習と、〈た形〉を作る練習です。
- ▶ 2. [～たことがあります] を使って文を作る練習です。
- ▶ 3. [～たことがあります] を使った質問応答練習です。始めに「はい、～たことがあります」と「いいえ、～たことはありません」それぞれの答え方の練習をします。その後で、省略形の「はい、あります」と「いいえ、ありません」という答え方の説明と簡単な練習をします。なお、1) で使う動詞は「(着物を) 見る」か「着る」、2) は「(富士山に) 登る」(※「富士山に見る」は誤り) となります。

◎応用▶ 2. や▶ 3. の表現を使って、自分の経験について話す自由応答練習をします。

(2) 動詞₁〈た形〉＋り、動詞₂〈た形〉＋りします

【文型導入】(今度の休みの日に何をするかをたずねる。めいめい3つ以上考える。)

T: ☆日は休みですね。何をしますか。

A: サッカーをします。まんがを読みます。買い物に行きます。テレビを見ます。

T: Aさんは、☆日にサッカーをしたり、まんがを読んだりします。

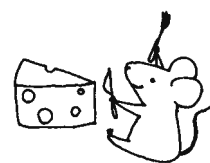
(代表的なもの2つで例文を作ることに注意。同様に、先週の日曜日(過去の休み)についてもたずね、過去の表現「～たり、～たりしました」を導入する。)

- ▶ 4. 「～たり、～たりします」を使って話す練習です。2) と3) は文末が「～ました」となります。4) は「～ます」「～ました」のどちらでも可。
- ▶ 5. 語句を選んで「～たり、～たりします」の文を完成させる練習です。文末が「～ましよう」「～ないてください」など、いろいろな形であることにも注意。
- ▶ 6. 「～たり、～たり～」を使った質問応答練習です。文化や習慣のちがいによって、いろいろな答えが出てくるでしょう。

◎応用「誕生日」「お正月」「バレンタインデー」など、「○○の日には～」と質問しながら、同様の練習をします。

《会話》

1. 七夕のために折り紙で笹飾りを作ろうとする場面です。七夕は中国から来た習慣ですが、日本とはちがうところがあります。母国と日本のいろいろな習慣のちがいを話し合ってみましょう。
2. 織り姫星から星座へと話が発展する場面です。ほかにもいくつか星座の写真や図を用意して、見たことがあるかどうか聞いてみましょう。





45か



1. 「～たら」を使って、前件の仮定条件において、予想される事柄が成立することを説明できる。
2. 「～ても」を使って、前件の仮定条件において、予想される事柄が成立しないことを説明できる。



文法のポイント解説

(1) あめが ふったら、いきません。

| | | |
|-------------------|---------|------------------|
| 動詞〈た形〉 | } +ら, ~ | >(*「いい」→「よかったら」) |
| い形容詞〈～い〉 → 〈～かった〉 | | |
| な形容詞〈～な〉 → 〈～だった〉 | | |
| 名詞+ だった | | |

[～たら, ~] の主な用法としては、次の2つが挙げられますが、ここでは①の仮定条件のみを取り上げています。

①仮定条件：条件が成立するかどうか分からないが、成立すると仮定した場合

この用法では、[～たら, ~] の文型は、前件の仮定条件の下で、後件の事柄が成立することを表します。文頭に「もし」を付け加えると、より仮定の意味が強調されます。[～なかったら, ~] の形もありますが、ここでは扱っていません。後件の文末には、話す人の意志を示す表現や、相手に対する命令、依頼などを示す表現を使うことができます。

②確定条件：条件が成立することが確定している場合

この用法では、[～たら, ~] の文型は、前件の事柄が確定した後で、後件の予定が行われることを表します。

例1) 給食が終わったら、そうじをします。

後件の文末に過去を表す「～た」を使うと、前件の事実が成立した後で、すでに後件が成立していることを表します。この文型は、予想しなかった意外な事柄が起きた場合などに使われます。

例2) 窓を開けたら、雪でした。

[～たら, ~] 以外に条件を表す表現としては、[～と, ~] (『続みえこ』37課)や [～ば, ~] (『続みえこ』61課) などの文型があります。

(2) あめが ふっても、いきます。

| | | |
|------------------|---------|----------------|
| 動詞〈て形〉 | } +も, ~ | (*「いい」→「よくても」) |
| い形容詞〈～い〉 → 〈～くて〉 | | |
| な形容詞〈～な〉 → 〈～で〉 | | |
| 名詞+ で | | |

[～ても、～] の文型は [～たら、～] と反対に、逆接の仮定条件を表し、前件の仮定条件の下で、成立すると予想される事柄が成立しないことを表します。文頭に「いくら」を付け加えると、より仮定の意味が強調されます。[～なくても、～] の形もありますが、ここでは扱っていません。



指導のヒント

(1) ～たら、～

【文型導入】

T：あした遠足に行きます。雨が降ります。行きません。雨が降ったら、行きません。
自転車がほしいです。高いです。行きません。高かったら、行きません。

- ▶ 1. 左側の「(たけい+ら)」の「～たら」「～だったら」の形の練習をします。

(2) ～ても、～

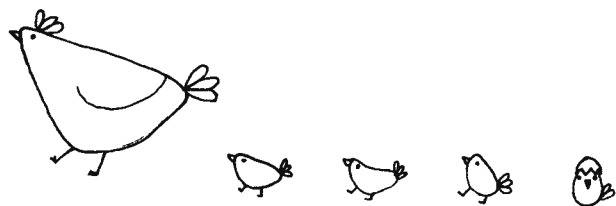
【文型導入】

T：あした遠足に行きます。雨が降ります。行きます。雨が降っても、行きます。
自転車がほしいです。高いです。買いたいです。高くても、買いたいです。

- ▶ 1. 右側の「(てけい+も)」の「～ても」「～でも」の形の練習をします。
- ▶ 2. いろいろな事柄について、子どもが自分だったらどうするかを考え、①と②のどちらかを選択する練習です。前半の仮定条件を表す部分は、動詞、い形容詞、な形容詞の順番に提示してあります。
- ▶ 3. [～たら、～] と [～ても、～] を使って、文を完成させる練習です。
- ▶ 4. 疑問詞を使った問答形式の練習です。

《会話》

1. 遠足の日、雨が降ったらどうするかについて、話している場面です。「～たら、どうしますか」と質問し、さまざまな仮定条件の下で、自分だったらどうするかを考えながら話しをすといいでしょう。
2. 国語の授業で、漢字の学習について話している場面です。算数や体育など、他の教科にも話題を広げてみてください。





46か



1. 連体修飾を使って、物や人の状態や様子を詳しく説明できる。
2. 「見える」「聞こえる」を使って表現できる。



文法のポイント解説

(1) これは、たいじゅうを きろくする カードです。

連体修飾

日本語では、ある名詞（被修飾語）の状態や様子を説明する時、次の例のように、その説明部分（修飾部）はすべて、名詞（被修飾語）の前に来ます。

例) 体重を記録する カード
 (修飾部) ↑(被修飾語)

修飾部が文の場合は、その文末は普通形になります。普通形は、『続きえこ』では47課でまとめて学習します。この46課では、動詞の普通形のみを使って、連体修飾を学習します。動詞の普通形は、すでに学習した活用形が対応しているので、比較的簡単です（『続きえこ』p. 51参照）。ここで学ぶ文型は、次の3つです。

- ① [(これは) 修飾部 + 名詞 です] …連体修飾が文の述部に来る文型
 例) これは、体重を記録する カード です。
- ② [修飾部 + 名詞 を～] …連体修飾が文中の目的格となる文型
 例) 体重を記録する カード を出しました。
- ③ [修飾部 + 名詞 は～] …連体修飾が文の主部に来る文型
 例) 体重を記録する カード は、保健室にあります。

(2) これは みえますか。

～が 見えます, ～が 聞こえます

「見える」は、ある存在物が自然に目に映ることを表し、「聞こえる」は、ある音声が自然に耳に入ることを表します。「見える」「聞こえる」は、それぞれ自動詞の〈辞書形〉で、〈可能形〉ではありません。存在物や音声は「～が」で示します。ちなみに、他動詞の「見る」と「聞く」の〈可能形〉は、それぞれ「見られる」「聞ける」になります（『続きえこ』64課参照）。



指導のヒント

(1) 連体修飾

【文型導入】(テレフォンカードを準備。まず、名詞、い形容詞、な形容詞が名詞を修飾する既習の例文(①～③)を提示。その後、文が修飾部となる例文④を提示。例文を並べて板書)

T：これはカードです。①電話の「カード」です。500円です。②安い「カード」です。
でも、③便利な「カード」です。

先生はこのカードで、ペルーに電話をかけます。これは、④電話をかける「カード」です。

【活用形の復習】『続きえこ』 p.51で普通形（動詞のみ）を確認する。

▶ 1. [(これは) 修飾部+「名詞」です] の練習です。まず、修飾部になる部分を普通形に変える練習をし、それから連体修飾の文を作る練習をしてください。

▶ 2. [(これは) 修飾部+「名詞」です] のうち、特に [(～ている) +「人」です] の練習です。この練習に入る前に、[動詞〈て形〉+います] の形を確認するため、p.44の絵を見ながら、Q：「たかしさんは何をしていますか」、A：「黒板を消しています」という質問応答練習をしてください。

①応用 『続きえこ』 p.30の絵を使って、同じような質問応答練習ができます。

▶ 3. [修飾部+「名詞」を～] の練習です。まず、修飾部になる部分を普通形に変える練習をし、それから連体修飾の文を作る練習をしてください。

▶ 4. [修飾部「名詞」は～] の練習です。最初に、1)～3)の質問文(Q:)だけを作ってください。その後で、応答文(A:)をそれぞれ考え、質問応答練習をします。

(2) 「～が見えます」、 「～が聞こえます」

【文型導入】

T：窓の外を見てください。体育館がありますね。木もあります。体育館が見えます。

木が見えます。でも、自転車はありません。自転車は見えません。

(CDプレーヤーで音楽を聞かせる) 何か聞こえますね。何が聞こえますか。

S：音楽が聞こえます。

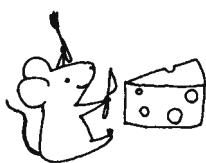
T：(音量を徐々に下げる) あれ？おかしいですね。何も聞こえません。

▶ 5. [～が見えます／聞こえます] を使った文の完成練習です。「音」を出すのは物、「声」を出すのは人や動物であることを説明してください。

《会話》

1. 身体測定に関して、先生が注意や指示をしている場面です。テキストp.43の本文中で、どこに連体修飾が隠れているか探してみましょう。保健室の器具や、理科の実験器具などについて、連体修飾を使って説明の練習をすることもできます。

2. 視力検査の場面です。「見える」「見えない」という表現が自然に使われる場面ですが、視力の弱い子をみんなの前で傷つけることなどないように十分配慮してください。双眼鏡やサングラスなどを使って、何がどのように見えるか会話練習をすると面白いでしょう。





47か



1. 普通形を作ることができる。
2. くださった話し方（普通体）と、ていねいな話し方（丁寧体）が使い分けられる。
3. 自分の意見を言ったり、何かを推測して話をしたりできる。



文法のポイント解説

(1) いっしょに えんそくの おやつ (を) かわない？

普通体

日本語の話し方には、ていねいな話し方をする丁寧体と、くださった話し方をする普通体があります。丁寧体の文末には「～です」「～ます」などの丁寧形が使われます。一方、普通体の文末には「～だ」「～る」などの普通形が使われます。詳しいことは本書p.8を参照してください。

普通形は普通体の文末に使われるだけでなく、いろいろな文型の中にも埋め込まれています。たとえば、この課で学習する「普通形＋と思います」もその一つです。また、話しことばだけでなく、作文や日記、新聞など、簡潔な文章を書く時の書きことばとしても、普通形は幅広く使われています。十分口頭練習をし、復習を繰り返してください。

普通形の作り方

| | 非過去・肯定 | 非過去・否定 | 過去・肯定 | 過去・否定 |
|------|--------|--------|-------|---------|
| 動 詞 | 辞書形 | ない形 | た形 | ～なかった |
| い形容詞 | ～い | ～くない | ～かった | ～くなかった |
| な形容詞 | ～だ | ～じゃない | ～だった | ～じゃなかった |
| 名 詞 | ～だ | ～じゃない | ～だった | ～じゃなかった |

丁寧体と普通体は、文末のほかにも、ちがいがあります。詳しくは次頁 (p.43) の「丁寧体と普通体のちがい」の表を参照してください。なお、普通体で話す時は、以下のような点に気をつけます。

- ・文末に終助詞「ね」「よ」「わ」などを付け加えると、自然な感じがします。ただし、使い方には男女差や方言差があるので、注意をうながしてください。
- ・疑問文では、文末の「か」は省略されます。末尾のイントネーションは上げて話します。
- ・文末には、よく縮約形が使われます。『続きえこ』でも、いくつか取り上げています。
「～ないで」(39課), 「～ないと」(40課), 「～てる」(43課), 「～の？」(50課),
「～ちゃった」(57課), 「～とく」(58課), 「～って」(62課)

- ・語彙は、次のような話しことばが、よく使われます。
「あっち (あちら)」、「こっち (こちら)」、「そっち (そちら)」、「どっち (どちら)」、
「じゃ (では)」、「ちょっと (すこし)」、「なんで (なぜ)」
- ・助詞は、それがなくても意味がわかる場合はよく省略されますが、「に」「で」「と」「から」「まで」などは意味がわかりにくくなるので、省略することができません。
例1) 省略できる場合： 「頭 (が) 痛い」、「ジュース (を) 飲む?」
例2) 省略できない場合： 「みえこさんに本をもらった」「3日から東京へ行く」
- ・『続みえこ』41課の「～ましょう」の普通形は、動詞〈意向形〉(『続みえこ』53課)になります。

丁寧体と普通体のちがい

| | 丁寧体 | 普通体 |
|---------|----------------------|---|
| 文末 | 丁寧形 | 普通形 |
| | 「名詞／な形容詞＋です」 | 「名詞／な形容詞＋(だ)」 («だ」はよく省略される) 例)「雨 (だ)」 |
| 疑問文 | 丁寧形＋か | 普通形? (↗) |
| | 「名詞／な形容詞＋ですか」 | 「名詞／な形容詞＋ <u>だ</u> ?」 (↗) 例)「雨?」 |
| | ^{なん} 「何ですか」 | ^{なに} 「何 <u>だ</u> ?」 (↗) |
| 答え方 | 「はい」「いいえ」 | 「うん」「ううん」 |
| 理由の「から」 | [丁寧形＋から、～] | [普通形＋から、～] |
| 逆接の「が」 | [丁寧形＋が、～] | [普通形＋けど、～] |
| [～ください] | 「～てください」 | 「～て」 |
| | 「～ないてください」 | 「～ないで」 |
| [～ています] | 「～ています」 | 「～てる」 |
| 助詞 | 「は」「が」「を」「へ」など | (よく省略される) |

(2) わたしは はれると おもいます。

普通形＋と 思います

話し手が自分の意見を言ったり、ある事柄について予測や推測をしたりして話す時に使われる表現です。「と」の前は、いつも普通形を用います。文末は例1)のように「～と思います」の形も使いますが、ここでは「～と思います」(例2))のみを扱っています。質問に対する否定の答え方も同様で、「いいえ、～ない(なかった)と思います」になります。

例1) あしたは雨が降ると思いません。

例2) あしたは雨が降らないと思います。

ただし、ほかの人の意見に賛成だと言いたい時は「私もそう思います」、反対だと言いたい時は「私はそうは思いません」となるので、注意をうながしてください。



指導のヒント

(1) 普通体

【文型導入】

- T：(先生とルイスの紙人形を準備) ルイスさんは先生と話します。
『続みえこ』 p.26の《会話》の上半分を子どもに読み聞かせる)
(みえことルイスの紙人形を準備) ルイスさんは友だちのみえこさんと話します。
(先生の役割をみえこに変え、同じ《会話》を以下のように普通体で読み聞かせる)
- みえこ：ルイスさん、連休には何をした？
ルイス：(わたしは) 電車に乗って、四日市へ行って、プラネタリウムを見た。
みえこ：プラネタリウムはどうだった？
ルイス：とてもきれいで、おもしろかった。

【活用形の導入】『続みえこ』 p.51のリストで、普通形の作り方の説明と練習を行います。

- ▶ 1. 動詞、形容詞、名詞の普通形を作る練習です。
- ▶ 2. 下記の丁寧体の会話文を、普通体に変えて話す練習です。
(丁寧体の会話) エリカ：公園で遊びませんか。 みえこ：はい、いいですよ。
- ▶ 3. 普通形を使って、普通体の会話文を作る練習です。
(応用) 文を完成した後で、《会話》の練習と同じように、役割を決め、口頭練習をします。長い会話文なので、前半か、後半だけ練習してもいいでしょう。
- ▶ 4. 普通形を使って、作文を書く練習です。

(2) 普通形+と思います

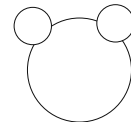
【文型導入】(黒板に犬か猫か、わからない右図のような絵を描く)

T：これは犬ですか、猫ですか。

S₁：犬です。

S₂：(犬じゃありません) 猫です。

T：私は思います。犬です。犬だと思います。猫じゃありません。猫じゃないと思います。



- ▶ 5. [~と思います]を使って、自分の推測や意見、感想を話す練習です。
(応用) 「~はどうですか」と質問しながら、子どもの推測や意見、感想を聞きます。
- ▶ 6. 質問に対して、「はい、~と思います」「いいえ、~ないと思います」で答えます。
(応用) 「~と思いますか」と質問しながら、子どもの推測や意見、感想を聞きます。

《会話》

1. 先生と子どもが、あしたの遠足の天気について話している場面です。子ども同士で「~はどうですか」「~と思いますか」と質問しながら、自由応答練習をします。
2. 放課後、遠足のおやつを買いに行く相談をし、スーパーで買い物している場面です。既習の各課の丁寧体の《会話》を、普通体に変える練習をしてください。また、休日に何をしたか、何をするかなど、日常生活について普通体で話してみてください。



48か



1. 「～ほうがいいです」を使って、ほかの人に助言（忠告）することができる。



文法のポイント解説

(1) かえった ほうが いいです。

動詞〈た形〉＋ほうが いいです

この文型では〈た形〉の代わりに〈辞書形〉を使うこともありますが、ここでは扱いません。表現を柔らかくするために、文末には終助詞「よ」がよく使われます。元々いくつかの可能性の中から、ある行為をすることが望ましいという意味を表し、以下のような場合に使われます。

①話し手が、相手に助言（忠告）する場合

例) 「ヒトシさん、部屋が汚いから、そうじをしたほうがいいですよ」

②一般常識的なことについて話す場合

例) 「野菜を食べたほうがいいです」、「たばこは吸わないほうがいいです」

③話し手が、自分の行為について話す場合

例) 「歯が痛いから、歯医者へ行ったほうがいいかもしれない」

ここでは①のみを取り上げています。よく似ている表現に「～たらいいです」、「～ばいいです」があります。これらは話し手がある状況下で最良だと判断していることを、ほかの人に勧める場合に使われます。

例) 「自転車は、**で買ったなら（買えば）いいですよ」

これに対して、「～たほうがいいです」は、いくつかの選択肢の中から比較して勧める場合に使われます。

例) 「遠いですから、電車で行ったほうがいいですよ」(電車、バス、自転車などから選択)

基本的に相手に対する強制力はなく、助言（忠告）に従うかどうかは、勧められた人が自分で判断して決めます。ただし、イントネーションなどによっては、押しつけがましく聞こえる場合もあるので、注意が必要です。

例) 「もう11時ですから、寝たほうがいいですよ」

日本の文化では、目上の人に助言をすると、失礼な印象を与えてしまいます。代わりに依頼表現を使うように指導してください。

例) 「先生、黒板に書いたほうがいいですよ」 (誤)

「先生、すみませんが、黒板に書いてください」 (正)

(2) およがない ほうが いいです。

動詞〈ない形〉＋ほうが いいです

この文型は、ある行為をしないことが望ましいという意味を表し、使い方は「～たほうがいいです」と同様です。

動詞は〈ない形〉の形だけで、「～なかった」は使いません。間違えて「～なかったほうがいいです」とすることがあるので、注意してください。



指導のヒント

(1) 動詞〈た形〉+ほうが いいです

【文型導入】

T：漢字がわかりません。漢字を勉強します。勉強しません。どちらがいいですか。

S：勉強します。(先生とエリカの紙人形を準備)

エリカ：漢字がわかりません。

先生：漢字を勉強したほうがいいですよ。

エリカ：はい、がんばります。

▶ 1. 練習問題左側の「～たほうがいいです」の形の練習をします。

(2) 動詞〈ない形〉+ほうが いいです

【文型導入】

T：頭が痛いです。プールで泳ぎます。泳ぎません。どちらがいいですか。

S：泳ぎません。(先生とトムの紙人形を準備)

トム：頭が痛いです。

先生：きょうは泳がないほうがいいですよ。

トム：はい、わかりました。

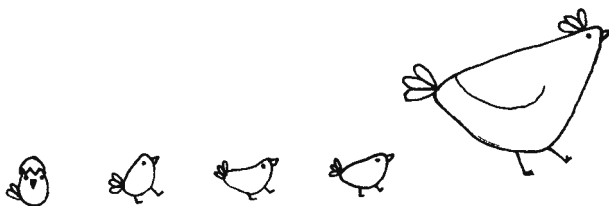
▶ 1. 練習問題右側の「～ないほうがいいです」の形の練習をします。

▶ 2. 「～たほうがいいです」「～ないほうがいいです」のどちらかを選択する練習です。

▶ 3. 「～ほうがいいです」を使って、助言をする練習です。

《会話》

1. 保健室で、体調の悪い子どもに先生が助言をしている場面です。病気だけではなく、「教科書を忘れた」「どこかへ遊びに行きたい」など、いろいろな状況を提示して、子ども同士でお互いに助言し合うといいでしょう。





49か



1. 「まえに」「あとで」を使って、時間的な前後関係が言い表せる。
2. ある行為について、感想を言ったり、好き嫌いなどを表現したりできる。
3. しなければならないことを、し忘れたと説明ができる。



文法のポイント解説

(1) およいだ **あとで**、シャワーを **あび**ます。(『続みえこ』 p.55の文型 (2) を見る)

| | |
|---------|----------|
| 名詞+ の | } +あとで、～ |
| 動詞 <た形> | |

時間的な前後関係を表す文型です。『続みえこ』43課で学習した [～てから、～] と同様、前件が完了した後で、後件の行為が行われることを示し、ほぼ同じ意味を表します (例1))。時制は文末によって決まります。

例1) 昼ごはんを

| |
|---------|
| 食べてから、 |
| 食べたあとで、 |

 出かけます。

[～てから、～] は、前件に引き続き、後件の行為が行われることを表すため、例2) の文のように場面の連続性があります。これに対し、[～あとで、～] は、前件で前の場面、後件で次の場面を提示し、2つの独立した場面の前後関係だけを表します。例3) の文が不自然に感じられるのは、前後の行為に連続性があるにもかかわらず、「～あとで」を使っているためです。

例2) 日本に来たあとで、日本語の勉強を始めました。(誤)

例3) 日本に来てから、日本語の勉強を始めました。(正)

(2) およぐ **まえに**、たいそうを **し**ます。(『続みえこ』 p.55の文型 (1) を見る)

| | |
|----------|----------|
| 名詞+ の | } +まえに、～ |
| 動詞 <辞書形> | |

時間的な前後関係を表す文型です。前件より先に後件の行為が行われることを示し、[～てから、～] [～あとで、～] とは、逆の時間関係を表します。時制は文末によって決まります。

(3) しゅくだいを **するの**を **わす**れました。

動詞 <辞書形> + の

動詞や形容詞の普通形に「の」と「こと」を付け加えると、その句や節が名詞化できます。ここでは動詞 <辞書形> に「の」を付け加えた形のみを取り上げています。名詞と同じ扱いになるため、さまざまな文型に埋め込まれて使われます。

①ある行為について、感想を言う。

例) 音楽を聞くのは楽しいです。

②ある行為について、「好き」「嫌い」や「上手」「下手」, 「早い」・「速い」「遅い」などを表現する。

例) 映画を見るのが好きです。

③しなければならないことを、し忘れたと説明する。

例) 友だちに電話するのを忘れました。

「の」と「こと」はたいてい置き換え可能ですが、どちらか一方しか使えないことがあります。以下のような場合には、「の」は使うことができません。

①「です」, 「だ」の前に使う場合

例) 私の趣味は切手を集めることです。

② [～ことができる], [～たことがある] などの複合表現で使う場合

例 1) ピアノを弾くことができます。

例 2) 北海道へ行ったことがあります。



指導のヒント

(1) ～あとで, ～ (『続みえこ』 p.55の文型 (2) を見る)

[名詞+の+あとで, ～] を導入してから, [動詞〈た形〉+あとで, ～] を導入します。

【文型導入】(黒板の左に「給食を食べている絵」, 右に「そうじしている絵」を貼る)

T: (左の絵を指して) 給食です。食べました。(「給食のあとで」と言いながら, 右の絵を指して) そうじします。給食のあとで, そうじします。

▶ 1. 1) 2) [名詞+の+あとで, ～] の文を完成する練習です。

【文型導入】

T: (左の絵を指して) 給食を食べました。(「給食を食べたあとで」と言いながら, 右の絵を指して) そうじします。給食を食べたあとで, そうじします。

▶ 2. 1) 2) [動詞〈た形〉+あとで, ～] の文を完成する練習です。

(2) ～まえに, ～ (『続みえこ』 p.55の文型 (1) を見る)

[名詞+の+まえに, ～] を導入してから, [動詞〈辞書形〉+まえに, ～] を導入します。

【文型導入】(黒板の左に「給食を食べている絵」, 右に「そうじしている絵」を貼る)

T: (右の絵を指して) そうじです。(「そうじのまえに」と言いながら, 左の絵を指して) 給食を食べます。そうじのまえに, 給食を食べます。

▶ 1. 3) 4) [名詞+の+まえに, ～] の文を完成する練習です。

【文型導入】

T: (右の絵を指して) そうじします(「そうじするまえに」と言いながら, 左の絵を指して)

給食を食べます。そうじするまえに、給食を食べます。

▶ 2. 3) 4) [動詞〈辞書形〉+まえに、～] の文を完成する練習です。

▶ 3. [～あとで、～][まえに、～] の文を完成する練習です。

◎(応用) 時間的な前後関係がわかる絵を2枚並べて、「あとで」「まえに」を使って、文を作ります。

(3) 動詞〈辞書形〉+の

【文型導入】

T: 友だちと遊びます。楽しいです。友だちと遊ぶのは楽しいです。

絵を描きます。好きです。絵を描くのが好きです。(先生とトムの紙人形を準備)

先生: トムさん、宿題をしましたか。

トム: 忘れました。宿題をするのを忘れました。

▶ 4. [～のは～] の文を完成させます。

▶ 5. [～のが～] の文を完成させます。

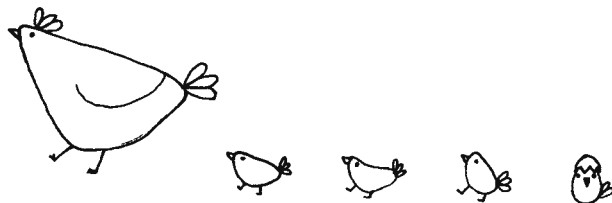
▶ 6. [～のを忘れました] の文を完成させます。

◎(応用) [～のは～], [～のが～], [～のを忘れました] を使って、文を作ります。

▶ 7. 「～の」と「～まえに」を使って、普通体の会話文を作る練習です。

《会話》

1. 先生の指示に対して、子どもが [～のを忘れました] を使って話している場面です。外出時や、お別れ会の準備などの状況を提示して、役割練習をしてみてください。
2. 体育の授業で、先生が子どもに泳ぐ前と後にすることを指示している場面です。「～まえに、何をしますか」「～あとで、何をしますか」と質問しながら、自由応答練習をします。





50か



1. 相手に説明を求めたり、反対に、相手に対して事情や理由の説明をしたりできる。
2. 相手に事情や理由の説明をして、物事を依頼することができる。



文法のポイント解説

(1) どうして ちこくしたんですか。

普通形+んです

この文型は丁寧体の会話文で使われ、普通体の会話文では「～んだ」や「～の」になります。「～のです」は、さらにていねいな言い方で、話しことばにも書きことばにも使われます。「～のだ」「～のである」の形もありますが、これらは通常書きことばとして使われます。

普通形+「んです」の作り方

| | 非過去・肯定 | 非過去・否定 | 過去・肯定 | 過去・否定 |
|------|---------|----------|---------|------------|
| 動詞 | 辞書形+んです | ～ないんです | ～たんです | ～なかったんです |
| い形容詞 | ～いんです | ～くないんです | ～かったんです | ～くなかったんです |
| な形容詞 | ～(な)んです | ～じゃないんです | ～だったんです | ～じゃなかったんです |
| 名詞 | ～(な)んです | ～じゃないんです | ～だったんです | ～じゃなかったんです |

(※ <～だ> → <～な> + んです)

「～んです」は日常会話でよく使われる表現です。主な用法として、ここでは次の2つを取り上げています。

①見たり聞いたりした情報を基に、話し手が推測したことを確かめたり (例1)), さらに疑問詞を使って情報を得たりする場合 (例2))

例1) (AさんはBさんが新しい自転車に乗っているのを見て、自転車を買ったのかどうか、確かめる)

A: Bさん、新しい自転車を買ったんですか。

B: ええ、きのう買いました。

例2) B: 夏休みに旅行に行きます。

A: (Aさんはどこへ行くのか、知りたい) どこへ行くんですか。

B: 北海道へ行きます。

話す時、「ん」を強く発音したり、一度にいくつも質問したりすると、問い詰めているように聞こえることがあるので、イントネーションや使い方に注意が必要です。

②話し手が相手に対して事情を説明したり、理由を言ったりする場合

例1) (体育の時間、Bさんが泳がないので、Aさんはどうして泳がないか、知りたい)

A: どうして泳がないんですか。

B: (BさんはAさんに説明する)水着を忘れたんです (=水着を忘れましたから)。

例2) A: きょうサッカーをしますか。

B: いいえ、しません。(BさんはAさんに説明する)宿題があるんです (=宿題がありますから)。

会話では、理由を表す「～から」の代わりに「～んです」がよく使われます。「～んです」を使う時、「から」は使いません。「～んですから」とならないように注意をうながしてください。なお、例2)のように、文末の「～から」は「～んです」に置き換えられますが、文中の「～から」は置き換えることができません。

例3) 宿題があるんです (から), サッカーをしません。(誤)

宿題がありますから, サッカーをしません。(正)

(2) かんじが わからないんですが, おしえて ください。

普通形+んですが, ~てください

「～んです」を使って相手に事情や理由を説明し、物事を依頼する表現です。接続助詞「が」を使って、前件の「～んです」で示された内容が前置きであることを表しています(『続みえこ』42課参照)。後件には依頼だけでなく、許可や助言を求めたり、質問したりする表現が用いられます。



指導のヒント

(1) **普通形+んです**

【文型導入】(先生とトム、みえこの紙人形を準備)

先生: 来月、遠足に行きます。(T: いつ行きますか。トムさんは知りたいです)。

トム: いつ行くんですか。

先生: 10日に行きます。(T: どこへ行きますか。みえこさんは知りたいです)。

みえこ: どこへ行くんですか。

先生: 山へ行きます。

【活用形の導入】『続みえこ』pp.62~63の活用形リストで、「普通形+んです」の作り方の説明と練習を行います。(p.63の下の『会話』は後で学習する)

▶ 1. 「～んです」を使って質問し、説明を求める練習です。

【文型導入】(先生とトムの紙人形を準備)

T: トムさんは給食を食べません。どうして給食を食べませんか。先生は知りたいです。

先生: どうして給食を食べないんですか。

トム: { おなかが痛いですから。

{ おなかが痛いんです。

(上記の文を板書し、「2つの文は同じ意味です」と言う)

- ▶ 2. 「どうして～んですか」と質問して説明を求め、それに対して「～んです」を使って答える練習です。「～んですから」とならないように注意してください。

【文型導入】（先生とみえこの紙人形を準備）

T：みえこさんは元気じゃありません。どうしましたか。先生は知りたいです。

先生：みえこさん、どうしたんですか。

みえこ：けがをしたんです。

- ▶ 3. 「どうしたんですか」と質問して説明を求め、それに対して「～んです」を使って答える練習です。5) の答えは「かぜだんです」とならないように注意してください。

(2) **普通形+んですが、～てください**

【文型導入】（先生とヒトシの紙人形を準備）

T：ヒトシさんは笛を吹くことができません。笛を吹きたいです。先生をお願いします。

ヒトシ：笛を吹きたいんですが、教えてください。

先生：いいですよ。

- ▶ 4. [～んですが、～てください] を使って、事情や理由を説明し、依頼をする練習です。

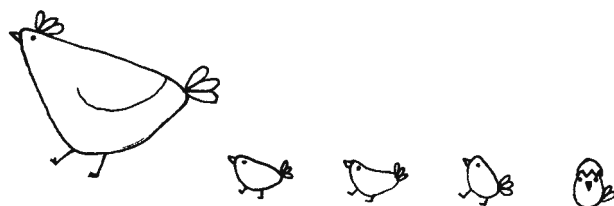
応用 子どもが、先生にいろいろな依頼をする練習をしてみてください。

【普通体の会話】（『続みえこ』 p.63 下の会話を見る）

普通体の会話練習です。「～んです」の普通体は「～の」になります。そのことを子どもに説明してから、練習してください。

《会話》

1. 先生がどうして遅刻したか質問し、子どもがそれに対して理由を説明している場面です。学校を休んだり、早退したりするなどの状況を提示し、「どうして～んですか」と質問しながら会話練習をします。
2. 子どもが先生にいていねいに依頼をしている場面です。同様の状況を考えて、子ども同士で、先生と子どもの役割練習をするといいでしょう。
3. 授業中、具合が悪くなった子どもが、先生と話している場面です。「保健室に行きたい」、「体育を見学したい」などの状況を提示し、同じような会話練習をしてみてください。





5 | か

ねらい

1. 「～ので、～」を使って、丁寧に理由を述べたり、事情を説明したりできる。
2. 「～のに、～」を使って、自分の意外な気持ちや不満が表現できる。



文法のポイント解説

(1) あしたは さんかんびなので、きれいに そうじを します。

普通形+ので、～ (※ <～だ> → <～な> +ので、～)

「～ので」は、原因や理由を表します。『続きえこ』38課では、「～から」を学習しました。基本的に初級段階では、「～ので」の意味は「～から」とほとんど同じ、と指導してかまいません。それほど言い換えが可能な場合が多いからです。ただし、「～ので」の方が、丁寧な印象を与えます。そのため、誘いを断る、依頼する、許可を求める、言い訳をするなどの際に、状況や自分の事情を説明するためによく使われます。したがって、丁寧に話すときは「～ので」を使う、と指導してください。

(2) おとうさんも いたかったのに、いく ことが できなかった。

普通形+のに、～ (※ <～だ> → <～な> +のに、～)

「～のに」の前件ではある確定された事実が述べられ、後件では前件で述べた事実から当然予想される結果とはちがう結果が述べられます。結果として、意外感や不満感が表されます。話しことばでは、しばしば「～のに」の後件が省略されます。後件には、事実と確定されていないこと(推量、希望、意思、依頼、命令など)は述べられません。

例1) このかばんは大きいのに、たくさん入るだろう(推量)。(誤)

例2) このかばんは大きいのに、たくさん入って欲しい(希望)。(誤)



指導のヒント

(1) **普通形+ので、～**

【文型導入】(ルイスと先生の紙人形を準備)

T: ルイスさんは、赤鉛筆を忘れました。先生にお願いします。何と言いますか。

S: 貸してください。

T: 赤鉛筆を忘れたので、貸してください。

- ▶ 1. 「～ので」の形を作る練習をします。「～のに」の形の練習は後でします)
- ▶ 2. [～ので、～] を使って、2つの文を1つにする練習です。初めに、各問題の1つ目の文(前件)を普通形に変える練習をしてから、文を作ってください。
- ▶ 3. な形容詞か名詞を「ので」につなぐ練習です。1) と2) は「～なので」となることに注意してください。3) は過去の形なので「な」は付かず、「～だったので」となります。

- ▶ 4. 「ので」の前に来ることばを自分で考えて、後件の文とつなぐ練習です。自分で考えたことばが、正しく普通形にできているかどうかを確認してください。

◎応用 [～ので、～] の文型を使って、言い訳をする練習をします。先生は、「どうして遅刻したんですか」などと質問してください。

(2) 普通形+のに、～

【文型導入】

T：電気のスイッチを押します。(子どもに気づかれないように押すまねをする) 押しました。あれ？ 電気がつきません。スイッチを押したのに、電気がつきません。

- ▶ 1. 「～のに」の形を作る練習をします。
- ▶ 5. [～のに、～] を使って文を作る練習です。初めに、各問題の前件の文末を普通形に変える練習をしてから、後件を選択肢から選んで文を作ってください。
- ▶ 6. な形容詞か名詞を「のに」につなぐ練習です。1) と2) は「～なのに」となることに注意してください。3) は過去の形なので「な」は付かず、「～だったのに」となります。
- ▶ 7. [～ので、～] と [～のに、～] を混合した文の完成練習です。それぞれの文の論理関係が正しく理解できているかを確認してください。

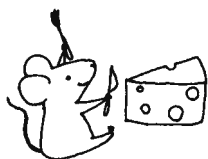
◎応用 前件の文と後件の文を別々に書いたカードを準備します。[～ので、～] または [～のに、～] を使って前件と後件つなぎ、文を完成させる練習をします。

- ▶ 8. [～のに、～] の後件が省略された文型の練習です。ここにあるのは、不満感を述べる文です。

◎応用 「Aさんは来ないと思った。でも、来た。」 「さっきは雨が降っていた。でも、晴れた」など、意外な状況を提示して、「～のに。」を使って話す練習をします。

《会話》

1. 参観日の前日、掃除の時間に、トムとみえこが話している場面です。先生は丁寧な表現として [～ので、～] を使っています。みえこは、[～から、～] を使っています。「明日は参観日なので、～」の後件を、子どもといろいろ考えてみるといいでしょう。
2. 参観日に来なかった父親に、みえこが不満を述べている場面です。「～のに。」の後件には、どんなことが省略されているかを考えてみてください。





52か



1. 「～でしょう」や「～だろう」を使って、自分の推測したことが表現できる。
2. 「～かもしれません」を使って、不確かな推量が表現できる。



文法のポイント解説

(1) あしたの ごごの じゅぎょうは ないでしょう。

普通形+でしょう , **普通形+だろう** (※ <～だ> → 「だ」は取る)

[～でしょう] は [～だろう] のていねいな形で、男女の区別なく使います。[～だろう] は、書きことばでは男女の区別なく使いますが、話しことばでは一般に男性が使います。

どちらも文末が下降調のイントネーション (↘) を伴う場合、話し手の推量を表します。[～でしょう] と [～だろう] は、[～かもしれません] に比べて推測に十分な根拠があり、話し手が事実だと考えている度合いが高い場合に使われます。そのため、客観的な意味合いが強く、天気予報などでよく使われます。しばしば「たぶん」や「きっと」などの副詞を伴います。なお、[～でしょう] [～だろう] の文末が上昇調のイントネーション (↗) を伴う場合、確認を表しますが、この用法は扱ってません。

(2) きゅうしょくも ないかも しれません。

普通形+かもしれません (※ <～だ> → 「だ」は取る)

話し手の推量を表します。[～でしょう] [～だろう] に比べて、[～かもしれません] の方が判断の根拠が弱く不確かで、自分の推測とは違う可能性もある、という意味を含んでいます。しばしば副詞の「もしかしたら」といっしょに使われます。話しことばでは「～かもわからない」の形や、省略形の「～かも (ね)」の形で使われることもありますが、ここでは扱いません。



指導のヒント

(1) **普通形+でしょう** , **普通形+だろう**

【文型導入】 (天気に関する語彙として、「雨」「晴れ」「曇り」「雪」などの名詞と、「(雨が) 降る」「晴れる」「曇る」などの動詞を、まとめて整理しておく)

T: きょうは雨ですね。あしたの天気は、どうですか。私はけさ、テレビで天気予報を見ました。テレビの人は言いました。「三重県は、あしたは晴れるでしょう」。

(みえこと、みえこの兄の紙人形を準備) みえこさんが、お兄さんに聞きました。

みえこ: お兄さん、あしたの天気はどう?

みえこの兄: たぶん、あしたは晴れるだろう。

([～でしょう] と [～だろう] の意味は同じだが、[～でしょう] の方がていねいな言い方で、[～だろう] は男の人が使う、と説明する)

- ▶ 1. [~でしょう] と [~だろう] の形を作る練習です。3) は「きれいなでしょう」や「きれいだでしょう」とならないように注意してください。4) と5) の文末は、[~だろう] になります。

(2) **普通形+かもしれません**

【文型導入】(二人の子ども、AさんとBさんに前に出てきてもらう)

T:これから、AさんとBさんがじゃんけんをします。Aさんは勝つでしょうか。

S₁:勝つと思います。

S₂:負けると思います。

T:勝つ? 負ける? わかりませんね。Aさんは、勝つかもしれません。負けるかもしれません。

- ▶ 2. [~でしょうか] を使って相手から予測を聞き出し、相手は [~かもしれません] を使って自分の予測を伝える練習です。1) ~4) は丁寧体で質問応答する練習で、その下には普通体で質疑応答する練習が1つあります。1) ~4) についても、普通体で質問応答する練習をしてみてください。

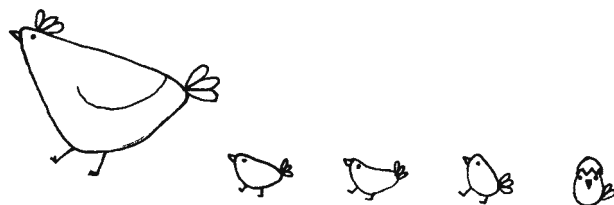
【語彙導入】『続きえこ』p.72の図を見ながら、副詞の「もしかしたら」「たぶん」「きっと」それぞれが、確信度の強さによって使われ方にちがいがあることを確認する。百分率が理解できる学年であれば、おおよそのパーセンテージを示すと理解しやすい。

- ▶ 3. 文型に合わせて、適切な副詞を選ぶ練習です。正答は、「もしかしたら」「たぶん」「きっと」のいずれかになります。それ以外の副詞も、この機会に復習しておきましょう。
- ▶ 4. [~でしょう] [~かもしれません] を使った読解練習です。選択肢の語彙を正しく普通形に変えることができているかどうかを確認してください。

④ **応用** 同様の占いをグループで考えて作り、比べてみると面白いでしょう。

《会話》

1. 教室で、先生が台風に関する予想を話している場面です。もし大きな台風が来たら、学校や家庭ではどのような事が起こるか、みんなで予想してみるといいでしょう。発展練習として、子どもが気象予報士の役になって、みんなの前で天気予報を発表してみてください。
2. みえこが家でお兄さんと天気予報を見ながら、台風の進路予想について話している場面です。二人が普通体で話していることや、お兄さんが [~だろう] を使っていることに注意をうながしてください。もし、お兄さんと同じ発話を女性がするなら、[~でしょう] になります。





53か



1. 意向形を使って、友人に行為をうながしたり誘ったりすることができる。
2. 意向形や「つもりです」を使って、自分の意志や計画、予定などを話すことができる。



文法のポイント解説

(1) いっしょに つくろう。

動詞〈意向形〉

意志的な行為を表す動詞（意志動詞）を使って、話し手の意志を表す活用形です。[～ましよう]（『続みえこ』41課）の普通形として使われます。[～ましよう]と同様に、聞き手に行動を誘いかけたり、行動を呼びかけたりする意味があります。

動詞〈意向形〉の作り方

グループ2：〈辞書形〉最後の「る」を取って、「よう」を付ける。

グループ1：〈辞書形〉最後の「う」段の音を「お」段の音に変えて、「う」を付ける。

グループ3：する→しよう　くる→こよう

(2) いすを つくろうと おもって います。

動詞〈意向形〉＋と 思っています

話し手が自分の意志や予定、計画などを表現する文型です。[～と 思います]は、発話する時点で考えたことを表します。これに対して、[～と 思っています]は以前から継続的に考えていたことを表します。ここでは後者の文型 [～と 思っています] を学習します。

(3) キャンプの えを かく つもりです。

動詞〈辞書形〉＋つもりです，動詞〈ない形〉＋つもりです

これも、話し手が自分の意志や予定、計画などを表現する文型です。[〈意向形〉＋と 思っています]とほとんど同じ意味、と指導してかまいません。あえて、ちがいを挙げれば、[～つもりです]の方が自分の意志や予定が明確で、具体的に想定しているというニュアンスがあります。



指導のヒント

(1) 動詞〈意向形〉

【文型導入】（先生、みえこ、まりこの紙人形を準備）

T：今日は遠足です。先生がみんなに言います。

先生：みなさん、好きなところに座りましょう。お弁当を食べましょう。

T：みえこさんが、まりこさんに言います。

みえこ：まりこさん、いっしょに座ろう。いっしょにお弁当を食べよう。

まりこ：うん、いいよ。

【活用形導入】『続みえこ』p.76の活用形リストで、〈意向形〉の説明と口頭練習を行います。

▶ 1. 〈意向形〉を作る練習です。

▶ 2. 〈意向形〉を使って、[~ましょう]を普通体に変える練習です。

① 応用 『続みえこ』p.24の▶ 2.を普通体に変える練習もしてみましょう。

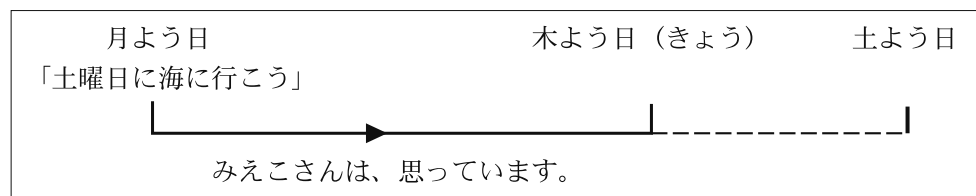
▶ 3. 誘いかけとそれに応じる問答を、普通体で行う練習です。肯定の応答では〈意向形〉を使います。

(2) 動詞〈意向形〉＋と 思っています

【文型導入】

T：今日は木曜日です。月曜日に、みえこさんはお父さんと次の土曜日のことを話しました。今度の土曜日は、お父さんの仕事は休みです。お父さんは「みんなで、土曜日に海に行こう」と言いました。だから、みえこさんは、ずっと思っています。土曜日に海に行こう。みえこさんは、土曜日に海に行こうと思っています。

(板書例)



▶ 4. [~と 思っています] を使って話す練習です。

▶ 5. 副詞「もう」と「まだ」を使って、行為が完了したかどうかを尋ねる質問応答練習です。否定の応答では、「まだです」と「~と 思っています」を使って答えます。「まだ~ていません」を使うこともできますが、ここでは扱っていません。

(3) ~つもりです

【文型導入】(コンサートのパンフレットかポスターを準備)

T：10月5日と6日に、〇〇ホールでコンサートがあります。私は音楽が大好きです。

6日は土曜日で私は休みです。だから、6日のコンサートに行こうと思っ

ています。6日のコンサートに行くつもりです。

5日は、金曜日で休みじゃありません。だから、5日には行きません。5日のコンサートには行かないつもりです。

▶ 6. [~つもりです] を使った質問応答練習です。丁寧体での練習ができれば、普通体で話す練習もしてください。

▶ 7. [~と 思っています] と [~つもりです] を使った自由応答練習です。

《会話》

1. エリカとみえこが夏休みの宿題(作品)について話している場面です。〈意向形〉がどこで、どのような意味で使われているか、確認してください。

2. 教室で先生とヒトシ、トムが9月の作品展に出品する作品について話している場面です。同様に、子どもたちと休みや行事の予定・計画について話し合ってみてください。



54か



1. 疑問文を他の文の中に組み込んで、疑問に思っていることが表現できる。
2. 試しにやってみることが表現できる。



文法のポイント解説

(1) まめでんきゅうは どれが あかるいか、くらべましょう。

疑問詞＋普通形＋か、～ (※ <～だ>)

1つの文の中に、別の疑問文を組み込んだ文型です。ここで組み込む疑問文は、疑問詞を含む疑問文（いわゆるWH疑問文）です。

(2) まめでんきゅうが あるか どうか、しらべて ください。

普通形＋かどうか、～ (※ <～だ>)

1つの文の中に、疑問詞を含まない疑問文を組み込んだ文型です。ここで組み込む疑問文は、「はい」「いいえ」で答えられる選択疑問文です。そこから「Aであるか、Aでないか」という意味を表します。次の例)のように「～か～ないか」という文型もありますが、ここでは扱っていません。

例) あした、サッカーをするかしないか、わかりません。

(3) かねでんちと まめでんきゅうを つないで みます。

動詞 <て形> ＋みます

どんなものか、どんな具合かなどを知るために、試しに何かをしてみるという意味を表します。「みます」はグループ2の動詞と同様に活用し、文末が「～てみましょう」「～てみよう」「～てみたい」などのように変化します。



指導のヒント

(1) **疑問詞＋普通形＋か、～**

【文型導入】

T: 今から絵を描きます。何を描いてもいいです。何を描きますか。決めましょう。
何を描くか、決めましょう。

- ▶ 1. 「疑問詞＋～か、～」を使って2文を1文にする練習です。初めに、各設問の疑問詞を確認し、疑問文の文末を普通形に変える練習をしてください。

(2) **普通形＋かどうか、～**

【文型導入】

T: 校長先生は、今、校長室にいますか。いませんか。わかりません。
校長先生は、今、校長室にいるかどうか、わかりません。

- ▶ 2. [～かどうか, ～] を使って2文を1文にする練習です。初めに, 各設問の疑問文の文末を普通形に変える練習をしてください。

応用 有名人やアニメのキャラクターにインタビューしたいことを考えて発表します。次の例) のように, 「○○に」「～かどうか」「聞きたいです」を必ず使って話すようにしてください。

例) ドラえもんに, たこ焼きが好きかどうか, 聞きたいです。

(3) 動詞〈て形〉+みます

【文型導入】(CDを数枚準備)

T: これは○○先生のCDです。どんな音楽ですか。ちょっと聞きたいです。
ちょっとCDを聞いてみます。(可能ならCDを少し聞く)

- ▶ 3. [～てみます] を使って話す練習です。初めに, 選択肢の動詞を〈て形〉に変える練習をしてください。

- ▶ 4. 「～てみましょう」を普通形「～てみよう」に変える練習です。

応用 ▶ 4. の設問(枠囲みの中)の2文を, [疑問詞+～か, ～] を使って1文にします。

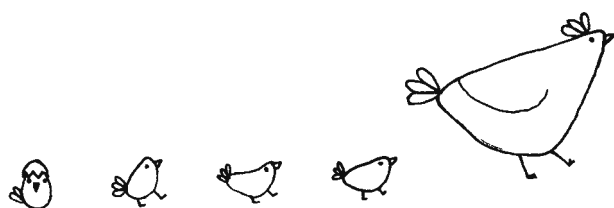
- ▶ 5. [～かどうか, ～] と [～てみます] を使って話す練習です。まず, [～かどうか, ～] の形を作る練習をしてください。一通りできたら, 1) と2) も普通体に変えて話してみよう。

- ▶ 6. 「～てみたいです」を使って話す練習です。1) も普通体に変えて話してみよう。

応用 ▶ 3. の「～てみます」を「～てみたいです」に変えて話す練習をします。

《会話》

1. 理科室で, 豆電球をつなぐ実験をしている場面です。会話文に入る前に, 「豆電球」「乾電池」「つなぐ」などの実験器具類の意味を確認してください。みえことルイスの会話部分は, みえこの役を先生に変えて, 丁寧体で話す練習もしてみてください。「～てみよう」という表現は, 各教科の教科書にはたくさん使われています。探してみるといいでしょう。





55か



1. 命令や指示を理解することができる。
2. 声援を送ることができる。



文法のポイント解説

(1) あかぐみ がんばれ。

動詞〈命令形〉

相手に対して、何かの動作を強要する時に使います。非常に強い響きを持つので、日常生活では緊急性を必要とする場合など、使う場面は限られています。この課では、励ましや声援を送る際の表現や、交通ルールに関する表現を取り上げています。

動詞〈命令形〉の作り方

グループ2：〈辞書形〉最後の「る」を取って、「ろ」を付ける。

グループ1：〈辞書形〉最後の「う」段の音を、「え」段の音に変える。

グループ3：する→しろ　くる→こい

「ある」「できる」「わかる」などの意志を含まない動詞（無意志動詞）には命令形はありません。この点については、次の〈禁止形〉も同様です。

子ども同士（主に男子）の会話で〈命令形〉の表現を使うことがありますが、強制力が強いため、相手を嫌な気持ちにさせる場合があるので、注意をうながしておいてください。

(2) しろぐみ、まけるな。

動詞〈禁止形〉

相手に対して、何かの動作をしないように命令する時に使います。命令形と同様に、非常に強い響きを持つので、日常生活では使う場面が限られています。禁止形についても、この課では主に励ましや声援を送る際の表現や、交通ルールに関する表現として学習します。

動詞〈禁止形〉の作り方

グループ1, 2, 3：〈辞書形〉の最後に「な」を付ける。

★ ～は～という意味です

あることばの意味を定義したり、記号や標識などの意味を説明をしたりする時に使う文型です。質問する場合には、疑問詞「どういう」を使います。



指導のヒント

(1) 動詞〈命令形〉，動詞〈禁止形〉

【文型導入】（ミニカー、みえことトムの紙人形を準備。黒板に十字路の交差点図を描く）

T：（交差点図の上で、ミニカーとみえこがぶつかりそうになる状況を演じる）

あぶない！ トムさんが言います。「とまれ！」

（「とまれ！」と「止まりなさい！」は同じ意味と説明）

（交差点図にナイフの絵を描き加える）道路に、ナイフが落ちています。みえこさんが、手をのばします。でもトムさんが言います。「さわるな！ あぶないよ！」

（「さわるな！」と「さわらないでください！」は同じ意味と説明）

【活用形の導入】『続みえこ』p.83の活用形リストで、〈命令形〉と〈禁止形〉の説明と口頭練習を行います。

- ▶ 1. 〈命令形〉と〈禁止形〉を正しく作る練習です。口頭練習の後で、まず〈辞書形〉の空欄を全部埋めてから、〈命令形〉と〈禁止形〉を書き込むようにしてください。
- ▶ 2. 〈命令形〉を使って、命令文を作る練習です。
- ▶ 3. 絵を見て、禁止文を作る練習です。〈禁止形〉を使います。
- ▶ 4. 命令文や禁止文を作る練習です。1)～5)の文を話すときには、それぞれ初めに「あぶない！」と言うと、緊急な状況であることが子どもにも理解できるでしょう。
- ▶ 5. 励ましや声援を送る練習です。それぞれの吹き出し内の上の段は、[～てください]と[～ないでください]の「ください」を取った形の表現です。下の段は、〈命令形〉か〈禁止形〉を使った表現です。上段と下段の表現の意味は同じだけれども、日常会話では、女子は上段の表現をよく使うことを説明してください。

★ ～は～という意味です

【文型導入】（「立入禁止」と書いた貼り紙、先生とヒトシの紙人形を準備）

ヒトシ：先生、あの漢字は何ですか。あの漢字はどういう意味ですか。

先生：あれは「中に入らないでください」という意味です。「中に入るな」という意味です。

- ▶ 6. 交通標識や貼り紙等の意味を教えてもらう表現の質問応答練習です。質問文は「あの○は、～」となっているので、標識や貼り紙等は少し遠くに貼って、指でさしながら口頭練習をしてください。
- ▶ 7. 上記▶ 6. と同様の表現を、普通体で質問応答する練習です。
応用 ▶ 6. を普通体で質問応答する練習をしてみてください。

《会話》

1. 運動会で、リレーを応援している場面です。声援や注意のために〈命令形〉〈禁止形〉が使われています。どこに使われているか探してみてください。このほかに、サッカーや野球の試合などでどんな声援を送るか、考えるといいでしょう。
2. 運動会の日、昇降口でヒトシが先生に「立入禁止」の意味を尋ねている場面です。先生の会話部分をみえこに変えて、普通体で話す練習もしてみてください。発展練習として、体育で使う「前にならえ」や「回れ右」などの号令がどんな意味か、いっしょに動作をしながら考えてみるといいでしょう。



56か



1. 自動詞と他動詞のちがいが理解できる。
2. 自動詞と他動詞を的確に使って、話をする事ができる。



文法のポイント解説

(1) みえこさんは 電気を つけます。(たどうし)

～は (目的格) を 他動詞

動詞には自動詞と他動詞があり、「(目的格) を」を取るものが他動詞になります。ただし、以下の場合は「を」があっても、自動詞になります。

- ① 「(通過する場所) を」 例) 「山を歩く」「公園を散歩する」「道を渡る」
- ② 「(離れる場所) を」 例) 「部屋を出る」「バスを降りる」

ここでは自動詞と他動詞が対になっているものだけを取り上げていますが、全体からすると、それほど多くはありません。例) のように対になる自動詞を持たない他動詞が、多数あります。

例) 「(手紙を) 書く」「(本を) 読む」「(車を) 買う」「(写真を) 撮る」

(2) でんきが つきます。(じどうし)

(主格) が 自動詞

他動詞と反対に、「(目的格) を」を取らないものが自動詞になります。自動詞は以下の2つに分類されます。

- ① 意志的自動詞 例) 行く, 来る, 起きる, 寝る, 歩く, 泳ぐ
- ② 非意志的自動詞 例) 開く, 閉まる, つく, 消える, 落ちる, 割れる

①の意志的自動詞は、対になる他動詞を持っていません。②の非意志的自動詞には、他動詞と対になっているものが多くあります。この課で扱っているのは、その代表的なものです。

★対をなす自動詞と他動詞

対になっている自動詞と他動詞は形も意味も似ています。他動詞が人などの働きかけによる意志的な行為を表すのに対して、自動詞は非意志的で自然発生的な行為を表します。

両者の形の対応は複雑ですが、一般的に、自動詞と他動詞の〈辞書形〉の語末に関しては、以下のようなことが言えます。

- ① 「～す」は他動詞 例) 消す, 出す, 壊す, 落とす, こぼす
- ② 「～れる」は自動詞 例) 破れる, 壊れる, こぼれる (例外: 入れるは他動詞)
- ③ 「あ」段の音 + 「る」は自動詞

例) 閉まる, 止まる, 見つかる, 上がる, 変わる

「あ」段の音を「え」段の音に変えると他動詞

例) 閉める, 止める, 見つける, 上げる, 変える

なお、グループ3の「～する」動詞の中には、自動詞と他動詞が同じ形のものがあります。

例) {問題が解決する (自動詞) { 車が停止する (自動詞)
 {問題を解決する (他動詞) { 車を停止する (他動詞)

『続きえこ』では、引き続き57課で [自動詞〈て形〉+います]、58課で [他動詞〈て形〉+あります] を学習します。自動詞・他動詞は定着しにくいので、復習を繰り返してください。



指導のヒント

(1) ～は (目的格) を 他動詞

【文型導入】

T: (教室のドアを開けながら) 開けます。私はドアを開けます。
(教室のドアを閉めながら) 閉めます。私はドアを閉めます。
(教室の電気を消しながら) 消します。私は電気を消します。
(教室の電気をつけながら) つけます。私は電気をつけます。

- ▶ 1. 左側の「～は (目的格) を 他動詞」の形の練習をします。テキストの絵を利用して、絵カードを作るといいでしょう。練習する時は、動詞だけではなく「(私は) ドアを開けます」のように、必ず文の形で言うように指導してください。
- ▶ 3. 左側の「他動詞」の文を完成させます。助詞は「を」を使います。

(2) (主格) が 自動詞

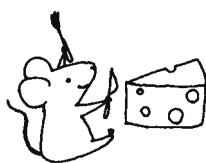
【文型導入】(「ドアが開く」「ドアが閉まる」の絵カードを準備)

T: スーパーへ行きました。ドアが開きます。スーパーの中に入ります。ドアが閉まります。

- ▶ 2. 右側の「(主格) が 自動詞」の形の練習をします。▶ 1. と同様に絵カードを作ってみてください。練習する時は、動詞だけではなく「ドアが開きます」のように、必ず文で言うように指導してください。
- ▶ 3. 右側の「自動詞」の文を完成させます。助詞は「が」を使います。
応用 表に自動詞 (黒で書く)、裏に他動詞 (赤で書く) を書いたカルタを作ります。本書p.12を参考にして、練習してください。テキストの絵を利用し、絵カルタも作るといいでしょう。

《会話》

1. 学校で、自動詞や他動詞を使って話している場面です。それぞれの自動詞を他動詞の表現に、他動詞を自動詞の表現に言い換える練習もしてみてください。





57か



1. 「～ています」を使って、いろいろな物の状態が表現できる。
2. 「～てしまいました」を使って、すでに起こった事態について、残念、後悔、遺憾などの気持ちが表現できる。



文法のポイント解説

(1) でんきが ついています。

自動詞〈て形〉+います

【動詞〈て形〉+います】は、①動作の継続を表す場合と、②状態の継続を表す場合があります。②の場合は、さらに下記のⒶ ⓑのように2つの意味を表します。

①動作の継続を表す場合（『みえこ』参照）

| | | |
|----------|--------------------|-----------|
| 動作の開始 | 動作の継続 | 動作の完了 |
| りんごを食べます | りんごを <u>食べています</u> | りんごを食べました |

→

②状態の継続を表す場合

Ⓐ動作の結果から生じた、人の状態を表す（『読みえこ』43課参照）。

| | | |
|---------|-------|-------------------|
| 動作の開始 | 動作の完了 | 動作の結果生じた状態の継続 |
| シャツを着ます | 着ました | シャツを <u>着ています</u> |

→

Ⓑ特に自動詞を使って、瞬間的な作用（変化）の結果から生じた、物の状態を表す。

| | | |
|----------|-------|--------------------|
| 変化の開始 | 変化 | 変化の結果生じた状態の継続 |
| りんごが落ちます | 落ちました | りんごが <u>落ちています</u> |

→

この課では、上記Ⓑ「変化の結果から生じた物の状態」を表す【自動詞〈て形〉+います】を学習します。この文型は、普通体の会話文では「～て(い)る」になります。テキストで取り上げている例文以外では、以下のようなものが【～ています】の形でよく使われます。

例) シャツが汚れています、ポケットがついています、かぎがかかっています、ボタンがとれています・はずれています、道がすいています・こんでいます

(2) ガラスを わって しまいました。

動詞〈て形〉+しまいました

この文型は、普通体の会話文では「～てしまった」や縮約形の「～ちゃった」が使われます。【～てしまいました】には、以下のような2つの意味がありますが、ここでは①のみを取り上

げています。

①すでに起きた事態に対して、残念、後悔、遺憾などの気持ちを表す。

例) さいふをなくしてしまいました。

②動作の完了を表す（この場合は「～てしまいます」の形も使います）。

例1) A：いっしょに昼ごはんを食べませんか。

B：もう食べてしまいました。

例2) A：サッカーをしませんか。

B：ちょっと待ってください。今やっている宿題をしてしまいます。



指導のヒント

(1) 自動詞〈て形〉＋います

【文型導入】（ボールを準備）

T：（机の隅にボールを置く）ボールが落ちます。落ちました。ボールが落ちています。

【自動詞の復習】『続みえこ』pp.88～89の右側の「自動詞」の復習をします。これらの自動詞を〈て形〉や「～ています」に変える練習もしてください。

▶ 1. [自動詞〈て形〉＋います] を使って、いろいろな物の状態を表現する練習です。

◎応用『続みえこ』pp.88～89の右側の「自動詞」を使って、同様の練習をしてください。

▶ 2. 実際の教室の様子について、適当な自動詞を選択する問題です。

(2) 動詞〈て形〉＋しまいました

【文型導入】（みえこの紙人形を準備）

T：国語の時間、みえこさんは教科書を忘れました。先生に言います。

みえこ：先生、すみません。教科書を忘れてしまいました。

T：給食の時間、みえこさんはカレーをこぼしました。エリカさんのシャツを汚しました。

みえこ：あ、いけない！カレーをこぼしてしまいました。エリカさんのシャツを汚してしまいました。ごめんなさい。

▶ 3. トムさんが大変だったことについて書いた作文を、[～てしまいました] を使って完成させます。

▶ 4. 「～てしまいました」の縮約形「～ちゃった」を使って、普通体で話す練習です。

◎応用 困ったことや失敗したことについて、子どもと話してください。

《会話》

1. 失敗したことについて、子どもが先生に謝っている場面です。失敗したり、何かをなくして困ったりしている状況を提示して、「どうしたんですか」と「～てしまったんです（しまいました）」を使って、会話練習をするといいでしょう。

2. みえこさんとお母さんが、みえこさんの部屋の様子について話している場面です。泥棒が入る前と、入った後の部屋の絵などを準備し、この会話のように[～ています]と他動詞を組み合わせて、会話練習をしてみてください。



58か



1. 「～てあります」を使って、いろいろな物の状態が表現できる。
2. 「～ておきます」を使って、事前に準備する必要があることを理解したり、伝えたりできる。



文法のポイント解説

(1) なまえが かいて あります。

他動詞〈て形〉＋あります

〔自動詞〈て形〉＋います〕は、瞬間的な作用（変化）の結果から生じた、物の状態を表します（例1）（『続みえこ』57課参照）。一方、〔他動詞〈て形〉＋あります〕は、ある目的のために、人が行った行為の結果から生じた、物の状態を表します（例2）。

例1) 部屋のドアが開いています。

例2) 猫が出入りできるように、部屋のドアが開けてあります。

なお、〔(もう)～てあります〕は、例3)のようにすでに準備ができているという意味を表しますが、ここでは取り上げていません。

例3) きょうは誕生日会です。(もう) 部屋がそうじしてあります。ケーキも買ってあります。

(2) にちようびまでに ゲームを かんがえて おきます。

動詞〈て形〉＋おきます

普通体の会話文では、「～ておく」や、縮約形の「～とく」の形になります。これらはいずれも以下の3つの意味を表しますが、ここでは①の用法のみを、取り上げています。

①準備：ある目的のために、前もって準備しておくこと。

例) 旅行の前に、電車の切符を買っておきます。

②事後措置：ある行為が終わった後で、処置をしておくこと。

例) ジュースを飲んだ後で、コップを洗っておきます。

③放置：現在の状態を変えずに、そのまま放置しておくこと。

例) A：窓を閉めましょうか。

B：暑いですから、開けておいてください。

「準備」を表す〔～ておきます〕の過去形と、「準備ができている」という意味の〔～てあります〕は、ほぼ同じ意味を表します（上記(1)の例3)を参照）。

例) { 部屋をそうじしておきました。
 { 部屋がそうじしてあります。

なお、〔～ておきます〕と、よくいっしょに使われる「～までに」は、動作の期限や締め切りを表し、動作はそれ以前のある時点に行われることを示します。



指導のヒント

(1) 他動詞〈て形〉＋あります

【文型導入】(世界地図を準備)

T：ブラジルはどこにありますか。

S：わかりません。

T：ブラジルがどこにあるか、知りたいです。(地図を貼る) 壁に地図を貼りました。壁に地図が貼ってあります。ブラジルはここです。

【他動詞の復習】『続みえこ』 pp.88～89の左側の「他動詞」の復習をします。〈て形〉も練習してください。

- ▶ 1. [他動詞〈て形〉＋あります] を使って、いろいろな物の状態を表現する練習です。
 (応用) 「～はどこに～てありますか」と聞きながら、質問応答練習をしてください。
- ▶ 2. 「～てある」を使った普通体の会話文の練習です。

(2) 動詞〈て形〉＋おきます

【文型導入】

T：遠足に行きます。遠足に行く前に、何をしますか。

S：おやつを買います。

T：おやつを買っておきます。遠足はあさってです。いつ、おやつを買いますか。

S₁：きょう買います。

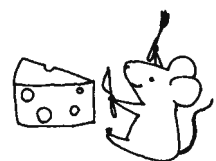
S₂：あした買います。

T：遠足までに、おやつを買っておきます。

- ▶ 3. いつまでに、どんな準備をしておかなければならないかを考え、[～ておきます] を使って、文を完成させます。
- ▶ 4. 『続みえこ』 p.94の「放課後」の《会話》を見て、文を完成させます。
- ▶ 5. 「～ておく」「～とく」を使った普通体の会話文の練習です。

《会話》

1. 落とし物について話している場面です。実際の教室や、自分の部屋の様子について話してみてください。絵や写真なども利用するといいでしょう。
2. くみさんのお別れ会の計画について、みんなで話し合っている場面です。誕生会の計画や、理科の実験、調理実習の準備などの状況を提示して、だれが何をしておくかを、グループごとに相談しながら決めてみてください。





59か



1. 「～そうです」を使って、変化の予測、およびほかの人や物の様子が表現できる。
2. 話し手が、ほかの人のために行う行為について言い表せる。



文法のポイント解説

(1) あめが ふりそうです。

動詞〈～ます〉＋そうです (様態)

〔～そうです〕は人や物の様態を表現し、動詞に付く場合は下記の意味を示します。

①状況が変化する直前の状態を表す。「今にも」「もうすぐ」などの副詞と共に使われる。

例) 今にもろうそくの火が消えそうです。

②今後、起こりそうな事態の予測を表す。「これから」などの時を表す副詞と共に使われる。

例) これから寒くなりそうです。

なお、否定形は「～そうにもありません」(「に」または「も」は省略可)になります。

(2) ケーキが おいしそうです。

い形容詞〈～い〉
な形容詞〈～な〉 } +そうです (様態)

(※「いい」は「よさそうです」, 「ない」は「なさそうです」)

〔～そうです〕が形容詞に付く場合は、外観の印象から判断して、ほかの人や物がどんな様子に見えるかを表します。ただし、一見してすぐ様子がわかる場合には使えません。

例) この花はきれいそうです。(誤)

この花はきれいです。(正)

〔～そうです〕は、な形容詞と同じ活用をするため、後ろに名詞が来る時は「高そうな車」、動詞などが来る時は「泣きそうになりました」となります。なお、否定形は「～さうじゃありません」、または「～なさそうです」になります。〔～そうです〕は、様態だけではなく伝聞(『続みえこ』62課)を表す場合もあるので、注意をうながしてください。

(3) わたしは エリカさんに にほんごの うたを おしえてあげました。

動詞〈て形〉＋あげます

『みえこ』では、ほかの人に物を与える表現〔～をあげます〕を学習しました。この課では、動詞〈て形〉を使って、ほかの人のためにある行為を行うことを言い表す授受表現〔～てあげます〕を学習します。なお、目上の人には〔～てさしあげます〕、目下の人や動物・植物などには〔～てやります〕を使いますが、ここでは取り上げていません。

〔～てあげます〕や〔～てさしあげます〕は、目上の人などに対して直接使うと、押し付けがましく失礼な感じするので、注意をうながしてください。直接話す時は〔～ましょうか〕

(『続みえこ』41課) や謙譲語を使います。

例) 先生、かばんを持って(さし)あげます。(誤)

先生、かばんを持ちましょうか。(正)



指導のヒント

(1) 動詞〈～ます〉＋そうです(様態)

【文型導入】(ボールを準備)

T: (机の真ん中にボールを置く) ボールは机から落ちません。(机の隅にボールを置く)
ボールが…。まだ落ちません。落ちます!ボールが落ちそうです。

▶ 1. [動詞: ~そうです] を使って、状態が変化しそうな様子を表現する練習です。

◎**応用** 『続みえこ』 pp.88~89の動詞などを使って、同様の練習をしてみてください。

(2) い・な形容詞: ~そうです(様態)

【文型導入】(クッキーの絵(写真)が載っている箱を準備)

T: クッキーです。おいしいですか。わかりません。クッキーの絵(写真)を見て、思います。たぶんおいしいです。おいしそうです。

▶ 2. [い形容詞: ~そうです] を使って、人や物の様子を表現する練習をします。

▶ 3. [な形容詞: ~そうです] を使って、▶ 2. と同様の練習をします。

▶ 4. [~そうです] の文を完成させます。動詞、形容詞の練習文が順不同に提示されているので、注意してください。

(3) 動詞〈て形〉＋あげます

【文型導入】(みえこの紙人形を準備)

T: みえこさんは病気です。(みえこに向かって言う) いっしょに保健室へ行きましょうか。
みえこ: ありがとう。お願いします。

T: 私はみえこさんといっしょに保健室へ行きました。私はみえこさんといっしょに保健室へ行ってあげました。

▶ 5. [~てあげました] を使って、自分がほかの人のために行った行為について話す練習をします。

▶ 6. 普通形で書かれたみえこさんの日記です。『続みえこ』 p.97の「みえこさんの家で」の《会話》を見て、文を完成させます。

《会話》

1. みえこさんがエリカさんのために、いろいろなことをしてあげている場面です。自分がほかの人のためにしてあげたことや、困っている人のために何をしてあげたいかなどを話してみてください。
2. 天気について話している場面です。部屋の様子やいろいろな人について、写真や絵などを見ながら、[~そうです] を使って、話してみてください。



60か



1. ほかの人が話し手に与えた物について、感謝を込めて言い表せる。
2. ほかの人が話し手のために行った行為について、感謝を込めて言い表せる。



文法のポイント解説

(1) みえこさんは わたしに ハンカチを くれました。

～はわたしに ～を くれます

『みえこ』では、物のやりとりを表す授受表現を学習しました。

例1) AさんはBさんに本をあげました。 BさんはAさんに本をもらいました。
物の受け手が「私」の場合は、[～をあげます]の代わりに[～をくれます]を使います。

例2) Aさんは私に本をくれました。 私はAさんに本をもらいました。
上記のように物の受け手が「私」の場合、「私～」はよく省略されます。

例3) Aさんが本をくれました。 Aさんに本をもらいました。

なお、受け手が「私の家族」や「私と同じグループに属する人」の場合も、例4)のように「くれます」を使いますが、ここでは扱っていません。また、物の与え手が目上の人の場合は、例5)のように[～をくださいます][～をいただきます]を使いますが、これもここでは取り上げていません。

例4) Aさんは妹に本をくれました。

例5) 先生は私に本をくださいました。 私は先生に本をいただきました。

(2) みえこさんは わたしに にほんごの うたを おしえて くれました。

～はわたしに 動詞〈て形〉+くれます

『続みえこ』59課では、ほかの人のためにある行為を行うことを言い表す授受表現[～てあげます]を学習しました。この課では、ほかの人が、話し手のために行った行為について、感謝の気持ちを込めて言い表す授受表現[～てくれます]を学習します。

行為のやりとりについても、物のやりとりの場合と同様に、受け手が「私」(「私の家族」や「私と同じグループに属する人」)の場合は、[～てあげます]の代わりに[～てくれます]を使います。行為の与え手が目上の人の場合は[～てくださいます]を使いますが、ここでは扱っていません。

なお、「私」といっしょに使われる助詞は、以下のように動詞によって違います。「私～」はよく省略され、この課でもでも「教える」以外は、省略した形を取り上げています。

①「私に」：「教える」「貸す」「見せる」「(荷物を)送る」「作る」「買う」「歌う」「読む」「書く」など

例) Aさんは私に本を貸してくれました。=Aさんが本を貸してくれました。

② 「私を」：「連れて行く」「案内する」「(車で)送る」「誘う」「呼ぶ」「助ける」など
例) Aさんは私を助けてくれました。=Aさんが助けてくれました。

③ 「私の」+「名詞」：「持つ」「運ぶ」「洗う」「直す」「(写真を)撮る」「そうじする」
「洗濯する」など

例) Aさんは私のかばんを持ってくれました。=Aさんがかばんを持ってくれました。

(3) わたしは みえこさんに にほんごの うたを おしえて もらいました。

わたしは ~に 動詞〈て形〉もらいます

[~てもらいます] は [~てくれます] とほとんど同じ使い方をしますが, [~てくれます] のほうが, 行為を行った人が自ら積極的に行ったという感じが含まれます。行為の与え手が目上の人の場合は [~ていただきます] を使いますが, ここでは扱っていません。



指導のヒント

(1) ~は わたしに ~を くれます

【文型導入】(エリカとまりこの紙人形と造花を準備)

T: きょうはまりこさんの誕生日です。

エリカ: (エリカはまりこに花を渡す) プレゼントです。どうぞ。

まりこ: ありがとう。

T: エリカさんはまりこさんに花をあげました。まりこさんはエリカさんに花をもらいました。

(エリカの紙人形と造花を準備)

T: きょうは私の誕生日です。

エリカ: (エリカは私(T)に花を渡す) プレゼントです。どうぞ。

T: ありがとう。

{ わたしはエリカさんに花をもらいました。
エリカさんはわたしに花をくれました(あげました)。

(上記の文を板書し, 「2つの文は大体同じ意味です」と言う。また, 「私に」の時は「あげます」ではなく「くれます」を使うことを説明する)

- ▶ 1. (トム, まりこ, みえこの紙人形を準備) [~をあげます] [~をくれます] [~をもらいます] の使い方のちがいを確認します。(Tはみえこの役割をする)
- ▶ 2. [~は私に~をくれました] [私は~に~をもらいました] を使って, ほかの人が私(みえこ)に与えた物について話す練習をします。
- ▶ 3. ▶ 2. と同様にほかの人が私(トム)に与えた物について話す練習をします。
- ▶ 4. 質問に対して「~が~をくれました」を使って答えます。与えた人(主格)を示す助詞は「が」を使います。

◎ 応用 ◎ 同じ質問を子どもにしてみてください。

(2) **～は わたしに 動詞〈て形〉＋くれます**

【文型導入】(まりこの紙人形を準備)

T：私は郵便局へ行きたいです。(まりこに向かって言う) 郵便局はどこですか。

まりこ：地図を描きましょうか。

T：ありがとう。お願いします。まりこさんは地図を描きました。まりこさんは私に地図を描いてくれました。

▶ 5. (みえことエリカの紙人形を準備) (エリカの会話は上の文「～教えてくれました」だけを見ます。下の文は、次の(3)の文型導入後に見ます) [～てあげます] と [～てくれます] のちがいを確認します。

▶ 6. 「～が～てくれました」を使って、ほかの人が話し手のために行った行為について話す練習をします。助詞は「が」を使います。

○**応用** どんな状況で、だれが何をしてくれたか、子どもに質問してみてください。

(3) **わたしは ～に 動詞〈て形〉＋もらいます**

【文型導入】

T：私は郵便局へ行きたいです。

{ まりこさんは **わたしに** 地図を かいてくれました。
{ わたしは まりこさんに 地図を かいてもらいました。

(上記の文を板書し、「2つの文は大体同じ意味です」と説明する)

▶ 5. (みえことエリカの紙人形を準備) [～てあげます] [～てくれます] [～てもらいます] のちがいを確認します。

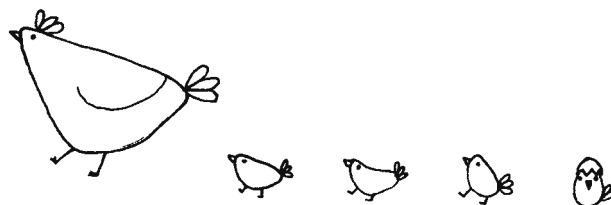
▶ 7. 「～に～てもらいました」を使って、ほかの人が話し手のためにした行為について話す練習をします。助詞は「に」を使います。

○**応用** どんな状況で、だれに何をしてもらったか、子どもに質問してみてください。

▶ 8. 普通形で書かれたエリカさんの日記です。『続みえこ』p.100の「みえこさんの家で」の《会話》を見て、文を完成させます。

《会話》

1. エリカさんとヒトシさんが、ほかの人から受けた行為について話している場面です。子どもをグループに分けて、「うれしかったこと」や「『ありがとう』と思ったこと」などを話題に各自の経験を話すといいでしょう。





61か



1. 仮定条件について、「～ば／なら」を使って表現することができる。
2. 「～ば／なら」を使って、指示や助言を求めることができる。



文法のポイント解説

(1) ねんがはがきは どこで かえば いいんですか。

動詞〈ば形〉，～

条件を示す形です。「～ば」には、「～と」（『続みえこ』37課）や「～たら」（同45課）と部分的に共通する意味・用法があります。しかし、初級の段階ではむしろ、それぞれに特徴的で基本的な意味・用法を学習します。

動詞〈ば形〉の作り方

グループ2：〈辞書形〉最後の「る」を取って、「れば」を付ける。

グループ1：〈辞書形〉最後の「う」段の音を「え」段の音に変えて、「ば」を付ける。

グループ3： する→すれば くる→くれば

動詞〈ば形〉の否定形の作り方

動詞〈ない形〉の「ない」を取って、「なければ」を付ける。

[～ば，～] は基本的に、将来起こりうる条件が2つあり、それがどちらになるか確定していないことを表現する時に使います。

例) a. 塩を入れれば、おいしくなるでしょう。

b. 塩を入れなければ、おいしくならないでしょう。

すなわち [～ば，～] は、「後件が成立するためには、前件の条件が成立しなければならない」という意味を表します。その裏には、「前件が成立しなければ後件も成立しない」という意味を含んでいます。

主な用法には、次の例1)～3) のようなものがあります。

例1) 店の人に聞けば、値段がわかります。…一般的な法則や因果関係を表す

例2) 時間があれば、よく校庭で遊びます。…くり返し行われる動作や習慣を表す

例3) 職員室に行けば、会えるかもしれません。…実現していない事を予測的に述べる
なお、この段階では、後件は、現在または未来を表す場合だけを扱い、過去は扱いません。

★ 疑問詞+動詞〈ば形〉+いいですか

何かわからないことがあったり、問題がある場合、指示や助言を求めるときに使う表現です。〈ば形〉の代わりに「～たら」（『続みえこ』45課）を使う表現も、同じ意味を表します。

(2) ねんがはがきなら、ゆうびんきよくに ありますよ。

| | |
|-----------------|---------------------|
| い形容詞 〈～い〉 + ければ | } , ~ (※ いい → よければ) |
| な形容詞 〈～な〉 + なら | |
| 名詞 + なら | |

動詞 〈ば形〉と同様、条件を示す表現です。「～ならば」という表現もありますが、ここでは扱いません。形容詞と名詞の否定形は、動詞と同様に「～ない」の「ない」を取って、「なければ」を付けます。

この課の〔名詞+なら〕は、次の例)のように、相手が提示した話題を条件として、自分の判断や主張(主に助言)を予測的に述べる用法に限定して学びます。

例) A: 年賀はがきを買いたいんですが。



B: 年賀はがき なら、あの窓口で買えますよ。

(Aが提示した話題)

(Bの判断)



指導のヒント

(1) **動詞 〈ば形〉, ~**

【文型導入】(みえこと先生の紙人形, はがきを準備)

みえこ: 先生, スペイン語で「はがき」は何と言いますか。

先生: さあ, わかりません。でも, ルイスさんはスペイン語がわかります。

ルイスさんに聞きます。わかると思います。

ルイスさんに聞けば, わかると思います。

みえこ: そうですか。ブルーノさんも, わかるでしょうか。

先生: ブルーノさんは, スペイン語がわかりません。

だから, ブルーノさんに聞いても, わからないと思います。

ルイスさんに聞かなければ, わからないと思います。

【活用形の導入】『続みえこ』p.108の活用形リストで、動詞の〈ば形〉の説明と口頭練習を行います。

- ▶ 1. 動詞 〈ば形〉を作る練習です。
- ▶ 2. 動詞 〈ば形〉を使った条件文を作る練習です。
- ▶ 3. 動詞 〈ば形〉の否定形を使った条件文を作る練習です。2)の「ありません」の〈ば形〉は「なければ」になります。

(2) **い形容詞: ~ければ, ~**, **な形容詞/名詞: ~なら, ~**,

【文型導入】(みえこと先生の紙人形を準備)

先生: みえこさん, 本が好きですか。

みえこ: はい。おもしろい時は, 1日で読みます。おもしろければ, 1日で読みます。

漢字が簡単な時, 早く読むことができます。

漢字が簡単なら、早く読むことができます。

みえこ：先生、折り紙の本を借りたいんですが、図書室にありますか。

先生：折り紙の本なら、図書室にありますよ。

【活用形の導入】『続みえこ』p.108の活用形リストで、「～ければ」と「～なら」の形の説明と口頭練習を行います。

▶ 4. 「～ければ」と「～なら」を作る練習です。

▶ 5. い形容詞の「～ければ」を使った条件文を作る練習です。

○応用▶ 5. 1)～3)の左側(前件)を否定形「～くなければ」にした時、後件はどんな文になるかを考えます。

▶ 6. な形容詞の「～なら」を使った条件文を作る練習です。

○応用▶ 6. 1)～3)の左側(前件)を否定形「～じゃなければ」にした時、後件はどんな文になるかを考えます。

▶ 7. 「名詞+なら」を使った質問応答練習です。相手が提示した話題について、自分の判断や主張(主に助言)を述べます。

★ **疑問詞+動詞〈ば形〉+いいですか**

【文型導入】(みえこ先生の紙人形を準備)

T:今日は、身体測定です。みえこさんが教室へ行きました。でも、もう、クラスみんなはいません。どこに行きますか。みえこさんはわかりません。みえこさんは、先生に聞きました。

みえこ：先生、身体測定は、どこに行けばいいですか。

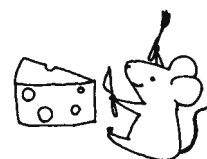
先生：保健室に行ってください。

▶ 8. 「疑問詞+動詞〈ば形〉+いいですか」を使って指示や助言を求め、それに応える質問応答練習です。

《会話》

1. エリカさんがまりこさんに年賀状について教えてもらっている場面です。実際に何枚か年賀状を準備しておくといいでしょう。まりこさんの会話部分を先生に変えて、丁寧体でも会話練習をしてみてください。

2. ルイスさんが先生に、年賀はがきについて教えてもらっている場面です。会話の中で、「～ば」「～なら」の形がどこで使われているか、探してみてください。ちなみに、年賀はがきも国際郵便で外国に簡単に送ることができます(航空便なら20円分の切手を追加貼付。「POST CARD」「AIR MAIL」と書くこと)。母国の人に送ってみてもいいでしょう。





62か



1. 「～ようです」を使って、その場の状況に基づく自分の判断が表現できる。
2. 「～そうです」を使って、ほかから得た情報を聞き手に伝えることができる。



文法のポイント解説

(1) おんがくかいの れんしゅうを はじめたようです。

普通形＋ようです (様態) (※な形容詞：〈～だ〉→〈～な〉, 名詞：〈～だ〉→ +の)

話し手の身体感覚・視覚・聴覚・味覚などを通じた観察を総合して、ものごとに対する話し手の印象や、推量的な判断を表します。他方、「～ようだ」には、断定を避け、相手に対して控えめな表現をする機能もあります。

くだけた話しことばでは「～みたいだ」が使われますが、ここでは扱っていません。

(2) 3くみは 『ドレミの うた』を うたうそうだ。

普通形＋そうです (伝聞)

自分が直接得たものではなく、ほかから得た情報を、そのまま聞き手に伝える文型です。ここでは、情報源を「～によると」で示しています。

『続きえこ』59課では、様態を表す「～そうだ」を学習しました。本課で学ぶ伝聞を表す「～そうだ」とは、文型の作り方がちがいます。まちがいやすいので、比べて確認してください。

例1) (今にも) 雨が降りそうです。(様態)

例2) 天気予報によると、雨が降るそうです。(伝聞)

普通体の会話では、しばしば例3)のように「普通形＋ん+だって」の形になります。

例3) 天気予報によると、雨が降るんだって。(伝聞)



指導のヒント

(1) **普通形＋ようです (様態)**

【文型導入】(不透明な袋の中にマッチ箱を入れて、子どもに自由に触らせる)

T: これは何でしょうか。

S: 箱? たぶん, 箱。

T: 箱のようです。(文型を導入した後で袋の中を見せる。)

▶ 1. [～ようです] を作る練習です。初めに、選択肢のことばを普通形に変える練習をしてください。

▶ 2. な形容詞と名詞を使って [～ようです] の文型を作る練習です。

応用 折り紙を4つに折って、1回だけ自由にはさみで切ります。それを広げた時、何に見えるか、[～ようです] を使ってみんなで話し合います。

- ▶ 3. 「～ようです」を使った質問応答練習です。質問には、それぞれ「音がする」「声が出る」など、自発性を示す慣用表現が含まれています（下線部分）。まず、これらの表現の形と意味を説明してください。次に、四角枠内の①～④を、[～ようです] に変えます。最後に、1)～3)の質問に合うように、①～④から応答を選んでください。

(2) **普通形+そうです（伝聞）**

【文型導入】

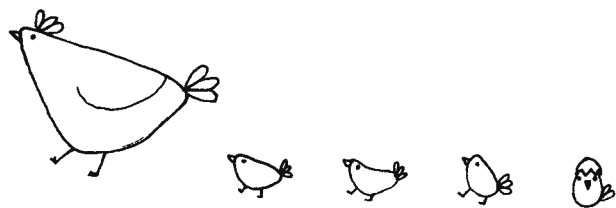
T：私は今朝、天気予報を聞きました。「明日は雨が降ります」と言いました。

天気予報によると、明日は雨が降るそうです。

- ▶ 4. [～によると、～そうです] を使って、聞いたことをそのまま伝える伝聞の練習をします。2)は「止まっているそうです」、3)は「あついそうです」になります。
- ▶ 5. [～そうです] を使った質問応答練習です。応答は、な形容詞か名詞を使った [～そうです] になっています。
- ▶ 6. くみさんからのメール文を読んで、その内容（情報）をだれかに伝える練習です。普通体で伝える場合は、「～そうだ」となります。
- ④**応用** 『伝言ゲーム』：「～そうです」を使って、順番に内緒話で伝言していきます。伝言文を2つ準備して、子どもを2つのグループに分け、早さと正確さを競います。
- ▶ 7. 「～んだって」を使って、▶ 6. のメール文の内容を普通体で伝える練習です。

《会話》

1. 隣のクラスの物音を聞いて、音楽会の練習が始まったことを推測している場面です。先生も会話に参加しているので、丁寧体で話しています。今いる教室の外の様子や、隣の部屋の様子をうかがって、「～ようです」を使って話してみてください。
2. ブルーノさんとまりこさんが、3組の音楽会のことについて、話している場面です。子どもは「ねえ、聞いた？」で始まるうわさ話が大好きです。グループで「～そうだ」や「～んだって」を使って架空のうわさ話を作り、どれが面白いか比べるといいでしょう。





63か



1. 受け身の表現を使って、他の人から受けた行為や困った体験を話すことができる。
2. 受け身の表現を使って、事実や事柄を述べるができる。



文法のポイント解説

(1) たくさんの ひとに ほめられました。

AはBに ～(ら)れます (動詞 <受身形>)

BがAに対して行った行為を、逆にその行為を受けたAの立場から、動詞 <受身形> を使って表現する文型です。AとBはそれぞれ名詞で、基本的には人ですが、Bは動く物（動物や車など）の場合もあります。Bは動作を行う主体（動作主）であり、助詞「に」を付けて表します。

動詞 <受身形> の作り方

グループ2： <辞書形> 最後の「る」を取って、「られる」を付ける。

グループ1： <辞書形> 最後の「う」段の音を「あ」段の音に変えて、「れる」を付ける。

グループ3： する→される くる→こられる (※～う → ～われる)

AはBにA[#]を ～(ら)れます (動詞 <受身形>) (A[#]は、Aの所有物を表す)

ここで「A[#]」は、Aの所有物を表し、物だけでなく「足」「頭」などAの身体の部分も含まれます（以下、同様）。

この文型は、BがAの所有物（A[#]）に対して行った行為を、Aの立場から動詞 <受身形> を使って表現するものです。多くの場合、Aが迷惑に感じていることを表します。そのため、「迷惑の受身（表現）」とも呼ばれています。

「迷惑の受身（表現）」には、「雨に降られる」「赤ちゃんに泣かれる」など自動詞を使う場合もありますが、ここでは他動詞の表現のみ扱っています。

なお、受けた行為に対してAが感謝している場合には、受身表現ではなく [～てもらいます]（『続みえこ』60課）を使います。

例) 私は友だちに傘を貸されました。 (誤)

私は友だちに傘を貸してもらいました。 (正)

(2) わたしの いすは きで つくられて いる。

(物/こと) が ～(ら)れます (動詞 <受身形>)

ある事柄について述べる時に、誰が行為を行ったかについて問題とされない場合には、「物」や「こと」を主語にし、動詞 <受身形> を使って表現します。

例) 4年ごとに、オリンピックが開かれます。

(物／こと) は ～(ら)れています

動詞〈受身形〉を〈て形〉にして、「います」を付けた表現です。話題とする「物」や「こと」について、どのような状態であるかを説明する時に使われます。

素材や材料を示す場合は「で」、原料を示す場合は「から」という助詞を使います。

例1) 割りばしは、木で作られている。

例2) 納豆は、大豆から作られている。

なお、動詞〈受身形〉は、次のようにグループ2の動詞と同じ活用をします。

食べられる → 食べられない、食べられて、食べられた、食べられれば

使われる → 使われない、使われて、使われた、使われれば



指導のヒント

(1) **AはBに ～(ら)れます (動詞〈受身形〉)**

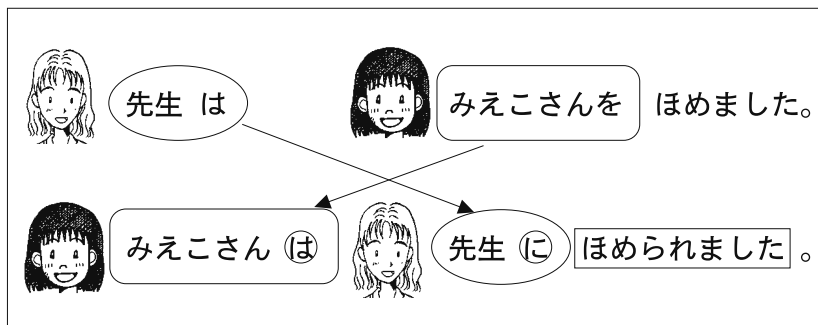
【文型導入】(みえこと先生の紙人形を準備)

T: みえこさんは、夏休みに牛乳パックでいすを作りました。とても上手だったので、先生は言いました。「みえこさん、上手ですね」。

先生はみえこさんをほめました。みえこさんは？

みえこさんは先生にほめられました。

(板書例)



【活用形の導入】『続みえこ』p.115の活用形リストで、〈受身形〉の説明と口頭練習を行います。

- ▶ 1. 〈受身形〉を作る練習です。
- ▶ 2. [AはBに～(ら)れます] の文を作る練習です。

Aは Bに A[#]を ～(ら)れます (動詞〈受身形〉) (A[#]は、Aの所有物を表す)

【文型導入】(みえことみえこの妹の紙人形、時計の絵を準備)

T: みえこさんは、時計を持っていました。みえこさんは、妹に時計を貸しました。

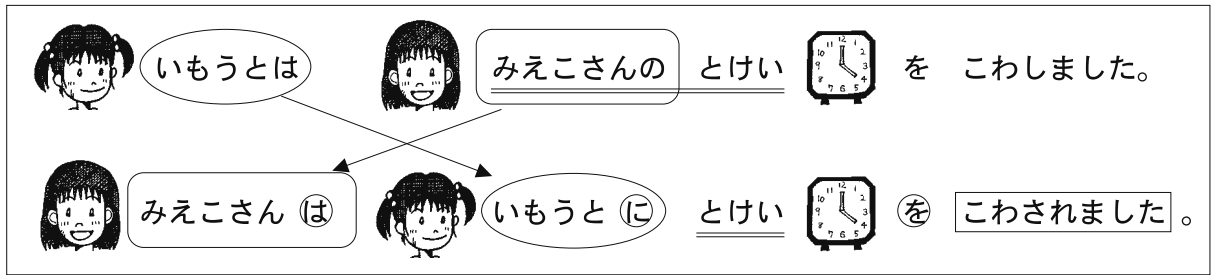
みえこの妹: お姉さん、時計貸して。

みえこ: いいわよ。

T: でも、妹はみえこさんの時計をこわしました。みえこさんは困ります。

みえこさんは妹に時計をこわされました。

(板書例)



- ▶ 3. [AはBにA#を～(ら)れます] を使って、迷惑を受けたことを表現する練習です。「みえこさんの時計は、妹にこわされました」とはならない (Aの所有物A#が主語にはならない) ことに注意をうながしてください。

(2) (物/こと) が ～(ら)れます (動詞 <受身形>)

【文型導入】(『続みえこ』 p.114の東大寺の絵を見ながら)

T: 728年に東大寺を建てました。だれが作りましたか。わかりません。だから、言いません。受身形を使います。728年に東大寺が建てられました。

- ▶ 4. [(物/こと) が～(ら)れます] の文を作る練習です。
② 応用 「給食室で」「郵便局で」「〇〇工場で」など、場所を提示し、そこでどんなことが行われているかを受身表現を使って話します。
- ▶ 5. <受身形> を、さらにいろいろな形に変える練習です。
- ▶ 6. 「～(ら)れたんです」を使って、自分が困ったり迷惑したりしている状況を説明する練習です。

(物/こと) は ～(ら)れています

【文型導入】(はしを準備)

T: みなさんは、はしを使いますね。ご飯を食べる時、日本では、はしを使っています。中国の人も使っています。韓国の人も使っています。いろいろな国の人が、はしを使っています。はしは、いろいろな国で使われています。

- ▶ 7. 「～(ら)れています」を使って、いろいろな物の状況や状態を説明する練習です。
- ▶ 8. 「～(ら)れています」を使った質問応答練習です。▶ 8. の例文を説明する際に、▶ 7. の2) も合わせて、助詞「で」と「から」の使い方のちがいを説明してください。

《会話》

1. ボランティア活動について先生に報告している場面です。受身の表現は、迷惑や困った経験の説明などによく使われ、一般に、あまりよくない表現だというイメージがあると思われます。「ほめられる」「紹介される」など良い表現でも使われることに注意をうながしてください。
2. 「ボランティアセンター」の様子について話している場面です。物を主語にして受身の表現が使われています。発展練習として、母国の施設や建造物について、みんなに紹介してみるといいでしょう。



64か



1. 動詞〈可能形〉を使って、自分の能力や行為の可能性が表現できる。
2. 助詞「は」を使って、2つの物事の対比を言い表すことができる。
3. ある目標の実現のために、自分がどのような行動をとるつもりかが表現できる。



文法のポイント解説

(1) ほんが かりられます。

動詞〈可能形〉

動詞〈可能形〉は、『続みえこ』36課で学習した[動詞〈辞書形〉+ことができます]と、ほとんど同じ意味を表します。なお、〈可能形〉といっしょに使う時、たいてい助詞「を」は「が」になります。

動詞〈可能形〉の作り方

グループ2：〈辞書形〉最後の「る」を取って、「られる」を付ける。

グループ1：〈辞書形〉最後の「う」段の音を「え」段の音に変えて、「る」を付ける。

グループ3：する→できる　くる →こられる　（※わかる→わかるる）

〈可能形〉にすることができる動詞については、以下のことが言えます。

- a. 〈可能形〉になるのは、意志的な動詞（人が意志を持って動作を行うことを示す「書く」「読む」「食べる」など）。ただし、これらの動詞も〈可能形〉になると、元の意志的な意味はなくなり、無意志的な状態を表す。
- b. 無意志的な動詞（「ある」「困る」「疲れる」など）は、〈可能形〉にならない。
- c. 「見える」「聞こえる」（『続みえこ』46課）「わかる」なども、それ自体が可能の意味を含んでいるため、〈可能形〉にはならない。

[名詞+ができます] [～ことができます]（『続みえこ』36課）と同様、〈可能形〉も能力と可能性の2つの意味を示し、この課ではどちらも取り上げています。

- ①能力：「私は英語が話せます」のように、ある行為を行う能力があるかどうかを表す。
- ②可能性：「郵便局で切手が買えます」のように、ある行為を実現することが可能であるかどうかを表す。

日常会話では、グループ2の「られる」とグループ3の「来られる」の「ら」を省略した、いわゆる「ら抜きことば」（「食べれる」「見れる」「来れる」など）がよく使われます。ここでは「られる」の形を指導し、話す時は「れる」を使うこともあると説明してください。

(2) ほんは かりられますが、ざっしは かりられません。

～は～が、～は～

助詞「は」を使って、前件と後件の対比を表します。それぞれの文末には、〈可能形〉だけではなく、対立的な意味を持つさまざまな表現が来ます。

例1) ひらがな (は) 簡単です が、漢字 (は) 難しいです。

「は」といっしょに使う場合、助詞「を」や「が」は省略されますが、それ以外の「に」「で」などの助詞は省略できません。ただし、「へ」は省略することもできます。

例2) プールで (は) 泳げます が、川で (は) 泳げません。

(3) いろいろな ほんが よめるように、かんじを べんきょうして います。

動詞 〈可能形〉 + ように、～

「〈可能形〉 + ように」を使って目標や目的を示し、それを実行するために、どのような行動をとるかを示す表現です。前件には、動詞 〈可能形〉 や「見える」「聞こえる」「わかる」などの〈辞書形〉、動詞 〈ない形〉 が用いられますが、ここでは〈可能形〉のみを取り上げています。後件には意志的な動詞を用い、前件の目標や目的を達成するために行う行動を示します。



指導のヒント

(1) 動詞 〈可能形〉

【文型導入】(「能力」を表す 〈可能形〉)

T: { わたしは日本語 (を) 話すことができます。(36か)
 { わたしは日本語 (が) 話せます (かのうけい)。

(上記の文を板書し、「2つの文は同じ意味ですが、『を』は『が』になります」と説明する)
(子どもA, Bに次のような質問をする) Aさんは笛を吹くことができますか。

A: はい、できます。

T: Aさんは笛が吹けます。Bさんはピアノを弾くことができますか。

B: いいえ、できません。

T: Bさんはピアノが弾けません。

【活用形の導入】『続みえこ』 p.119の活用形リストで、〈可能形〉の作り方の説明と練習を行います。「～ません」の形も練習してください。

▶ 1. 動詞 〈辞書形〉 から 〈可能形〉 を作る練習です。助詞「を」は「が」になります。

【文型導入】(「可能性」を表す 〈可能形〉)

(図書室の絵を準備、または『続みえこ』 p.116の絵を見る)

T: 図書室で何をしますか。

S₁: 本を借ります。

S₂: 本を読みます。

T: 図書室で本を借りることができます。本を読むことができます。図書室で本が借りられます。本が読めます。

- ▶ 2. それぞれの場所で何ができるかを考え、〈可能形（可能性）〉の文を完成させます。

○応用 いろいろな場所で何ができるか、子どもに質問してください。

- ▶ 3. 〈可能形（能力）〉を使った問答形式の練習です。

○応用 子どもに同じような質問をしてみてください。その場合は「あなた」の代わりに「**さん」を使います。子ども同士でも練習するといいいでしょう。

(2) ～は～が, ～は～

【文型導入】

T: { わたしは日本語 が 話せます。でも、でも、えい語 が 話せません。
わたしは日本語 は 話せます が、えい語 は 話せません。

(上記の文を板書し、「2つの文は同じ意味ですが、『が』は『は』になります」と説明する)

- ▶ 4. [～は～が, ～は～] を使って、対比の表現を練習します。

○応用 子どもに同じような質問をして、可能形の対比の文を作る練習をしてみてください。

(3) 動詞〈可能形〉+ように, ～

【文型導入】

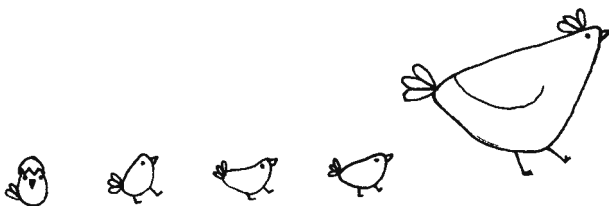
T: 私は英語が話せません。話したいです。勉強します。英語が話せます。英語が話せるように, 勉強します。

- ▶ 5. [～ように, ～] を使って自分の目標の実現のために、どうするつもりかを言う練習です。

○応用 自分がしたいことや、その実現のためにどうするつもりかを、子どもに聞いてみてください。

《会話》

1. 図書室で何ができるかできないかを聞いたり、自分ががんばっていることについて話したりしている場面です。子ども同士で、いろいろな場所で何ができるかできないかを話したり、自分ができることやできないことについて話したりするといいいでしょう。





65か



1. 「できます」を使って、事柄の完成や完了が表現できる。
2. 「～ようになります」「～なくなります」を使って、状態の変化が表現できる。



文法のポイント解説

(1) ともだちが たくさん できました。

名詞＋が できます

『続みえこ』36課では、能力を表す[～ができます]を学習しました。この課では、事柄が完成したり完了したりしたことを表す[～ができます]を取り上げています。否定の答えは「いいえ、まだです」、または「いいえ、まだできていません」になります。

(2) かたかなが かけるように になりました。

動詞〈可能形〉＋ように なります

『続みえこ』37課で、[名詞／形容詞：～なります]の文型が、人や物事の状態の変化を表すことを学習しました。動詞を使う場合は[動詞〈辞書形〉＋ようになります]となり、以下のような2つの意味を表します。なお、この課では①の場合の〈可能形〉の用例のみを取り上げています。

①動詞が能力や可能性を表す場合(〈可能形〉「見える」「聞こえる」「わかる」など)
状態の変化を表し、できない状態が、できる状態に変わるという意味を示します。

例 私は(前はさしみが食べられませんでした、今は)さしみが食べられるようになりました。

②動詞が能力や可能性を表さない場合(「書く」「読む」「食べる」など)

習慣の変化を表し、前はしなかったことを、今はするという意味を示します。

例 日本人は(昔はパンを食べませんでした、今は)パンを食べるようになりました。

(3) ブラジルの ともだちに あえなく になりました。

動詞〈可能形～ない〉＋なく なります

[動詞〈～ない〉＋なくなります]も、[動詞〈辞書形〉＋ようになります]と同様に、2つの意味を表します。なお、この課では①の場合の〈可能形〉の用例のみを取り上げています。

①動詞が能力や可能性を表す場合(〈可能形〉「見える」「聞こえる」「わかる」など)
状態の変化を表し、できる状態が、できない状態に変わるという意味を示します。

例 私は(前は速く走れました、今は)速く走れなくなりました。

②動詞が能力や可能性を表さない場合(「書く」「読む」「食べる」など)

習慣の変化を表し、前はしていたことを、今はしないという意味を示します。

例 日本人は(昔はお米をたくさん食べましたが、今は)あまりお米を食べなくなりました。



指導のヒント

(1) 名詞＋が できます

【文型導入】(『続みえこ』 p.121右上の絵を見る)

T: みえこさんはケーキを作っています。(左上の絵を見る) 終わりました。ケーキができました。

- ▶ 1. [～ができます] を使って、物事が完成したり完了したりしたことを話す練習をします。

(2) 動詞〈可能形〉＋ようになります

【文型導入】

T: (子どもA, Bについて次のような話をする) Aさんは、前は日本語が話せませんでした。今は話せます。Aさんは、今は日本語が話せるようになりました。Bさんは、前は漢字が読めませんでした。今は読めます。Bさんは、今は漢字が読めるようになりました。

【活用形の復習】動詞〈可能形〉の復習を行います。「～ない」の形も練習してください。

- ▶ 2. [～ようになりました] を使って、前はできなかったが、今はできるようになったことについて話す練習をします。

◎ 応用 どんなことができるようになったか、また何歳の時に何ができるようになったかなど、子どもに質問してみてください。

★ 動詞〈可能形〉＋ようになりたいです

【文型導入】

T: 私は泳げません。練習します。泳げるようになります。私は泳げるようになりたいです。

- ▶ 3. [～ようになりたいです] を使って、今はできないが、できるようになりたいことについて話す練習をします。

◎ 応用 どんなことができるようになりたいか、子どもに質問しながら話してみてください。

(3) 動詞〈可能形～ない〉＋なくなります

【文型導入】

T: トムさんは、去年体操服を買いました。前はこの体操服が着られました。大きくなりました。今は着られません。大きくなったので、トムさんは、体操服が着られなくなりました。

- ▶ 4. [～なくなりました] を使って、前はできたが、今はできなくなったことについて話す練習をします。

◎ 応用 どんなことができなくなったか、またその理由を子どもに質問してみてください。

《会話》

1. 卒業式を前に、子どもがそれぞれの抱負について話している場面です。既習の文型も使って、自分が何をしたいか、何になりたいか、またそれを実現するために、どうするつもりか、などをみんなで話してみるといいでしょう。



【ちょっと さんぽ】の解説

【ちょっと さんぽ】は、各課の学習項目の流れとは少し離れているけれども、学んでおいた方がいいという項目が取り上げられています。下記に解説があるもの以外は、各課の学習項目と関連が弱いので、単独で取り上げても、既習・未習の影響がほとんどありません。すべてのステップについているわけではありませんが、おおむね該当するステップ内の学習の進度と内容に合わせて選ばれています。それぞれのステップの最後に取り上げるだけでなく、学習を進める中で、時間の余裕がある時などに取り上げてもいいでしょう。

①どこか いきましたか（『続みえこ』 p.39）

[疑問詞+か]（「どこか」「何か」「だれか」）は、具体的に特定できないものを表すのに使われます。また、[疑問詞+も]（「どこも」「何も」「だれも」）は、否定文で使われる場合、全面的な否定を表します。

後に続く格助詞はよく省略されますが、「に」「で」などは、省略できません。「へ」を省略する場合は「どこか」「どこも」、省略しない場合は「どこかへ」「どこへも」となり、どちらも使われています。

[疑問詞+か]を疑問文で使う場合、答えは「はい、～」「いいえ、～」になるので、注意をうながしてください。

例1) Q:きのう、どこ か (へ) 行きましたか。 { A₁:はい、京都へ行きました。
A₂:いいえ、どこ(へ)も行きませんでした。

例2) Q:きのう、どこ へ 行きましたか。 { A₁:京都へ行きました。
A₂:どこ(へ)も行きませんでした。

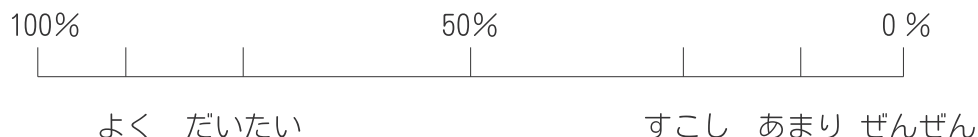
②ささかざりをつくりましょう（『続みえこ』 p.40）

笹飾りの作り方の説明です。作る時には、折り紙、糸、はさみ、のりを準備してください。

説明文の文末は、動詞の〈辞書形〉（『続みえこ』36課）が使われています。はじめに、「折る」「開く」「まるくする」「引っ張る」の意味を、ジェスチャーか実演によって教えてください。文型は、動詞〈て形〉による接続（同42課）を学べば理解できます。42課の学習後、または《会話》で七夕が話題となっている44課の学習の後で、復習や発展練習にするといいでしょう。

③にほんごが よく わかります (『続みえこ』 p.64)

「よく」「だいたい」「すこし」「あまり」「ぜんぜん」は、動詞や形容詞を修飾する副詞で、主に頻度や程度を表します。「あまり」と「ぜんぜん」は、いつも否定文で使われます。



④くらべて みよう (『続みえこ』 p.84)

「～さ」は名詞表現で、い形容詞の「い」を取って「さ」を付けて作ります。これを組み込んだのが、[Aの～さは、Bの～さの○ばいです] という文型です。初めに「○ばい」という概念を指導してください。

[～すぎます] は、基準や標準を超えている、またはそれに満たないという意味を表します。い形容詞は「い」を取って、な形容詞は「な」(「だ」)を取って「すぎます」を付けます。動詞は〈ます形〉の「ます」を取り、「すぎます」を付けます。

なお、「すぎます」の〈辞書形〉は、「すぎる」になります。グループ1の動詞ではなく、グループ2の動詞の例外扱いになります。

⑤じしんの ひなん くんれん (『続みえこ』 p.123)

「まず」「つぎに」「それから」は、動作の順番を示す時に使われる接続詞です。ものごとの手順を説明するのに、便利な表現です。

⑥ドレミの歌 (『続みえこ』 pp.124-125)

世界中で、いろいろな言語によって親しまれている歌です。メロディーを聞いたことがある子どもも多いことでしょう。『続みえこ』62課の《会話》では、音楽会で歌う曲として選ばれています。歌詞の意味も理解しやすいので、簡単に説明した後、クラスで歌ってみるといいでしょう。

参 考 文 献

● 《本書を執筆するにあたって参考にした文献》

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 岡崎敏雄・岡崎眸著，日本語教育学会編（1990）『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』凡人社
- グループ・ジャマシイ編著（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- スリーエーネットワーク編著（2000）『みんなの日本語 初級Ⅰ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク編著（2001）『みんなの日本語 初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- 高見澤孟・ハント蔭山裕子・池田悠子・伊藤博文・宇佐見まゆみ・西川寿美（2004）『新・はじめての日本語教育1』アスク
- 高見澤孟（2004）『新・はじめての日本語教育2』アスク
- 富田隆行（1991）『基礎表現50とその教え方』凡人社
- 富田隆行（1991）『文法の基礎知識とその教え方』凡人社
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2000）『どんなときどう使う 日本語表現文型200 初・中級』アルク
- 日本語教育学会編（1982）『日本語教育事典』大修館書店
- 日本語教育学会編（2005）『新版 日本語教育事典』大修館書店
- 日本語教育研究会資料シリーズ編集委員会編，バルダン田中幸子・猪崎保子・工藤節子著（1988）『プロジェクト・ワーク』，日本語教育資料シリーズ：コミュニケーション重視の学習活動1，凡人社
- 縫部義憲（1999）『入国児童のための日本語教育』スリーエーネットワーク
- 縫部義憲（2002）『多文化共生時代の日本語教育』瀝々社
- Makino, Seiichi and Michio Tsutsui (1986) *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*, The Japan Times
- 丸山敬介（1994）『日本語教育演習シリーズ① 教えるためのことばの整理 Vol.1』凡人社
- 丸山敬介（1994）『日本語教育演習シリーズ② 教えるためのことばの整理 Vol.2』凡人社
- 丸山敬介（1995）『日本語教育演習シリーズ③ さまざまな表現 Vol.1』凡人社
- 丸山敬介（1995）『日本語教育演習シリーズ④ さまざまな表現 Vol.2』凡人社
- 丸山敬介（2003）『日本語教育演習シリーズ⑤ 教え方の基本（改訂版）』凡人社
- 丸山敬介（2004）『日本語教育演習シリーズ⑥ 授業の組み立て』凡人社
- 森田良行（2004）『基礎日本語辞典（第九版）』角川書店
- 山本紀美子・荻野誠人・浅井清子・吉田絹子（1996）『子供のための日本語教育』アルク

● 《日本語指導の参考になる教材等の一覧を掲載しているホームページ》

- （公財）三重県国際交流財団 多文化共生教育「学習教材のリソース・通知文例集等 一覧」
http://www.mief.or.jp/jp/kyozai_resource.html

— 付 録 —

学習項目一覧

教科関連 絵カード



学習項目一覧 (『続みえこ』 pp.148~149再掲)

| ステップ | 課 | 場面/テーマ | 学習文型 | 主な文法 | 活用形リスト |
|---------------------------------------|-----|----------------|---|---|------------------|
| 1 | 36課 | 特技 | (1)わたしは バasketボールが できます。 (2)わたしは およぐ ことができます。 | Nができます, V-辞書形+ことができます | V-辞書形リスト |
| | 37課 | 進級 | (1)はるに になると、あたたかくなります。 (2)エリカさんは ほんごが じょうずに になりました。 | いAdj-く+なります, なAdj/N-に+なります, V-辞書形+と、～ | |
| | 38課 | 欠席連絡, 職員室 | (1)へやに はいるとき、「しつれいします」 と いいます。 (2)ねつが ありましたから、やすみました。 | V-辞書形+とき、～, いAdj/なAdj+とき、～, N+の+とき、～, 丁寧形+から、～ (理由) | |
| | 39課 | 教室での 注意 | (1)ちこくしないで ください。 (2)しずかに しなさい。 | V-ないで ください, V-なさい | V-ない形リスト |
| | 40課 | 作文の 締め切り | (1)べんきょうしなければ なりません。 (2)べんきょうしないと (いけません)。 (3)べんきょうしなくても いいです。 | V-なければ なりません, V-ないと (いけません), V-なくても いいです | |
| 2 | 41課 | 書写 | (1)きょうかしょの 34ページを ひらきましょう。 (2)てほんを よく みながら れんしゅうして ください。 | V-ましょう, V-ましょうか (申し出), V-ます形+ながら、～ | |
| | 42課 | 連休, 調理実習 | (1)でんしゃに のって、よっかいちへ いって、プラネタリアムを みました。 (2)とても きれいで、おもしろかったです。 (3)トマトは きれいです が、もう いちど あらって ください。 | V-て形による接続, いAdj/なAdj-て形, N+で, 助詞「が」(逆接) | |
| | 43課 | 家族写真 給食の配膳 | (1)きれいな ピアスを しています。 (2)トレイを とってから、フォークを とって ください。 | V-ています(状態), V-て形+から、～ | |
| | 44課 | 七夕, 星 | (1)おりひめぼしを みた ことがあります。 (2)しゃしんを みます、インターネットで しらべたり します。 | V-た形+ことがあります, V-たり、V-たり、～ | V-て形・V-た形 リスト |
| | 45課 | 遠足の予告 国語の授業 | (1)あめが ふったら、いきません。 (2)あめが ふっても、いきます。 | V-たら、～, V-ても、～, い・なAdj-たら、～, い・なAdj-ても、～, N+だったら、～, N+でも、～ | |
| 【ちょっと さんぽ】①どこか いきましたか、②ささかざりを つくりましょう | | | | | |
| 3 | 46課 | 身体測定 視力検査 | (1)これは、たいじゅうを きろくする カードです。 (2)これは みえますか。 | 連体修飾, ～が見えます/聞こえます | |
| | 47課 | 天気, スーパー | (1)いっしょに えんそくのおやつ(を) かわない? (2)わたしは はれると おもいます。 | 普通体の会話文, 普通形+と思います | 丁寧形・普通形 リスト |
| | 48課 | 保健室 | (1)かえった ほうが いいです。 (2)およがない ほうが いいです。 | V-た形+ほうが いいです, V-ない形+ほうが いいです | |
| | 49課 | 水泳 | (1)およぐまえに、たいそうを します。 (2)およいだ あとで、シャワーを あびます。 (3)しゅくだいを するのを わすれました。 | N+の+後で/前に、～, V-た形+後で、～, V-辞書形+前に、～, V-辞書形+の | |
| | 50課 | 事情説明 | (1)どうして ちこくしたんですか。 (2)かんじが わからないんですが、 おしえてください。 | 普通形+んです | 「普通形+んです」 リスト |
| 【ちょっと さんぽ】③にほんごが よく わかります | | | | | |

V=動詞, いAdj=い形容詞, なAdj=な形容詞, N=名詞

| ステップ | 課 | 場面/テーマ | 学習文型 | 主な文法 | 活用形リスト |
|------|-----|-----------|---|---|--------------------|
| 4 | 51課 | 参観日 | (1)あしたは さんかんびなので、きれいに そうじを します。 (2)おとうさんも いたかったのに、いく ことができなかった。 | 普通形+ので、～、 普通形+のに、～ | |
| | 52課 | 台風 | (1)あしたの ごごの じゅぎょうは ないでしょう。 (2)きゅうしゅくも ないかも しれません。 | 普通形+でしょう、普通形+だろう、 普通形+かもしれません | |
| | 53課 | 作品展 | (1)いっしょにつくろう。 (2)いすをつくろうと おもっています。 (3)キャンプの えを かく つもりです。 | V-意向形,V-意向形+と思っています、 V-辞書形+つもりです、 V-ない形+つもりです | V-意向形リスト |
| | 54課 | 理科の 実験 | (1)まめでんきゅうは どれが あかるいか、 くらべましょう。 (2)まめでんきゅうが あるか どうか、 しらべて ください。 (3)かんでんちと まめでんきゅうを つないで みます。 | 疑問詞+普通形+か、～、 普通形+かどうか、～、 V-て形+みます | |
| | 55課 | 運動会 | (1)あかぐみ、がんばれ。 (2)しろぐみ、まけるな。 | V-命令形、V-禁止形、 ～という意味です | V-命令形・ V-禁止形リスト |

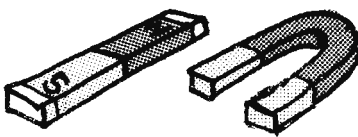
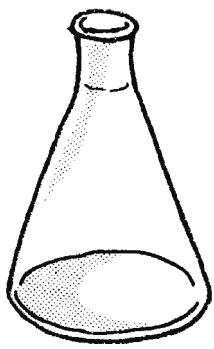
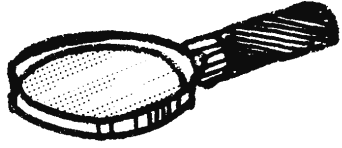
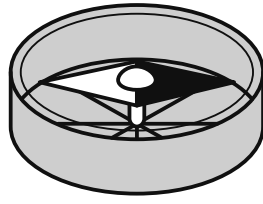
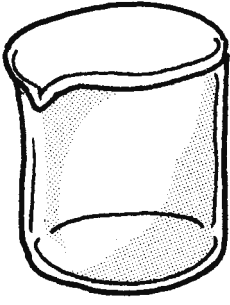
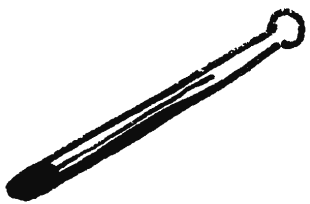

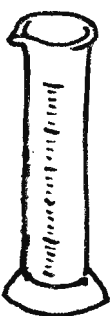
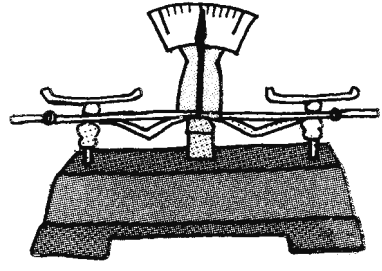

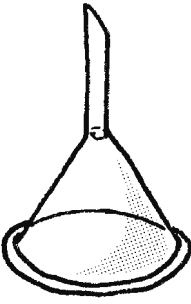
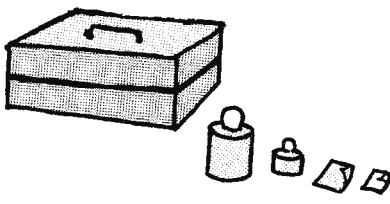
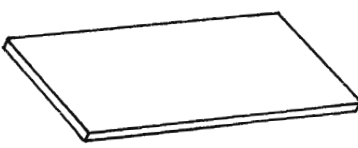
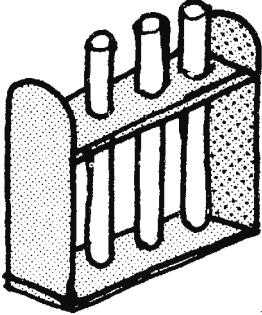
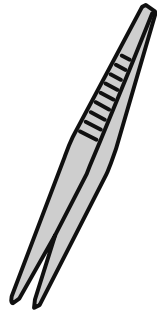
【ちょっと さんぽ】④くらべて みよう

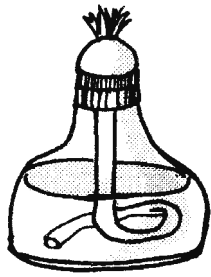
| | | | | | |
|---|-----|------------------|---|--|----------|
| 5 | 56課 | 公園の電気 | (1)みえこさんは でんきをつけます。 (2)でんきがつきます。 | 他動詞、 自動詞 | |
| | 57課 | ガラスをわる、 部屋の様子 | (1)でんきがついて います。 (2)ガラスを わって しまいました。 | 自動詞-ています、 V-て形+しまいました | |
| | 58課 | 落とし物、 お別れ会 | (1)なまえが かいて あります。 (2)にちようびまでに ゲームを かんがえて おきます。 | 他動詞-てあります、 V-て形+おきます、 | |
| | 59課 | 家へ招待 傘を借りる | (1)あめが ふりそうです。 (2)ケーキが おいしそうです。 (3)わたしは エリカさんに にほんごの うたを おしえて あげました。 | V-ます形+そうです (様態)、 い・なAdj+そうです (様態)、 V-てあげます | |
| | 60課 | 昨日の 出来事 | (1)みえこさんは わたしに ハンカチを くれました。 (2)みえこさんは わたしに にほんごの うたを おしえて くれました。 (3)わたしは みえこさんに にほんごの うたを おしえて もらいました。 | Nをくれます、 V-てくれます、 V-てもらいます、 | |
| 6 | 61課 | 年賀状 | (1)ねんがはがきは どこで かえば いいですか。 (2)ねんがはがきなら、ゆうびんきよくに ありますよ。 | V-ば形、～、 いAdj+ば、～、 なAdj・N+なら、～ | V-ば形リスト |
| | 62課 | 音楽会 | (1)おんがくかいの れんしゅうを はじめた ようです。 (2)3くみは『ドレミの うた』を うたう そうだ。 | 普通形+ようです (様態)、 普通形+そうです (伝聞) | |
| | 63課 | ボランティア 活動 | (1)たくさん の ひとに ほめられました。 (2)わたしの いすは きで つくられている。 | V-受身形、V-受身形+ています、 助詞「で」(素材)、助詞「から」(原料) | V-受身形リスト |
| | 64課 | 図書室 | (1)ほんが かりられます。 (2)ほんは かりられますが、ざっしは かりられません。 (3)いろいろな ほんが よめるように、 かんじを べんきょうして います。 | V-可能形、助詞「は」(対比)、 V-可能形+ように、～ (目的) | V-可能形リスト |
| | 65課 | 卒業式 修業式 | (1)ともだちが たくさん できました。 (2)かたかなが かけるようになりしました。 (3)ブラジルの ともだちに あえなく なりしました。 | Nができます (完成・完了)、 V-可能形+ようになりします、 V-可能形+なくなります | |

【ちょっと さんぽ】⑤じしんの ひなん くんれん、⑥ドレミの歌

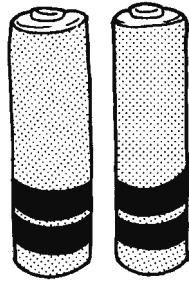
V=動詞、いAdj=い形容詞、なAdj=な形容詞、N=名詞

教科関連 絵カード

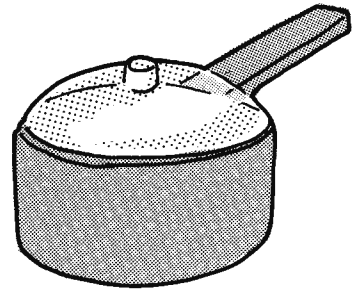
| | | |
|--|--|--|
|  <p>I - ①</p> |  <p>I - ⑥</p> |  <p>I - ⑪</p> |
|  <p>I - ②</p> |  <p>I - ⑦</p> |  <p>I - ⑫</p> |
|  <p>I - ③</p> |  <p>I - ⑧</p> |  <p>I - ⑬</p> |
|  <p>I - ④</p> |  <p>I - ⑨</p> |  <p>I - ⑭</p> |
|  <p>I - ⑤</p> |  <p>I - ⑩</p> |  <p>I - ⑮</p> |



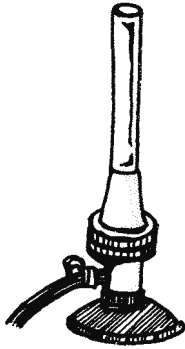
I - ⑯



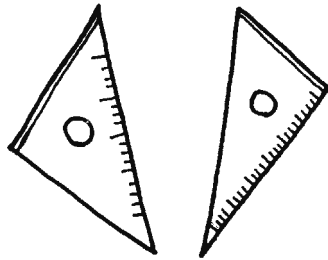
I - ⑰



III - ①



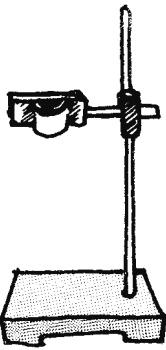
I - ⑱



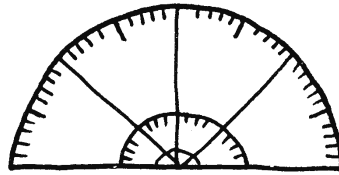
II - ①



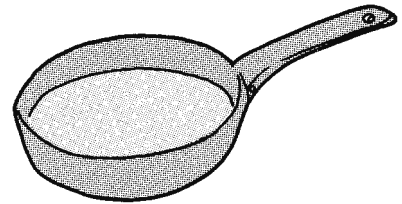
III - ②



I - ⑳



II - ②



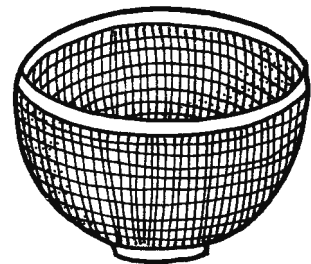
III - ③



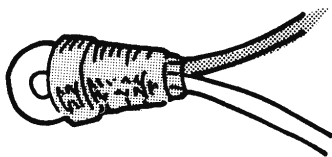
I - ㉑



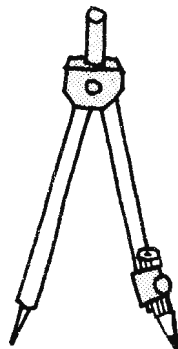
II - ③



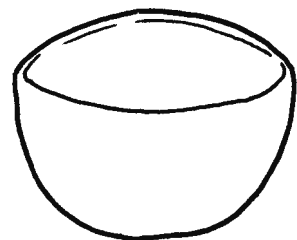
III - ④



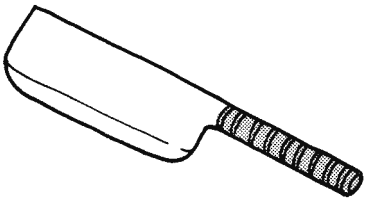

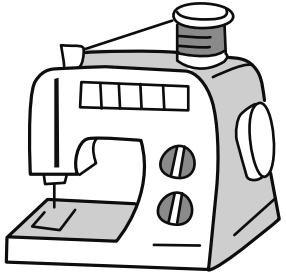
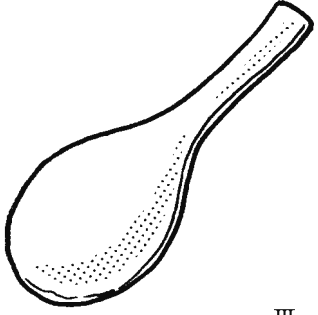

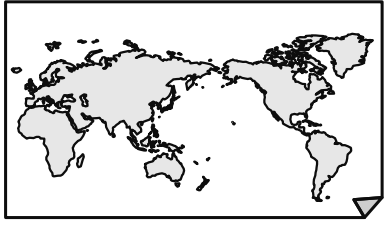
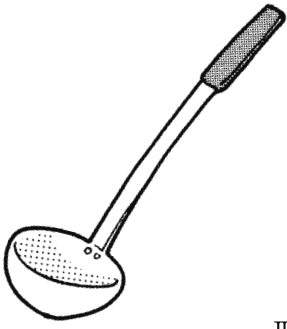
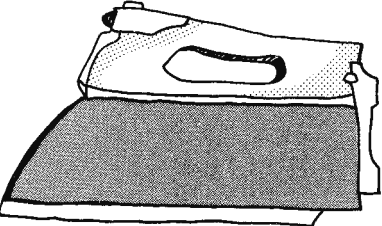
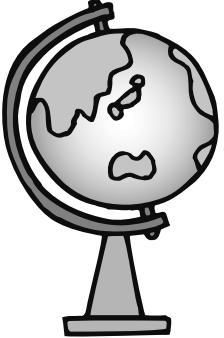
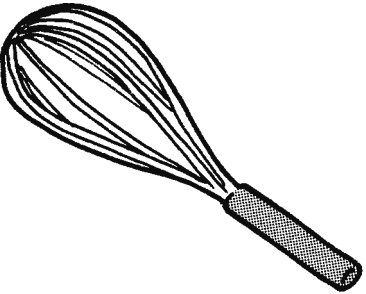
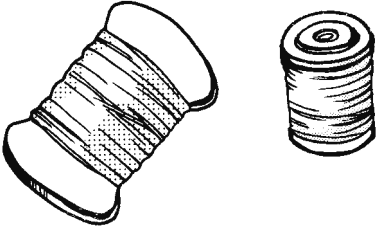
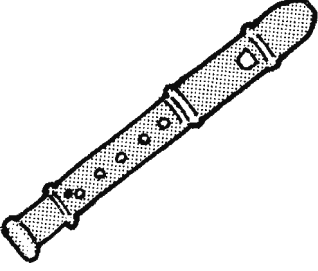
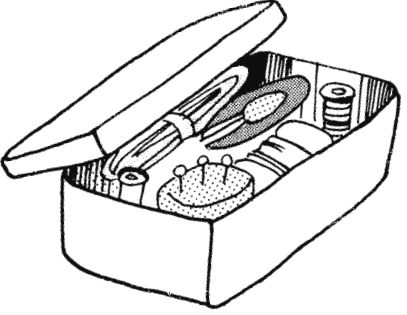
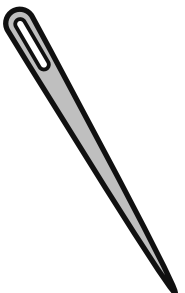
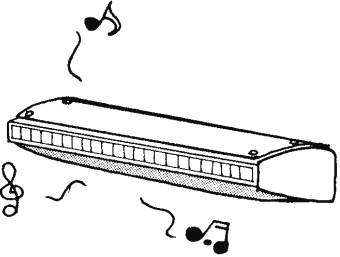
I - ㉒

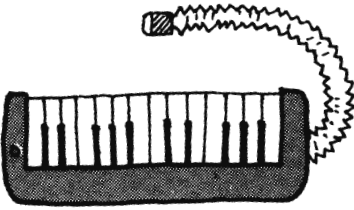
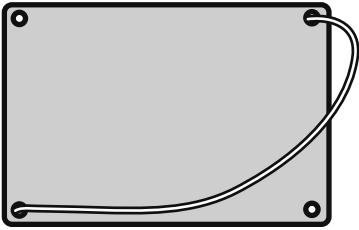
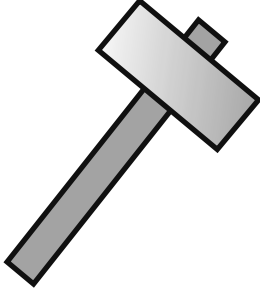

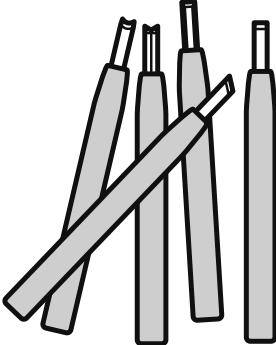
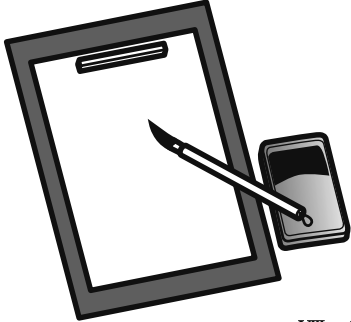
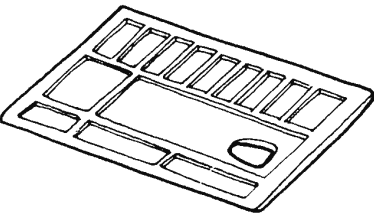
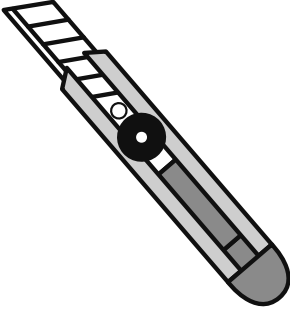
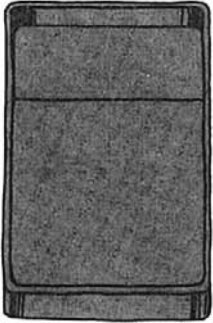
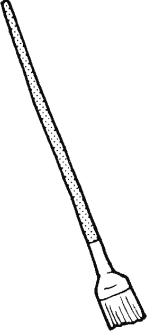
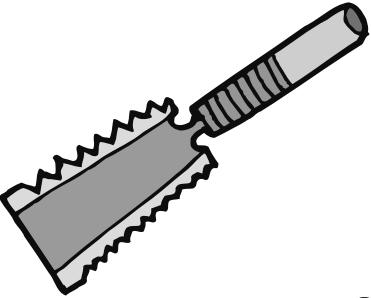

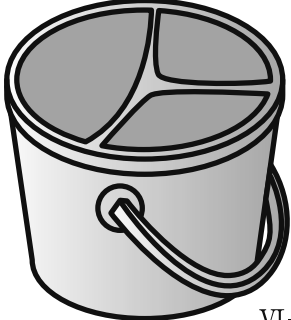
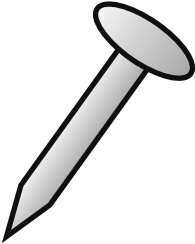
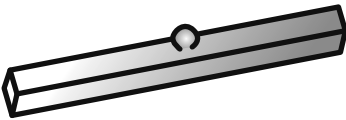


II - ④



III - ⑤

| | | |
|--|---|--|
|  <p>III - ⑥</p> |  <p>III - ⑪</p> |  <p>III - ⑯</p> |
|  <p>III - ⑦</p> |  <p>III - ⑫</p> |  <p>IV - ①</p> |
|  <p>III - ⑧</p> |  <p>III - ⑬</p> |  <p>IV - ②</p> |
|  <p>III - ⑨</p> |  <p>III - ⑭</p> |  <p>V - ①</p> |
|  <p>III - ⑩</p> |  <p>III - ⑮</p> |  <p>V - ②</p> |

| | | |
|--|---|--|
|  <p>V- ③</p> |  <p>VI- ⑤</p> |  <p>VII- ③</p> |
|  <p>VI- ①</p> |  <p>VI- ⑥</p> |  <p>VIII- ①</p> |
|  <p>VI- ②</p> |  <p>VI- ⑦</p> |  <p>VIII- ②</p> |
|  <p>VI- ③</p> |  <p>VII- ①</p> |  <p>VIII- ③</p> |
|  <p>VI- ④</p> |  <p>VII- ②</p> |  <p>VIII- ④</p> |

教科関連 絵カード 索引

I. 理科

- ① じしゃく
- ② 方位磁針
- ③ 顕微鏡
- ④ カバーガラス
- ⑤ スライドガラス
- ⑥ フラスコ
- ⑦ ビーカー
- ⑧ メスシリンダー
- ⑨ ろうと
- ⑩ 試験管
- ⑪ 虫めがね
- ⑫ 温度計
- ⑬ 上皿てんびん
- ⑭ 分銅
- ⑮ ピンセット
- ⑯ アルコールランプ
- ⑰ ガスバーナー
- ⑱ スタンド
- ⑲ 電流計
- ⑳ 豆電球
- ㉑ 乾電池

II. 算数

- ① 三角定規
- ② 分度器
- ③ 定規
- ④ コンパス

III. 家庭

- ① なべ
- ② まな板
- ③ フライパン
- ④ ざる
- ⑤ ボール
- ⑥ 包丁
- ⑦ しゃもじ
- ⑧ 玉じゃくし／おたま

- ⑨ 泡だてき
- ⑩ さいほう道具
- ⑪ ものさし
- ⑫ へら
- ⑬ アイロン
- ⑭ 糸
- ⑮ 針
- ⑯ ミシン

IV. 社会

- ① 地図
- ② 地球儀

V. 音楽

- ① リコーダー
- ② ハーモニカ
- ③ 鍵盤ハーモニカ

VI. 図工

- ① 絵の具
- ② パレット
- ③ 筆
- ④ 水入れ
- ⑤ 画板
- ⑥ 彫刻刀
- ⑦ カッター

VII. 技術

- ① のこぎり
- ② くぎ
- ③ かなづち

VIII. 習字

- ① 習字セット
- ② すずり
- ③ 筆
- ④ ぶんちん

著 者

鹿嶋 恵 (三重大学 国際交流センター 元准教授)

石川 博子 (三重大学 国際交流センター 元非常勤講師)

イラスト

三重県立飯野高等学校絵画部 卒業生

石川 貴子

新版 いっしょに まなぼう 続 みえこさんの 日本語
指導のアクセス

2007年5月30日 初版第1刷発行

2015年4月30日 第2刷発行

2018年6月20日 第3刷発行

著 者 鹿嶋 恵 ・ 石川 博子

著作権者 公益財団法人 三重県国際交流財団 (MIEF)

発 行 者 公益財団法人 三重県国際交流財団 国際教育課

〒514-0009 三重県津市羽所町700番地 (アスト津3F)

TEL 059-223-5006 FAX 059-223-5007

URL <http://www.mief.or.jp>

印刷・製本 合資会社黒川印刷

ISBN978-4-990335-01-4-C0081

